

# 聖徒の道 10 1975

◇日本地域総大会特集号◇



“私たちの心にまかれた証の種は、  
決して枯れることはない”

待望久しかった末日聖徒イエス・キリスト教会日本地域総大会も、数多くの祝福を残してその幕を閉じた。今月号は、地域総大会での教会幹部、指導者の全説教、証の特集である。

大会では愛と力とみたまに満ちた神の予言者の声にじかに触れ、新たな決意のもとに人生への再スタートを切られた方も多いことだろう。今や教会は全世界に救いの手を伸べつつある。事実大管長会は去る9月16日に、来春早々南太平洋地域で新たに8つの地域総大会を開催することを発表した。

ここで大会のあのスピリットを思い起こし、説教を一つ一つじっくり読んでいただきたい。東京神殿の建設、アジアへの伝道と、私たち日本の聖徒に対する主の期待には測り知れないものがある。尽きることを知らない神の愛、そして高らかに鳴り響く真理の足音。私たちの心にまかれた証の種は、決して枯れることはないのである。

も く じ

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール  
N・エルドン・タナー  
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン  
マーク・E・ピーターセン  
デルバート・L・ステイプラー  
リグランド・リチャーズ  
ヒュー・B・ブラウン  
ハワード・W・ハンター  
ゴードン・B・ヒンクレイ  
トーマス・S・モンソン  
ボイド・K・パッカー  
マービン・J・アシュトン  
ブルース・R・マッコンキー  
L・トム・ペリー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ  
(内務伝達部長)  
ジョン・E・カー  
(配送翻訳部長)  
ドイル・L・グリーン  
(教会誌編集主幹)  
ダニエル・H・ラドロウ  
(教会教課企画調整主任)

国際機関誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木 沼 修

神殿を建てる民	スペンサー・W・キンボール	418
福音の律法に従おう	エドワード・Y・岡崎	421
教会福祉プログラム	神尾 昇	422
主に尋ねる	セオドア・M・バートン	424
青 写 真	スターリング・W・シル	427
神はこの国にみ手を置いておられる	ゴードン・B・ヒンクレイ	431
両親には子供たちを教える責任がある	O・レスリー・ストーン	434
模 範	アドニー・Y・小松	436
忠実なしもべ	J・トーマス・ファイアンズ	438
みたまは証する	ジェームス・A・カリモア	440
福音を教えるための主のプログラム	マリオン・G・ロムニー	444
幸福な家庭の土台	ゴードン・B・ヒンクレイ	447
扶助協会—真の幸福をもたらす生活への指針	バーバラ・B・スミス	449
忌まわしいこと	スターリング・W・シル	451
子を教えよ	スペンサー・W・キンボール	452
約束された将来	エズラ・タフト・ベンソン	455
あなたの霊を強めなさい	H・パーク・ピーターソン	458
人生は価値ある旅路です!	ポール・H・ダン	460
兄弟たちを強くすべし	マービン・J・アシュトン	462
おのれを清く保て	スペンサー・W・キンボール	463
神権と福音の誓約	マリオン・G・ロムニー	466
神権のもたらす恵み	スペンサー・W・キンボール	468
教会役員の手配	マリオン・G・ロムニー	471
証とそれを得る方法	マリオン・G・ロムニー	472
福音の基	柏 倉 仁	476
真理は人を変える	渡 辺 驥	477
最も大いなる贈り物	ポール・H・ダン	479
大いなる価値	マービン・J・アシュトン	481
邪悪に立ち向かう力	エズラ・タフト・ベンソン	484
私が目にした最大の奇跡	菊 地 良 彦	487
聖典を読もう	アドニー・Y・小松	490
証	O・レスリー・ストーン	492
心を備えよ	スペンサー・W・キンボール	493

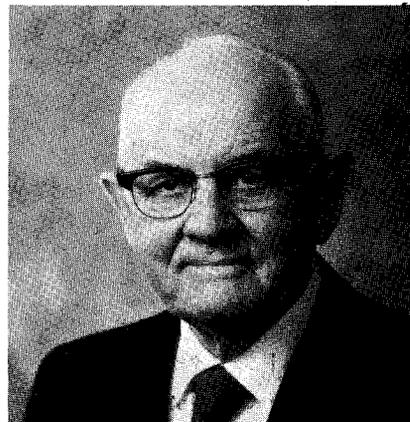
聖徒の道 10月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
東京都港区南麻布5-8-10  
配 送 東京ディストリビューション・  
センター  
東京都港区南麻布5-10-25  
定 価 年間予約 1,700円 1部 150円  
海外予約 2,200円

# 神殿を建てる民

大管長

スパンサー・W・キンボール



**愛**する兄弟姉妹の皆様。

私たちは全世界の教会員から挨拶を携えて参りました。世界各地の教会員と指導者からの愛をお伝えしたいと思います。

皆様方が大挙して教会本部を訪れることが不可能な状態にあるため、私たちが皆様の国を訪れ、地域総大会を開くことになりました。この大会において教会の大管長会と幹部に会い、私たちの話を聞き、さらには教会幹部を支持する挙手を行ない、神の王国とその業について皆様が心に感じておられることを表明していただきたいと思えます。

御承知のように、すべての教会員はソルトレーク・シティーで開かれる総大会に招かれています。しかし、遠距離であることや、費用の関係で、皆様方全員がソルトレーク・シティーを訪れることは不可能ですので、私たちが定期的に皆様のもとを訪れることになりました。この大会を通じて皆様が喜びと満たされた気持を抱き、証が強められ、全世界に及ぶ偉大な教会の一員であってしかも重要な一員であることをはっきり知っていただければと願っています。

5年程前に私たちは日本を訪れ、この国における最初のステーク部を組織致しましたが、わずか5年の間に教会がこれほど発展するとは考えていませんでした。1958年以前は、北アメリカ以外にステーク部はありませんでした。

その後17年間に、私たちは121の新しいステーク部を組織し、教会員のために祝福の道を開いて参りました。日本に3つ、韓国にひとつ、フィリピンにひとつ、そして世界の他の地域に100以上のステーク部を組織致しました。

また現在全世界には700以上のステーク部と133の伝道部があり、約2万人の宣教師が働いています。その内の約1,400名は地元出身の宣教師です。

10年前の全教会の会員数は、わずかに250万人でした。しかし今日では教会ユニットは7,000から8,000に及び、約350万人の会員を数えています。

その間私たちは毎年、10万人からの改宗者を得て参りました。そして現在、ステーク部と伝道部は広く世界に及んでいます。

私たちにとって誇りとすべきことがもうひとつあります。それは、教会のステーク部と伝道部には約7,000ものワード部と支部がありますが、そのほとんどを地元の指導者が効果的にまた能率的に管理しているということです。地元の指導者は、折に臨み、また必要に応じて立派にその務めを果たしているのです。

私が生まれた当時、教会員は全世界で20万8,000人でした。またステーク部はわずか37に過ぎず、その内カナダとメキシコにひとつずつあるだけで、残りはすべて西部のロッキー山中にありました。確かに主は、オリブ山に立って、使徒たちを全世界に遣わされた

とき、限りないビジョンを抱いておられたに違いありません。主は「全世界」という言葉を使っておられ、限界を設けられませんでした。(マルコ16:15参照)

私たちはかつて経験したことのない大きな一歩を踏み出しました。私たちは大都市、大平原、高い山々、数え切れない島々、そして人々の間に足を踏み入れ、数百万の善人をキリストのもとに招いて参りました。その数はこのアジア地域だけでも約6万2千人にのぼります。

この世におけるキリストの最後の教えを聞くために、キリストに従ってオリブ山に登った人々はわずか11人でした。また、キリストが主であることを認めていた人々は広く各地にいましたが、その数は少なかったと思われます。今日、このアジアにおいて主に従う人々は、オリブ山で神聖な出来事が起こった当時全世界にいた主に従う人々よりも、恐らく数においてまさっていると思われます。キリストはその足もとにいる使徒たちにお話しになったとき、キリスト御自身は御存知でしたが、使徒たちは福音と教会には無限の可能性があることに気づいていなかったに違いありません。

教会は初期の時代には、オハイオ州カートランドにその中心を置き、次いでイリノイ州ノーブー、そしてユタ州ソルトレーク・シティーに移りました。また教会には、合衆国西部に隣接する

諸州で急速に発展した後、ロッキー山間地方、次いで太平洋沿岸地方、さらには北アメリカ全域に及び、現在では全世界の主要な地域で発展しています。

私たちは、ステーキ部長会、伝道部長会、そのほかすべての指導者と教会員をこの大会にお招き致しました。それは、主と主の計画とを知っていただくためです。

「われ創世の前より隠されたること、すなわち時満ちたる神権の時代に関することをわが教会に示さんと図ればなり。」(教義と聖約 124 : 41)

主は、その目的のために主のみ名によって建てられた宮居で民にこの真理を明らかにすると仰せられました。灌油の儀式、死者のためのバプテスマ、聖会、記念と神託、これらはすべて聖なる場所である神殿において行なわれるものであり、またシオンの基に関する啓示も神殿で与えられるのです。このようにすべての神聖な事柄は、主が建てよと命じられた建物の中でのみ扱われるのです。

主は回復の時代の初期に、自ら次のように述べておられます。

「われは、神の子イエス・キリストなり。この故に汝ら腰をひきからげよ。さらば、われにわかにならば神殿に来らん。誠に然り、アーメン。」(教義と聖約 36 : 8)

「……わが民を救わんがためにこれをなすなり。」(教義と聖約 42 : 36)

主はミズーリ州インデペンデンスやその他の地を神殿用地としてお選びになりました。

主は、主の長老たちがエンダウメントと祝福を受けることができるように、オハイオ州カートランドに神殿を建てるよう命じられました。

そして民が定着し、教会の組織がさらに充実すると、主は時を移さず予言者たちに啓示を与えて、神殿を建てるように命じてられました。

主は民が所有していた金、銀、宝石、古代の遺物、貴重な木、鉄、銅、真鍮、亜鉛について次のように仰せられました。

「而してわが名により、最と高き者の住むべき一つの宮居を建てよと。

そは彼来りたもうて、汝らのすでに失いたるもの、すなわち彼の取り去りたまひしもの、すなわち完全なる神権を再び回復したもう土地はこのほか世に一つもあらざればなり。

そは彼ら、すなわちわが聖徒らが死者に代りてバプテスマを受くるための浸札盤世になければなり。」(教義と聖約 124 : 27—29)

主は、いつの時代も主の民が神殿を建ててきたことをはっきりと告げておられます。主は次のように仰せられました。

「この故を以て、われモーセに荒野に在りて共に運び歩くよう幕屋を造るべし、と命じたり。」(教義と聖約 124 : 38)

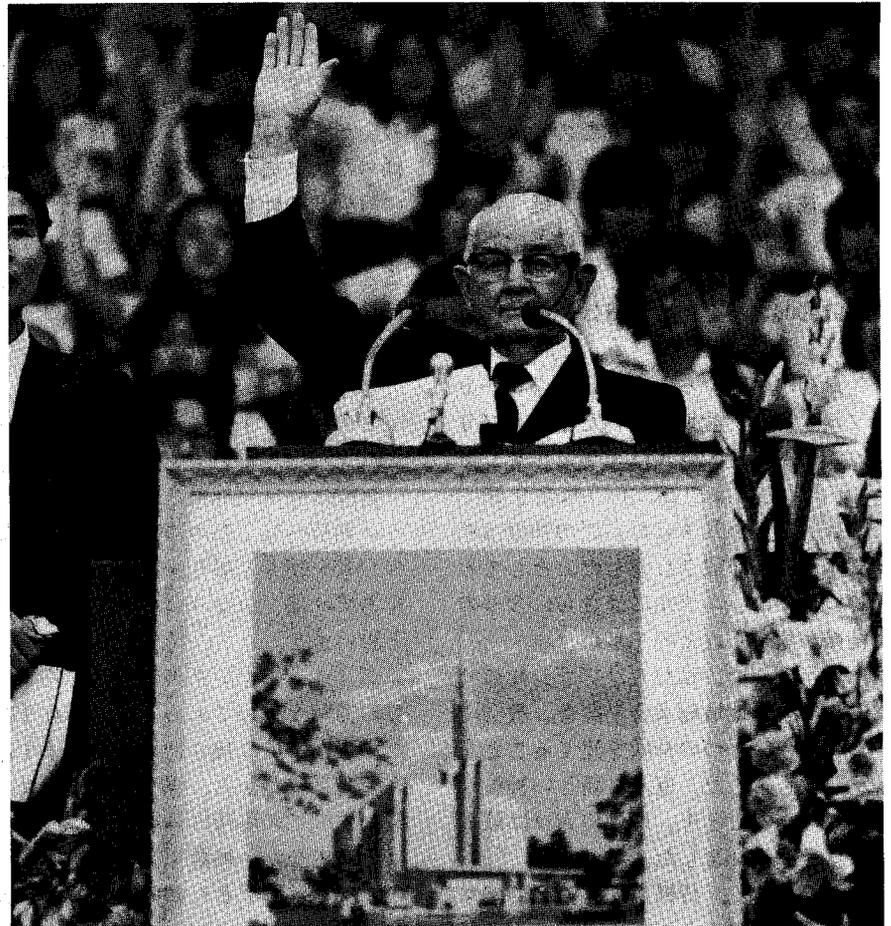
「されど、もしわが家汚さるる時はわれその中に入り来らじ、さればわが栄光その家にあらざらん。そは汚れたる神殿には、われ入るを欲せざればなり。」(教義と聖約 97 : 17)

このため、善良な民の犠牲と非常な努力によって、オハイオ州カートラン

ドに神殿が建てられました。そして完成後、1836年3月27日に、予言者ジョセフ・スミスによって献堂されました。次いで予言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、この神殿内で驚嘆すべき示現を受けたのでした。救い主イエス・キリストがふたりを訪れ、それまで地上から取り去られていた多くの大切な真理を明らかにされたのです。

民はミズーリ州を追われ、イリノイ州に移り住むと、すぐさまもうひとつの神殿、すなわち民が祝福を受ける宮居の建築に着手しました。

この壮大な建物の建築には、多くの費用と時間、それに非常な労力を要しました。神殿の完成を間近に控え、一部の献堂を終えたころ、ノーブーからの追放にあい、何万という会員たちが神殿や公共の建物、家庭、畑、そして約束の地を追われたのでした。ノーブー市はわずか7年で滅びてしまいました。そして、世界の歴史上最大の脱出が始まったのです。善良な民は約2,400キロに及ぶ道のりを徒歩で進み、



丘や谷、川を越え、山を登り、病気や飢え、疲労、凍結、インディアン、野獣、酷暑と厳寒にいどんだのでした。

当時は、汽車も飛行機も船もなく、もちろん皆様の国にあるような新幹線もありませんでした。ノーブーからソルトレーク盆地までは、非常に長い旅でした。

民は牛や馬を集め、幌馬車を用意して持てるだけの荷物を載せて、氷結した北米最大の川を渡って、グレートソルトレーク盆地の約束の地を目指して西へ西へと旅したのです。

牛や馬さえ持たない人も大勢いました。けれども約束の地にどうしても行きたいという気持が強く、彼らは二輪の手車を作って、それを引いて全行程を徒歩で旅したのです。

6,000人を越える人々が旅の途中で平原に葬られました。この旅は非常につらいもので、亡くなった人々は道の傍らに葬られたのです。

この不毛の地を横切った手車隊は10隊ほどありました。これらの善良で勇敢な人々は、飢えや病気、渴き、降雨、極度の疲労、かなえられない望み、このような現実の只中で、ほぼ3ヵ月間も道なき平原を歩き続けたのです。これらの人々は強い証を持っていました。彼らが歩いた道のりは、延べにすると、地球を2,000周するほどの距離になります。

91,000名ほどの教会員は、帆船で大西洋を渡りました。

最初の隊がやっとの思いでグレートソルトレーク盆地に着いたとき、ブリガム・ヤング大管長はステッキを立てて、「私たちはここに主の神殿を建てよう」と言われました。この神殿は約40年かけて建設されました。そしてその建築中に、ユタ州にはさらに3つの神殿が建てられたのです。

今年の初め、私たちはブラジルのサンパウロで地域総大会を開き、教会のために今ひとつの神殿を建てることを承認致しました。南米に新しい神殿が建てられることを、地元の人々は歓喜して受け入れました。

さてここで、皆様方とアジアの国々および世界中の人々に、非常に大切な

事柄をお知らせしたいと思います。昨日私たちは、ステーキ部長、伝道部長、その他の指導者と集会を開き、この極めて重要な事柄について話し合いました。十二使徒であったマシュー・カウリー長老は、アジアと日本に神殿が建つことを予言致しました。そして、私たちの多くは、この地に神殿を建てることのできる時を、待ち望んでいました。そこで私たちはこの会場にお集りの皆様に、全アジアのため日本の東京に神殿を建てることを提案致します。この提案に対する賛否を表明する前に、新しい神殿の建築予想図を、ご覧に入りたいと思います。建築用地はすでに教会の所有となっています。

その住所は東京都港区南麻布5-8-10です。この建築計画については、すでに東京都より認可を受けています。この美しい神殿は完成しますと、日本の教会員ならびに他のアジアの国々から訪れる教会員のために使用されることとなります。この神殿の建築にあたっては、地元の方々に建築資金の一部を負担していただきたいと思います。皆様はすぐにも献金を始めて下さればと思います。神殿建築の費用は大半を教会が受け持ちます。この費用は、皆様のために犠牲をお払いになる全世界の教会員の什分の一から支払われることとなります。日本に神殿を建設することならびに神殿事業を支援することに賛成下さる方々は、右手を挙げてその意を表わして下さい。

どうもありがとうございました。

このためにすぐにも貯金を始めていただきたいと思います。

皆様はハワイ神殿あるいはソルトレーク神殿へ行くために、これまで多額のお金を使って参りました。この費用をあてれば、かなりの貯金ができるかと思えます。

ブリガム・ヤング大管長は、将来数百の神殿が建つであろうと言われました。現在すでに16の神殿があります。当然のことながら、現状では、人々が望むすべての場所に神殿を建てることはできません。神殿を人で満たし、その運営を継続するためには大勢の会員が必要です。

しかし私たちはお約束申し上げます。人々に備えができたときに、数多くの神殿が与えられることでしょう。私たちがこのたび訪れているこのアジアの地域には、現在約62,000名の教会員がいます。皆様はステーキ部長に、あるいは伝道部長にすぐにも献金を始めていただきたいと思います。そうすれば、皆様には納めた金額の領収書が発行されます。

皆様は、主イエス・キリストがニコデモに語られた言葉を覚えておられると思います。主は次のように仰せられました。

「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)

教養豊かなニコデモがこの言葉を理解できなかったことを、主は意外に思われたようです。

主イエス・キリストが十字架にかけられ、まさに死なんとしたときに、同じく十字架にかけられていた盗人のひとり为主に、「あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」と声をかけました。そして主はそのことを約束なさいました。しかし後に園でマリヤと語られたときには、まだ天父のみもとに上っていないと言っておられます。主はそのことを説かれ、ペテロはそれを私たちに次のように語っています。

「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。

こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。

これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。」(Iペテロ3:18-20)

ペテロはまた、死者のための業が大

切なことを次のように宣べています。

「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」  
(Iペテロ4:6)

この理由から、私たちは歩みを早めて、この世の大勢の人々に福音を宣べ伝え、また系図探求を行ない、主の神殿において死者のための業を行なっているのです。

主はまた、獄中の捕われ人のために門戸が開かれる必要のあることを述べたイザヤの言葉を引用なさいました。

私たち、主の教会の会員が十分に信頼されるに足る者となって、福音を宣べ伝え、神権を授け、霊界にいる人々のために門戸を開かなければならない理由はここにあるのです。

パウロの語った次のような言葉も覚

えておられると思います。

「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」  
(Iコリント15:29)

今私たちは皆様と共に喜んでいきます。そして、皆様がこの素晴らしいみ業の中にあつて皆様の心の望みがかなえられますよう、主の祝福と、主が下さる繁栄を祈っています。すべての幼な子、すべての若人、すべての成人が、この偉大なみ業に貢献していただければと願っています。また、すべての教会員は清く徳高く生活し、神殿が完成した暁にはその宮居に参入できるようにしていただきたいと思ひます。

イザヤは次のように記しています。  
「主の器をになう者よ、おのれを清

く保て。」(イザヤ52:11)

さて私たちは、すでに世を去った人々のために神殿を建てるという偉大な事業を始めようとしています。皆様が住んでおられる地域に神殿を建てるよう靈感を与えて下さったことに對し、心からの感謝を主に示して下さいと思ひます。皆様の家庭に、家族に、また個人の生活において主が皆様方すべてを祝福され、シオンがこの地に確立されるよう、私たちは祈つてやみません。ここで私の証を申し上げます。この神殿の業は真理にかなった業です。予言者ジョセフ・スミスと他の指導者たちに啓示されたその他の業もすべて真理に基くものです。私はこれが主のみ業であることを知っています。

イエス・キリストのみ名によって証申し上げます。アーメン。

8月9日(土) 一般大会午前部の部における説教



## 福音の律法に従おう

十二使徒評議員会地区代表

エドワード・Y・岡崎

**愛**する兄弟姉妹の皆様、お早うございます。これほどたくさんの方々がイエス・キリストの福音に興味をもって、御家族共々集っている光景は何と素晴らしいことでしょうか。また神殿が日本の地にできることはまことに素晴らしいことで、日本人のために、アジアの人々のために大きな祝福が与えられたことを心から感謝します。

この大会は歴史的な出来事であるばかりでなく、私の生涯にとって、最も幸せな時であります。74年前、すなわち1901年、日本に初めての宣教師が召されて以来、教会の大管長と幹部を迎えて地

域総大会が開かれるのは、日本の教会史上ではじめてのことです。なぜ、この日が私の生涯にとって最も幸せな日かと申しますと、日本の教会の発展のために大きな貢献をされた方々と共に、この大会に出席しているからです。発展と成功の鍵はあなた方の深い福音への信仰と戒めに対する従順さ、指導者への信仰深い支持であります。それから、宣教師に対する皆さんの愛と援助、求道者への歓迎と友情、そして福音にそつた日常生活の模範であります。こうした成長と発展の背後には、指導者とその家族、また宣教師とその御両親

の偉大な犠牲の賜があったからです。この素晴らしい機会に心からの敬意を表したいと思ひます。こうしたすべての努力がこの偉大な地域総大会という形で報われているのです。この大会でお話する機会をいただき、心から感謝しています。私たちは予言者を通じて、今が末の日であることを教えられています。ですから、主イエス・キリストの再降臨に備えなければなりません。一体備えとは何を意味するのでしょうか。

マタイ伝25章の十人のおとめのたとえ話を御存知でしょう。兄弟姉妹、主

の再降臨に備えて皆さんはどのように準備しておられますか。什分の一の律法を御存知でしょう。皆さんは什分の一をきちんと払っていますか。従順の律法を御存知でしょう。皆さんは神様の戒めに完全に従っていますか。支持の律法を御存知でしょう。皆さんは皆さんを管理するすべての監督や支部長を心から支持していますか。実行の律法を御存知でしょう。皆さんはイエス・キリストの福音にそった生活をしていきますか。主イエス・キリストの生活は心臓と同じように、皆さんの体の中でもっとも大切なものになっていますか。知恵の言葉を御存知でしょう。皆さんはいつどこにあっても知恵の言葉を守り通していますか。愛の律法を御存知でしょう。皆さんは、自分自身を愛するように、隣人を愛していますか。皆さんは自分の妻や夫や子供たちや御両親やそして兄弟を愛し尊敬していますか。聖句を毎日読むように教えられま

したね。教会の基準にそった日常生活をするように教えられましたね。皆さんは自分をそのように訓練していますか。神殿に行かれた方々は、手を上げて主と誓約をかわしましたね。皆さんは今も神殿での誓約を守り通していらっしゃいますか。感謝の気持で什分の一を納めることを初めとして、これらすべての神様の戒めを守るたびに皆さんはランプの油をさし続けているのです。やがて主の再降臨があり、主がこの地を統治されます。花婿が来たとき油をいっぱい備えていた賢いおとめたちと同じように、皆さんも油がいっぱいに入ったランプを備えることができるようにお祈りします。

私は福音が真実であることを証します。神様は私たちのお父様です。天の神様は私たちを大変愛していらっしゃいます。神様は教会を設立するためにイエス・キリストをこの地上に遣わされました。長い背教の後、神様はこの

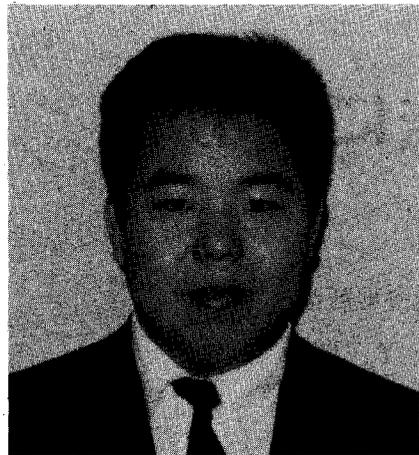
末の日に予言者ジョセフ・スミスを通して教会を回復なさいました。私はスペンサー・W・キンボール大管長が、神様が啓示を与えられる現代の予言者であることを知っています。もし私たちが予言者の警告に聞き従い、福音の律法に従順であれば、主イエス・キリストが来られるとき、私たちのランプは油がいっぱいに入っており、主にまみえることができることを証します。私の身も心も、皆様と同じように日本人です。兄弟姉妹、この大会に出席したことを契機に、共に神様の戒めにそうべくこれまで以上の決意を固めようではありませんか。そして神様のみ前で再会できるように、ランプに油を満たし続けようではありませんか。主のみたまが常に皆さんの上にあるようにお祈りし、イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

8月9日(土)一般大会午前部の部における説教

## 教会福祉プログラム

日本大阪ステークス部部長

神尾昇



**先**頃、アメリカ合衆国ユタ州を訪問しましたときに、私は強く感銘いたしました。と申しますのは、当地での福祉プログラムが誠に神様からの啓示に基づいた素晴らしいものであることを知ったからです。

ソルトレーク・シティでは、小麦、ミルク、パン、缶詰食品、それに石けんや靴など、あらゆる生活必需物資を生産する福祉生産工場が各所にあります。そこで作られた各種製品はすべて、生活に困っている教会員に責任者を通

して無償で提供されています。また驚いたことは、教会員以外の人たちにもそれが行なわれていることでした。

末日聖徒イエス・キリスト教会が、神様の啓示により物心両面で人々に救いをもたらす福音を実践していることを自分自身の目で確かめることができ、感謝しております。

私がそれらの福祉工場を視察していて、最も感激したことがあります。それはその工場に働いている多くの人々の姿を目にしたことです。ある工場で

は90歳にもなる高齢の姉妹が、旧式のはた織り機でドアマットを織っておられましたが、その光景は本当に素晴らしいものでした。その姉妹の姿が実に生き生きとしているのです。高齢で身寄りのない老人とはとても思えません。その姉妹の姿は生きる喜びに満ちあふれており、気高きさを感じさせられました。この老姉妹は自分の責任を良く理解しており、自分の仕事について大きな誇りを持っているようでした。



私たちの教会が唱えている福祉とは、貧しい人たちに単に物を与えるだけのものではありません。その基本を自立精神の育成にしています。貧しい人たちに単に物を与えるだけでは、その場はそれで満たされますが、いつまでたってもその人に自立の精神は養われません。自分が必要とされているということを本人に理解させてあげることが、その人をどれほど勇気づけ、生きる喜びを与えることになるか、私はよく理解することができました。

「わが子羊を養え……」とは、真に主のみ言葉ですが、必要とされるならば、必要なものを必要なだけいつでも提供できるのが、この教会の福祉計画です。私はこの素晴らしいプログラムが、ソルトレーク・シティーで完全に実施されているのを見て参りました。そしてこれらのプログラムは、すべて兄弟愛と相互の犠牲の精神を根本にしています。またそれと共に自立精神をも基本にしているのです。

かねてより予言者は私たちに、「1年分の食糧や生活必需物資を貯蔵するように」と勧告しています。どうかこの予言者の言葉に従順に、忠実に従って下さい。モルモンとは、明るく朗らか



な民であり、正直な誠実な民であり、従順で忠実な民であります。主の戒めに完全に従っている民であります。予言者、教会の指導者、国の権威に従順な民であります。

今、この日本の地でも、教会の福祉プログラムが始められようとしています。しかし、これを成功へ導くのは、皆さん一人一人の自立精神であり、相互の犠牲の精神であります。私はこの日本でもソルトレーク・シティーのような素晴らしい福祉プログラムが必ず実現されるものと確信しています。家庭の夕べによって各家庭の中に愛を育て、福祉プログラムにより物心両面でも福祉がもたらされるというのが、神様の考えであり、この教会の教えであ

ります。

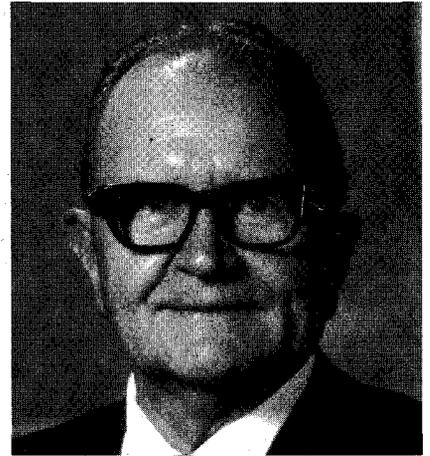
家庭の中にあっては、家長である父親を中心にして、正しい神権管理のもとに信仰が築かれ、福音が実行される時に、大きな導きと祝福があることを証いたします。明るい家庭こそ限らない明日の日本の基礎になると確信しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会の教えは、真の平和、家族の団結をすすめ、勇気をもって今日正しく生きる方法を教えてくれます。スペンサー・W・キンボール大管長が、生ける予言者であることを心から証いたします。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

# 主に尋ねる

十二使徒評議員会補助

セオドア・M・バートン



兄弟姉妹、友人の皆さん、先日、北アフリカの悲惨な飢饉の記事を読みました。何千人もの人が、食料不足のために餓死したとありました。この記者は、人々の飢えや死の原因は、人口過剰にあると指摘しました。人口が増えすぎて、農業生産で支えることができなくなったというわけです。また記者は、この地方の旅行談をつぶさに書いています。

私はこの記事をよんで、その誤った結論に失望を感じました。彼はこの地方の民族は、家畜の飼料用の水を、雨水に頼ってきた原始人であると言っています。

以前、この地域では、樹木やかん木や青草で家畜を養っていましたが、家畜が増えると、その群れが青草を食い始め、それを食いつくすとかん木を、さらに、かん木も皆食べてしまうと、人々は樹木を切り倒して、その葉を家畜に与えました。こうして緑が皆なくなると、土を固定しておくものが失なわれ、砂風が吹き荒れるようになったわけです。その結果、雨が降ると洪水が起きて、残った土も流され、人々や家畜の死を招いたのです。今ではその土地も、荒地や砂地と化し、かんばつが続くようになりました。記者はこれらの原因は人口の過剰にあると述べています。

この記事をよんで、この記者の誤った結論に大変驚きました。この災害の原因は人口過剰ではなく、無知なので

す。災害の真の原因を見極めもしないで、すべてを人口過剰のせいにしていきます。

問題は、人口過剰ではなく適切な農耕法を知らなかったことによるのです。人々はいつまでたっても進歩せず、昔ながらの能率の悪い農作業に頼っていました。もし、この人々が、土地利用や土壌管理、養分供給や農作物の使用、また土地、水、家畜の管理などについて正しく教えられていたなら、この災害は避けられたはずで、真理はあっても、それを知らなかったために、餓死してしまったのです。

神は多くの真理を備えられましたが、私たちがその扱い方を知らず、利用しない限り、真理も役に立ちません。耳を傾けなければ、また理解しないとしたら、知識は何の用をなすでしょうか。パウロは次のように神から来る知識について、ローマ人に説いています。『主のみ名を呼び求める者は、すべて救われる』とある。しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることができるか。聞いたことのない者を、どうして信じることができるか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことができるか。」(ローマ10:13, 14)

この点は霊的知識も、この世の知識も同様に真実であると言えます。知識は実践するとき力となりますが、まずそれを知る必要があります。主が予言者を送り、人々に真理を教えられるのもこのためです。時には、神の予言

者が存在し、神が子供たちを愛している、このような知識を送られるなどということをはなかなかに信じられないかもしれません。

創世の昔、人は皆、神について知っていました。アダムやイブが、自分の経験から、神について教えたからです。家族が増えて、子供たちが親に不従順になるにつれ、彼らは神を離れ、神を信じないようにになりました。こうして、神の知識はある人々から失われ、この世に罪や苦悩や不幸がもたらされました。

それでも神は子供たちを愛しておられます。私たちが神の喜ばれないことをするとき、神は悲しまれますが、愛することをやめたり、みそばに引き上げる努力をやめられたりすることはありません。私たちは皆、神の子ですから、神は折にふれて、予言者を送り、地上に光や知識をもたらされるのです。

その予言者が皆さんのもとに送られました。皆さんが特別の子供だからです。皆さんは、予言者が真理について証をしている今日、それに耳を傾ける特権があります。予言者たちの語る神の言葉に耳を傾けるならば、霊的な面での真理だけでなく、この世についての真理や知識もみい出すことでしょう。

またこの教えから、さらに健康になり、さらに幸福になり、日々の必要や家族の必要を充たすのに十分なものが得られるでしょう。神の教えに心から

従うなら、神は皆さんや、家族に天の窓を開かれ、あふれる程の祝福を与えて下さることでしょう。

ではなぜ世の人々はこの知識を受け入れないのでしょうか。またなぜそれから利益を受けようとしらないのでしょうか。大部分は、無知や無関心が原因です。人々は神が存在し、人々を愛しており、幸福になる方法を告げる使者を送られたことを素直に信じようとしません。私たちは、自分の生活に安住し、親や隣人の伝統に縛られて、容易に生活を変えようとはしません。偏見を持っていたら、決して学ばません。誰かが新しい知識を持ち込んでも、周囲の慣行や信条に従おうとする傾向があり、自分で耳を傾けて、決断を下そうとはしません。伝統的な信条や慣行が、真実の原則なら、変える必要はありませんが、それがよいことかどうかは、少なくともそれを研究し、事の真偽を確かめてから、知ることができるのです。

モルモン経には、この原則の一例が記されています。神の予言者リーハイは、神から、破壊が迫っていると警告されたとき、神を信じました。リーハイは家族を連れてエルサレムを去り、神が正しい人のために備えられた地に向けて旅立ちました。この家族は、度々苦難に遭いましたが、これはすべて、彼らを安全な良い土地に導くためでした。この旅行中、息子のレーマンとレミュエルが父親に背き、父親が与えた教えを信じることを拒みしました。ふたり共、心がかたくなで、頑固であるばかりか、ことごとく神の道に反したことを行なおうとしました。リーハイは彼らをきびしくしかり、心を入れ変えて、神を信じるように言いました。神の教えに従って、神の加護を得て幸せになるようすすめたのです。それでも息子たちの争いは絶えず、父の教えに背いて、父が予言者であることを信じませんでした。これはちょっと変わった例ですが、神はすでに家族のために奇跡を行ない、またふたり共、父の言葉を証する神の天使さえも目にしたのです。しかし、頑固で無関心な彼らは、神の命令に従おうとはしませんでした。

父リーハイは、たとえを借りて、神は義しい人々をその地で守られると教え、かんらんの木のとえで、良い枝をつぐと良い実が得られると説明しました。木の根が弱くなった場合、野性の枝をついで、良い実を結ばせるといふものです。こうして、よく面倒をみれば、良い実がとれます。リーハイの言うこのかんらんの木のとえ話は、地上の義しい人々を守られる主の計画のことを言っています。このために彼らは旅立ち、忠実である限り、彼らとその子供たちに栄光ある将来が約束されたのです。

しかしながら、レーマンとレミュエルは、父リーハイの言葉に耳を傾けず、これを理解できませんでした。耳では聞いても、心では聞いていなかったの



です。一方弟のニーファイは、この真理を皆信じ、自ら主に祈り、父である予言者リーハイの教えたことを解き明かしてくれるようお願いしました。ニーファイはみたまに感じ、父親の教えてくれたことを悟りました。ニーファイは兄たちがそれについて言い争うのを聞いて、暗い気持ちになりました。そこで、兄たちに争論の原因を尋ねると、次のように答えました。「見よ、われらの父は『かんらん』の木の元の自然の枝と異邦人とのことについて話をしたが、その言葉は何のことだかわからない。」(Iニーファイ15:7) ニーファイは答えて、「それで私はあなたがたは主に尋ねたかと言ったら、兄弟たちは『主に尋ねてはいない。主はこんなことをわれわれに知らせないからである』と言った。」(Iニーファイ15:8,9)

この答えは、世界中の人々からよく聞きます。神は過去におけると同様に今日も予言者を通じて語っておられますが、人々はそのことを信じようとはしません。そのために現状に満足し切って、無知、盲目のうちに過ごしているのです。

偉大な予言者ニーファイは、兄たちの「神はそのようなことを人にはなされない」という言葉を聞き、これに対して、偉大な真理を教えました。神のみ言葉を引用して、ニーファイは次のように答えました。

「もし汝らその心をかたくなにせず、答えを受くと信じ、固き信仰を持ち、わ

が誠命を勤勉に守りてわれに願わば必ずこれらのことを汝らに示さるべし」(I ニーファイ15:11)

私たちは、神の命令に従い、みこころを行ない、それについて祈るならば、知識ばかりでなく、祝福も受けて、家族をさらに幸福にし、人生の大きな喜びを見出すことができます。神の戒めに完全に従った生活を送りさえすればよいのです。たとえ、光や知識を求め、自分の生活を変えようとしなければ、神の祝福ではありません。これは両親とても同じです。もし不従順な息子がいて、言いつけを守らなければ、相応の報いや祝福は与えられません。息子を愛していても、報いを与えるのは、彼が行ないを改めて、勤勉に従順になった時です。神との関係でも同じことが言えます。神の教えに従ってはじめ、さらに偉大な光と知識が与えられるのです。

天には、私たち一人一人の父であり、生命と行動の源である神が存在します。神は生きておられ、私たちを導く予言者を召されて、御自身をあらわされ、真理や知識を啓示されるのです。

私が考えますに、これ程、平安をもたらすメッセージは他にないと思います。神は生きておられます。私は孤独ではありません。私は神の子なのです。誰でもその心に神聖なきらめきがあります。これを皆、深く悟り、真の知識を持って欲しいと願っています。この知識は何という慰め、何という確信をもたらすことでしょうか。小さな例をあげて、神の啓示によって、いかに信仰の面で認識が深められるか、みてみましょう。

東洋には、両親と先祖を敬う伝統があります。これは本当にうるわしい伝統です。しかし、一体、何人の人が、この伝統の起源や存続理由を御存知でしょうか。この伝統は、神の神聖な真理に基づくものです。しかし、長年のうちに、この習慣の真の目的と理由が失われてしまいました。神はこの末日に予言者を通して、偉大な真理を示されましたが、それは、「私たちは皆、神の子」ということにつきます。

神権すなわち神の権能に基づく祝福

は、族長の権威によって私たちにもたらされます。私たちの血管を流れる血液は、私たちの実体に満ちている霊によく似ています。その霊が、神のみたまと交わって、その影響力を感じると、神の教えに従う、信仰と勇気がわいてきます。

こうして、血統により、私たちは、報いと祝福を受け、また神が約束された光と知識を受けています。これを「先祖になされた約束」と言います。

義なる両親に忠実になることによって、正統の権利や祝福を受けついで、子孫に伝えることができます。これこそ真の意味で、両親を敬うことなのです。幸いにも、日本には、両親を敬う習慣が残っています。この偉大な価値ある習慣を残すには、両親が、神に忠実でなければなりません。両親が、その光と知識を失い、神の戒めを守らないようになると、子供たちも離れて、祝福を受けられなくなります。そして闇に迷い込んでしまうのです。ですから、両親に従うことは、子供にとって、祝福にもものろいにもなるわけです。これはひとえに、光と、知識と、両親の行動にかかっています。

先祖が自らの力ではどうにもできない状況の下に置かれたために、神に関する教えを受け入れることができなかった場合でも、神はやはり彼らを愛し、決して拒まれないのです。このことは末日に与えられた啓示から明らかです。事実、神は、私たち子孫がその先祖を救える方法を備えて下さいました。

死んでも霊は生きていますから、霊界で、宣教師の教えを受けていることでしょう。先祖が霊界で、真理を受け入れて信仰を持てば、私たちが地上で身代わりの儀式を受けることによって、彼らも完全な栄光を受けることができます。ただし、福音を信じ、受け入れることが必要です。

ですから、祖先を敬うことは、真理が基になっているわけです。しかし、もっと先祖のために働く必要があります。思い出したり祈ったりするだけでは不十分です。地上で、実際に祖先のために働く必要があります。祖先には自分の手でできないことがあるからで

す。花やお供えではなく、祖先のために本当の犠牲を払って働かなければなりません。バプテスマや他の祝福を代わって受けることです。これを理解する時に、両親を敬う東洋の伝統も、真理が基礎になっていることがわかるのです。そして、ひとたび、本当の理由を理解すると、もっともっと先祖を敬うようになります。他の人たちは、ただ理由も知らずに習慣に従っているだけです。そのような人は、それ程先祖を敬っていません。でも真理を悟った私たちは、完全に敬うことができます。神の真の予言者を持つ価値は、ここにあります。

最初に申しましたように、知識に飢えることがないようにして下さい。神の望んでおられる豊かな家庭生活が可能となるよう、真理を求め、その知識を用いましょう。

証申し上げます。神は生きておられ、イエスは神の独り子であり、イエスのおかげで、私たちは、完全な祝福を受けることができるようになったのです。ジョセフ・スミスは確かに神と御子にまみえて、言葉を交わし、また確かに私たちを神のみ前に導くための権能を授かりました。

この末日聖徒イエス・キリスト教会は、神が組織された教会です。完全な知識と権能を持つ唯一の教会です。私たちは神に召され、権能を授かっている予言者に導かれています。「主がこのように言った」とは予言者の言葉です。

隣人や友人の習慣に押されて道をそれないようにして下さい。皆さんも、正しい生活をして、真理を求められますように。

それから、キリストの福音の回復について証を自分で得ることができるよう、神に願い求めて下さい。このような知識を得られ、更に努力をつづけると、一層深い、光と知識を得、神の祝福を受けることができます。

イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。



## 青写真

十二使徒評議員会補助

スターリング・W・シル

兄 弟姉妹の皆さん、私はこのすばらしい地域総大会に出席するため、数日前にこの美しく偉大な日本の地に参りましたが、これまでに目にした数々のもの、お会いした人々、それに心に抱いた数々の思いは、まことに麗しいものでございました。この機会をいただいで何よりもまず、皆様にとって励ましとなり、助けとなる事柄についてお話ししたいと思います。それが可能か否かはともかく、そうした気持ちはいっぱいです。

数年前に、ソルトレーク・シティーの私のオフィスで経験したことをお話ししたいと思います。その日、私はカリフォルニアからのふたりの客の訪問を受けました。そのうちのひとり教会員でした。彼は自己紹介をすませると、他のひとりが教会員でないことを告げました。その友人は、長年、法律を学び、法律の業務を営んでいました。世界で最も優れた幾人かの法律学者のもとで学び、また長い間法律の仕事を経て、非常な成功をおさめていました。最近8年間は、カリフォルニアの高等裁判所で判事をしているとのことでした。

愉快な方々で、私たちはすっかり打ち解け合い、楽しい時間を過ごしました。しかし、楽しく語ることが目的ではないことを知っていた私は、「ソルトレークに滞在中、何かお手伝いできることがありますか」と尋ねました。すると判事が、「あなたの教会は正当

な権能をもつ、世界で唯一の真の教会であると信じていらっしゃるのですね」と問いかけてきました。その時の彼の目には、そのようなことはあり得ないし、自分の知らないことをほかの人やグループが知っているなどとは考えられないという気持ちがありありとうかがえました。

私は同じような事態に遭遇した人のことを知っています。ある人たちは、自分の見解が幾分利己的で、独断的だとみなされることを恐れ、その問いに答えないでその場から逃げてしまい、結局ひどく教会の威信が損なわれてしまったのです。

私はそれを繰り返したくないと思いました。ですから彼に、「私はそのように信じています。しかし午前中いっぱいかけてもあなたは満足な供述書をお作りになれないと思います」と答えました。それから私は彼の質問を確認して、「この教会が正しい権能をもつ、世界で唯一の真の教会であることを信じています。」と申しました。すると彼は「ここに座っている間に少しばかりあなたのことを観察していました。あなたは道理をよくわかっていらっしゃる方ようです。信じるにはそれ相当の理由があると思います」とおっしゃいました。

そこで私が、「もしよろしければ、4つの理由を挙げましょう」と申しますと、彼は「是非お聞かせ下さい」と言われました。「喜んでそうさせていた

きます。ですけれども、その前に幾つかの質問にお答え下さいませんか」と申しますと、「よろしいですとも」という返事でした。「先ほどの話では、あなたは長年法律を学び、法律の仕事をしていらっしゃるとのことですね」と尋ねると、「そのとおりです」という返事でした。「そして非常に成功していらっしゃるのですね。」すると彼は「そうだといいのですが」と答えました。「あなたのご友人の話では、とても成功なさったとのことですね。そのような印象を私も受けます。ところで、もし私がカリフォルニアのあなたの法廷で、何か真実でない事柄を首尾よく通そうとするとしても、ちょっとそれは難しいことでしょうね。」すると彼は言われました。「難しいですね。法廷では私を偽れないでしょう。」そこで私が、「では今朝、私が偽りの全くない真実を語ったら、あなたはそれを真実と見きわめることがおできになりますね」と申しますと、彼は「できます」と答えました。次に「そのような御方でしたら、これまで御存知なかった事実を見いだしたら、それを受け入れることができると思いますが、いかがですか」と申しますと、「信じることはすべていつも受け入れます」という返事でした。

とても楽しい会話でした。私たちはひざをまじえ、手を彼のひざに置いて時折親しげに軽くたたけるほどの距離に座りました。そしてできるかぎりの親しみを込めて、「それはすばらしい。

私の話から、この教会が正当な権能をもつ、世界で唯一の真の教会であることを御理解いただけるのですが、その前に申し上げたいことがあります」と申しました。すると彼は「望むところです」とおっしゃいました。私はリグランド・リチャーズ長老のロサンゼルス神殿の青写真の話をしました。

御存知のように、リチャーズ長老はロサンゼルス神殿の建築中に管理監督をしておられました。工事の仕上げが行なわれていた丁度その頃、全国の牧師がソルトレーク・シティーのホテルユタで会議を開きました。そのホテルは教会本部ビルのすぐ隣りにあります。彼らは5日間滞在する予定でした。そこで彼らは、私たちの教会から正式にだれかを招いて一般に言い広められているうわさではなく、直接にモルモンが信じている事柄を説明してもらおうということにしました。

大管長会へ宛てたこの招請に応じて、リグランド・リチャーズ長老がその会議に出席することになり、リチャーズ長老はロサンゼルス神殿の青写真を携えて行かれたわけです。

その青写真は87ページにのぼり、大きさは縦1.2メートル横75センチでロサンゼルス神殿のすべてが網羅されていました。ドアや窓、通風孔、照明設備、壁板、床、そのすべてが記入されていました。リチャーズ長老はそれを彼らに見せると、「世界には数限りない建物がありますが、これに合致するものはただひとつです」と話されました。

それから新約聖書を取り上げて言われました。「およそ1900年前に神の御子はこの地上に教会を設立されましたが、教会を表わすのにやはりこの建物のたとえを使っておられます。『建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し』(エペソ2:21)と聖書にあります。」次いで出席している人々に言われました。「話に入る前に、皆さんが新約聖書をどう考えていらっしゃるか、まず知っておきたいと思えます。」するとひとりが立ち上がって、「新約聖書はキリスト教の信仰と慣例を規定する唯一の書物です」と答えら



れました。

「では、どの位の割合で信じておられますか。10パーセントですか、50パーセントですか、90パーセントですか。」ひとりの人が答えられました。「100パーセントです。」「それでは話は簡単です。青写真に合う教会を見つけさえすればよいわけです。正しい教会はふたつとないのです。『主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ』(エペソ4:5)と聖書にあります。認められていない教義を説くことは極めて重い罪であると使徒パウロは言っています。『たといわたしたちであろうと、天からの御使いであろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろまれるべきである』(ガラテヤ1:8)と彼は語っています。これはかなり厳しい言葉です」とリチャーズ長老は話されました。

それから私はふたりの訪問者に、「これについて話し合いませんか」と申しました。すると判事は、「私もその牧師のように、キリスト教の信仰と慣例を規定するものは聖書だけだと思います」とおっしゃいました。それで私は、「私はこの教会を代表しますのであなたは他の教会すべてを代表して下さい。そして青写真に合致する教会を見つけましょう」と提案しました。

「キリストの本当の教会は完全でなければなりません。教義に過不足があってはならないのです。『私は適当にやっています』という人がいましたが、

キリストの教会はそのようなあいまいなものではありません。完全なものです。聖書の一部を信じるだけではキリストの弟子とは言えません。無神論者でも聖書の一部は信じているのですから。教義はみな人の教義ではなくキリストの教義でなければなりません。歴史を見ると、正しくない教義を教えた例がたくさんあります。キリストの時代に起こった苦難について、イザヤは言っています。『地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、儀式をかえ、とこしへの契約を破ったからだ』(欽定訳イザヤ24:5)それから新約聖書の終りのところに、『もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都からとり除かれる』(黙示22:18、19)とあります。つまり、青写真を変えてはならないのです。あなたがある建物の設計者だったと致しましょう。そこへある人が来て計画を変えたとします。窓をつけるはずの所へドアをつけ、照明設備の所へ空気孔をつけ、建物本来の機能を果たさないように部屋の配置を変えたとします。これでは全部を壊したほうがまだましでしょう。」

判事もこの考えには納得されました。そこで私は申しました。「私たちはただ青写真に合致した教義を見つけ出すだけです。そのひとつは、主がおっし

やった主の教会についてです。教会は主のみ名で呼ばれ、教会のことは主のみ名によって、つまりイエス・キリストのみ名によって行なうようにとおっしゃっています。判事さん、あなたはこの教会以外に、イエス・キリスト教会と呼ばれている教会を御存知ですか。もちろん私たちの教会の名には末日聖徒とついていますが、これは他の時代の教会と区別するためこのように呼ぶよう、主が直接に命じられたからです。」すると彼は「存じません」と答えられました。

「教義の第2番目は、『使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である』(エペソ2:20)という点です。この教会以外に使徒や予言者という土台の上に建てられ、キリストが隅のかしら石である教会を御存知ですか。」「存じません」と彼は答えました。

「教義の第3番目は、主がおっしゃったように、教会にその他の役員がいるかということです。すなわち、大祭司、七十人、長老、監督、祭司、教師、執事がいて、信仰の一致に到達するやうにと、主は言っていられっしゃいます。」判事はそのような教会を知りませんでした。

「教義の第4番目として、無報酬で働く宣教師のいる教会を御存知ですか。」その答も否でした。

「教義の第5番目は、主がおっしゃった方法で召された人がいるかどうか

です。主は『わたしがあなたがたを選んだのである』(ヨハネ15:16)とおっしゃっています。主のみ名を使って自分を召すことは重大な罪です。」判事は「わかりました」と答えられました。

「今日の他の教会の牧師は自らを召しています。医師や弁護士や牧師にもなりたいたが、特に牧師になりたかったとします。そのために神学校へ行って学び、宗教を説けるように訓練を受けます。そして自分が正しいと思ったことを教えます。でもこれは、主の時代の方法ではありません。『だれもこの荣誉ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。』(へブル5:4)と聖書にあります。」すると彼は「そのような自分から職を望まない教会は、あなたの教会だけです」と答えられました。

ほかにも永遠の結婚や神殿の目的など、たくさんのお話を話しました。そして最後に聖書に述べられている死者の救いについて話しました。「死者のバプテスマを行ない、神殿で神聖な儀式を行なっている教会をほかに御存知ですか。」彼は知らないと言えられました。「けれども聖書にはそのことが記されていますね。」私がそう言うと、彼は「はい」と答えられました。「イエスは獄に捕われている霊、つまりノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者たちの所へ行かれたことから、イ

エスご自身もこれを信じておられたことがわかりますね。」(Iペテロ3:19、20参照)「はい。」「パウロもですね。」「はい。」「ペテロもですね。」「はい。」「みなそのことを説いていますね。」「はい。」「でもあなたは信じにしない。」「はい。」

私は手を伸ばして彼のひざを軽くたたき、「あなたはすばらしい方です。立派な法律家で、立派な方であり、立派な判事です。この話に入る前に、あなたは新約聖書のすべてを信じているとおっしゃいましたね。でもあなたの信じておられることは何ひとつ出てきません。けれども最も大切な教義についてたくさんお話ししました。もしあなたが新約聖書を信じておられるなら、その教義をお認めになるはずですよ。もし教義をお認めにならないければ、新約聖書を信じていると言い切れないはずですよ。ところで話をまとめますが、私たちの語り合ったこれらすべての教義を信じている教会がほかにありますか。」「いいえ。」「ではこの内の10パーセントでも信じている教会がほかにありますか。」「いいえ。」「私の属している教会がその教義から外れたり、ほんのちよっとでも信じていない点があるところありますか。」「いいえ。」「ではこの教会は正当な権威をもつ、世界で唯一真の教会というわけですね。」「そうかもしれません。」

そこで私はこう言いました。「判事さん、私がカリフォルニアであなたの法廷に立ち、一点の疑う余地もない確実な、権威ある証拠があり、あなたが



完全にそれを認めている時に、『そうかもしれません』と答えてよいものでしょうか。」「いいえ。」「では返事を変えていただきたいのですが。」「はい。」「結構です。ではもう一度質問をしましょう。私たちの話し合った新約聖書の教義をすべて信じている教会を、この教会以外に御存知ですか。」「いいえ。」「では10パーセントでも信じている教会を御存知ですか。」「いいえ。」「では、私の属している教会がその教義から外れ、ほんのちょっとでも信じていない点はどこにありますか。」「いいえ。」「それではこの教会は正当な権能をもつ、世界で唯一真の教会というわけですね。」「はい。」「そうお信じになりますか。」「はい。」「ではお入りになりますか。」「はい。」「今すぐにですか。」「はい。』その午後、彼はバプテスマを受けられました。

それは私の力によるものだとは思いません。教会員が彼を連れて来られたのです。きっと彼は福音を研究し、バプテスマの約束をとっておられたのでしょう。自分の誤った考えでなく、主のみ言葉に確信を持つ必要があるという大切な原則が、この対話の中にあると思います。新約聖書を全面的に信じると言うときには、選択の余地は全くありません。この教会を信じなければならぬのです。このことを全世界の人々に申し上げたいと思います。

真の教会を確認するためには、主の献身的な弟子としてその教えに従って生活するという過去の体験は必要ありません。聖書を読んで理解すれば、それだけで主の教会はどれかがわかります。

話はそこまで進み、私はふたりに、「私の属している教会を信じるには4つの理由があると初めに申し上げましたが、以上がそのひとつです。他の3つの理由を申しあげましょうか。」と話しました所、「是非お願いします」とのことでした。「第2の理由はこの教会では自分で真理の証を持つことができるということです。モロナイはモルモン経の記録を残すに当たってこのように記しています。『またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうか

をキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。』(モロナイ10:4)これはモルモン経の言葉です。ですから受け入れるか否かは自由です。しかし聖書にも同様な意味の言葉がたくさんあります。例えば、『求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。』これはとりもなおさず、捜さない者は見いだせないということです。また『門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう』という言葉もあります。

第3の理由は『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも……教えがわかるであろう』(ヨハネ7:17)という主の言葉にあります。私はかつて経験したある事柄を友人たちに話したことがあります。それは、ある友人が私を職場から自動車で家まで送ってくれたときのことです。私たちはシートベルトを締めていました。間もなく彼は太い葉巻きタバコに火をつけ、私たちはもうもうたる煙に包まれたまま家に向かいました。かなり走った所で彼はこう切り出しました。『シル兄弟、僕も君と同じように福音に対する強い証を持ちたいと思うよ。』『福音に対する強い証を持ちたいって、どういう意味だい。』『その言葉どおりさ。君と同じように福音に対する強い証を持ちたいのさ。』私は少し砕けた態度で要点をはずさないようにと願いながら、『ビル、1日に何本吸っているんだい』と言いました。彼は『7本さ』と答えました。『毎月どの位飲むんだい。』『150ドルだね。』『君は道徳の点でも少しルーズなんじゃないのか。女の子を追いまわして、しちやいけなことをたくさんしてるんだろ。』すると彼は、『そうなんだ。でも、福音が真実だってこと知ってたら、そんなことしなかったと思うよ。』『ビル、君は大切なことを誤解しているようだね。主は、姦淫をしている者や酒を飲む者や、戒めに従わない者にそのみこころを知らせるとはおっしゃっていないよ。主がそ

のみこころを知らせて下さるのは、予言者や、福音の原則に従って生活している人々だよ。』このような話をしました。信じたいと思う人は、その教えに生きることです。酒の好きな人に禁酒を説いても難しいですが、知恵の言葉の正しさは、それに従うときによくわかります。

第4の理由は、自分自身にその鍵があります。神は私たちに、この上ないすばらしい器官を下さいました。それは人の脳です。大きさは両手に入るほどですが、140億もの驚くべき能力を持つ細胞でできあがっています。例えば、十戒が与えられた時、私はシナイ山にいませんでしたが、そこにいた人と同じ位、その戒めの正しさと重要性を知ることができます。

自分自身のこともわかります。この肉体は邪悪であるので死ねばそれから免れることができるという人がいます。しかしそうではありません。この体が善でなければ、決して創造されはしなかったでしょう。もしこの肉体が永遠に必要なければ復活もなく、父なる神にとって骨肉の体が必要なければ、イエスも復活をささなかったでしょう。

神御自身のこともわかります。遺伝の法則から、イエス・キリストの御父は、体も器官も感情もなく、宇宙に満ちる広大な形のない神などでないことがわかります。聖典の言うように、神の御子は、御父の本質の真の姿です。(ヘブル1:1-3参照)

私たちがホームティーチングプログラムをよく行なって、担当の家族に福音の原則を教えるとき、神はお喜びになります。また家庭の夕べも幸せをもたらすものです。

これら4つを組み合わせると、私たちの心には、日の光栄の王国に入れるという強い確信が生まれます。そのために主の助けがありますように。」イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。



## 神はこの国にみ手を 置いておられる

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

**愛**する兄弟姉妹の皆様、再びこの日本を訪問し、この歴史的な大会に出席できるのは、素晴らしいことです。私は皆様の多くを昔から知っています。皆様と共にいられることは実に素晴らしいことです。

私が初めて日本を訪問したのは1960年5月のことでした。その時から、日本の聖徒を知り、愛するようになりました。その愛は変わっていません。むしろ年と共に強くなり、深くなっています。かつて8年間、日本を担当する責任が与えられました。この間に私は日本中を旅し、北は北海道から南は沖縄まで数多くの支部を訪れました。その頃の集会は、例外なく、小さな古びた家で開かれました。ほとんどが借家でした。当時アジアには、ひとつも教会堂がありませんでした。

私はこの国で、土地の購入を手伝い、教会堂の建築を推せんし、鍬入れ式を行ない、献堂式を執り行ないました。教会としては、アジアで初めての大事業でした。

私はこの偉大な国の聖徒たちが主の予言者の指示のもとに教会の総大会に集うこの日の訪れを長い間待ち望んできました。

私が担当していた頃、この地域にはひとつの伝道部しかなく、韓国も同じ伝道部に属していました。支部はまだ小さく、会員も方々に広く分散していました。しかし今では3つのステーキ部と6つの伝道部があります。きょう

の皆様のお顔を拝見して、感謝の言葉もありません。会場には、民族こそ違え、1万人以上の兄弟姉妹が、同じ信仰と同じ神権と、同じ聖約のもとに、生ける神と御子イエス・キリストを礼拝するために集っています。この国に起きたことを見れば、神のみ業は否定できません。神はこの国にそのみ手を置かれ、みたまが人々に注がれています。そして証を聞くたびに、この国民は、心を動かされてきたのでした。

しかし一朝一夕にこうなったわけではありません。古代のエレミヤの予言のように、「町からひとり、氏族からふたりを取って」(エレミヤ3:14)宣教師は働いてきたのです。教会に加入しようとしていろいろ悩んだことでしょう。胸のさける思いで、両親が涙を流すのを見、先祖伝来の信仰を捨てなければなりません。しかし、聖きみたまが、教えの真実であることを証し、皆様はそれを否定しませんでした。ですから、バプテスマを受け、聖霊の賜を授かりました。しかし、このように真理を受け入れた人の数も多いですが、宣教師の証を拒んだ人もまた数多くいました。時の初めからそうでした。今日ここには、私たちの目には見えない聴衆も集っていると思います。その中には、ヒーバー・J・グラント大管長もいます。グラント大管長は、1901年に3人の同僚と日本で伝道を始めました。この地を福音の地として奉獻しました。彼らには言葉の問題もあ

りました。機会をとらえて、人々に教えましたが、23年後に伝道部は閉鎖になりました。この23年間で、200人に満たない人が改宗しました。その中には、今この会場におられる、東京の奈良兄弟や大阪の桂兄弟、札幌の熊谷姉妹がいました。

戦後、み業は再開され、以来、実り多い収穫が続いています。今私は戦前、戦後を通じて働いた伝道部長や宣教師のことを考えています。その方々が生きておられたら、皆この偉大な大会に出席して欲しいと願っています。

伝道部長としては、エドワード・L・クリソード、バイナル・G・マース、ヒルトン・A・ロバートソン、ポール・C・アンドラス、ドウェイン・N・アンダーセン、アドニー・Y、小松部長。この方々のときには、日本も沖縄も、そして韓国も含まれていました。それから、分割した後では、ビルス、岡崎、堀内、アボ、清水、渡辺、そして現在の伝道部長。さらに何千という若い男女が、宣教師として予言者の召しにこたえて、全くなじみのない言葉を話す国にやって来たのでした。言葉の問題と言えば、言語訓練伝道部ができる前はもっと大変でした。宣教師たちが、異言を語る賜を求めて主に祈ったということは何度も耳にしました。全く落胆しきった宣教師と面接したこともあります。彼は、どんなに努力しても言葉がわからないと言いました。彼は涙を流しながらその苦勞を語りまし

た。家族も断食し、祈っていました。そして彼は私に祝福を求めましたので、私は頭に手をおいて、神権の権能によって、確信をもって、その言葉を語れるよう祝福しました。その祝福は神の力でかなえられました。彼は偉大な宣教師となり、帰国後、大学を卒業すると、日本語の知識を生かして大学院の奨学生となり、博士号も取りました。そして政府の役人となり、現在、その日本語が上手なために、ここのアメリカ大使館で信任ある地位についています。また教会でも責任ある職についています。皆様も御存知の方です。彼もこの会場にいて、感謝の念に打たれています。彼の生涯は、聖典の成就と言えましょう。「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日ののち、あなたはそれを得るからである。」(伝道11:1)

また、言葉の障害のなかった宣教師のことも考えています。それは、この日本で福音を受け入れ、日本で働いた青年たちのことです。私は数年前の証会のことを思い出しています。その会で若い日本人長老が証をしました。その会には皆断食して集いましたので、主のみたまがありました。その長老は、立ち上がると、初めて英語で証をしました。忘れもしません。「天のお父様を愛しています。主イエス・キリストを愛しています。予言者ジョセフ・スミスを愛しています。」そのあととはつまって声になりませんでした。それで十分でした。その言葉は何よりもすばらしい説教でした。

私たちは皆涙を流しました。私はみたまに促されて立ち上がると、「菊地長老、主のみ名によって約束します。忠実で、戒めを守り、教えによく従ったら、人々の中で成功し、教会でも素晴らしい指導者になるでしょう」

彼も今日この会場にいて、目に涙しています。この言葉が与えられたとき、彼はまだ若い宣教師で、財産も教育も将来の約束もありませんでした。しかし、今では日本東京ステーキ部部长となり、私は昔を思い出して、深い愛を感じております。

これは皆、現代の奇跡です。主は、その業をはやめると言われました。今

がそのときです。私たちは神の王国の建設に努めるよう、大管長から大きなチャレンジを受けました。1848年、教会員は、合衆国のあちこちに散在していました。グレートソルトレークの盆地には、少数の開拓者しかいませんでした。他の聖徒は、はるか東のミズーリ河畔でキャンプしていました。ブリガム・ヤングは第一隊をソルトレーク盆地まで導くと、ミズーリのキャンプへ引き返しました。その当時あるものと言えば、背負えるだけの衣服、それに幌馬車の中味が少しだけでした。教会は小さく、ひ弱でした。しかしみ業の将来を見通していたブリガム・ヤングは丸太造りのタバナクルで言いました。主なる神はこの王国がこのように進展するまで、育て、導いて下さった。今後もそれは続き、あらゆるものが完成し、教会は勝利をおさめるであろう」(ブリガム・ヤング *The Man and His Work* 「人物と功績」ニブレー、P.117)

信仰のためには、生命をかける程の証を持っていたヤング大管長たちは、家も、お金も、友もない中で、荒野を進み、ロッキー山中に道を切り開き、一大社会を建設したのでした。そしてそこから、世界各国に福音を宣べ伝える人々を送り出したのでした。

現在、教会の基盤は万全です。教会に反対する人がいることも事実ですが、それでも教会は50年前には考えられな

かった尊敬を受けています。このような強い基盤に立って、素手と信仰で仕事を始めた開拓者以上の業を果たそうではありませんか。日本の国ほど様々な機会に恵まれた国はありません。きょうから偉大な未来が始まるのです。私は日本での主のみ業に満足していません。そして、私たちは弱くとも、主の器にならなければなりません。日本に美しい神殿が建つのも偶然の結果ではありません。皆様は、ハワイやソルトレークの神殿訪問に際し、多大な犠牲を払ってこれられました。会員の中には、貧しい人々を助けるため、第1日曜日以外にも断食した人が大勢います。また、インフレとたたかい、断食をして食費をきりつめ、親子そろって永遠の結び固めを受けるために海を越えて行った方々もいます。聖なる神様のもとに、死にも時にも動じない誓約を受けに渡っていったのです。また、主の宮居へ行くために衣食住を共に切りつめた家庭が多いことも知っています。

私は、主が皆さんのこうした心からの犠牲を捧げる姿に目を留めて、それに報いて下さり、この日本の地に主の宮居を建てるという祝福をお与え下さったのだと思います。私はきょうここにおられるすべての若い兄弟に、誉れと徳と善の道を歩み、主の宮居に入るにふさわしい者となるようにチャレンジします。また若い姉妹にも、そのよ



うに生活することにより汚れない身に監督や支部長の前に出て、主の宮居に入るにふさわしい者となれるようにチャレンジします。教会員の中から伴侶を見つけて下さい。そうすれば今も永世にもわたる結婚ができるでしょうし、皆さんの子供もまたその子供も誓約のもとに生まれることになるのです。

昔から、日本人は先祖を敬う民でした。真実の福音はありませんでしたが、先祖を敬う伝統は神聖なものです。「父と母を敬え、これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」(出エジプト20:12)

これはシナイ山で主がその指で書かれた言葉です。過去の人々に感謝する気持ちがなければ、決して偉大な人物にはなれません。

これから皆様方教会員は、本当の意味で先祖を敬う機会を持つようになります。この感謝と愛に満ちた本当の精神は、神の啓示を通して与えられたものです。祖先を敬う精神が最も美しい形で表われるのは、すでに幕のかなたに去った人々に神の御子の福音に伴う大きな祝福を分け与えるときです。死者は、永遠の祝福をもたらす儀式を受けることはできません。しかし救われるためには、バプテスマ、神権、聖なるエンダウメントとその指示、約束、誓約、家族が永遠にひとつとなる結び

固めの儀式などが必要です。教会の初期の頃、予言者は敵に捕えられたとき、次のように叫び祈りました。「おお神よ、汝はいずこにおわしたもうや」これに対し、主は次のような偉大な啓示で答えられました。

「流水いつまでか濁りてあらん、如何なる力かよく諸天の運行を止めんや。何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を流るるミズ一りの流を止め、またはこれを逆流せしむることを得んや。もし、よくこれを為し得れば全能の神が末日聖徒の頭上にいと高き所より知識を注ぎたまふを止むることを得ん。」(教義と聖約121:33)

このみ業を妨げようとする人がいるかもしれません。教会の敵は、あざけり、愚弄するかもしれません。しかし、神はその力を持ってこの民に天から知識を注がれることでしょう。

このみ業を開始するにあたって、主はこのみ業の4つの目的を次のように宣言されました。

1. 「されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため、
2. 信仰もまた世に高まり、
3. わが永遠の誓約は確立せられ、
4. 完全なるわが福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやは

てまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」(教義と聖約1:20-23)

これ以上の祝福はあるでしょうか。世の救い主である主なる神のみ名によって語り、聖なる神権の力を使って神の務めに携わる権能に勝るものがあるでしょうか。

このみ業の回復によって、信仰が高まったということを疑う人がいるでしょうか。今日皆様がここにおられることそれ自体が、この信仰が増した証拠です。ここに集いたいという夢、そのために払った犠牲、これは皆純粋で強く大きな信仰がある証拠です。

エホバはアブラハムと誓約を交わし、「わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となるであろう」(レビ26:12参照)と告げられました。

この永遠の誓約は、バプテスマの時、忠実に奉仕の業に励むとき、そして、主の宮居で神聖な義務を引き受けるとき、再確認されます。

完全な永遠の福音は、私たち弱い者、単純な者によって世界の果てまでも広められ、また王と統治者の前で宣べられています。そして彼らは主の告げる真理を理解しつつあるのです。

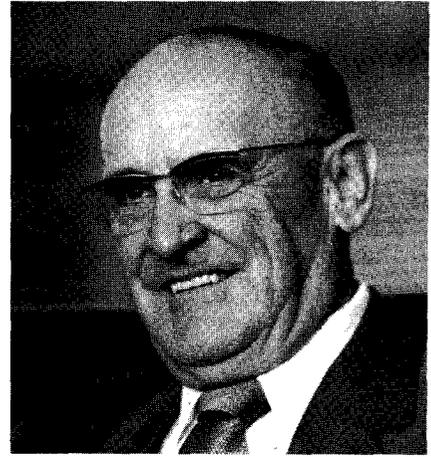
愛する兄弟姉妹の皆様は、神の祝福がありますように。そしてこのすばらしい大会の会場をあとにするときに、主の道を歩み、主の思いを知る決意をさらに強くできますように。このみ業に対する証を共に分かち合ったこの素晴らしい大会を共に過ごし、もっと忠実に奉仕したい、もっと良い家庭を築きたい、もっと愛と感謝を示し合いたいという気持ちが強くなったことでしょう。証申し上げます。永遠の父なる神は生きておられ、肉における神の独り子イエス・キリストは私たちの救い主であり、またこのみ業の隅のかしら石です。私たちには予言者がいて、今この大会は予言者により管理されています。皆様に平安があり、あふればかりに神の祝福がありますよう、イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。



## 両親には子供たちを 教える責任がある

十二使徒評議員会補助

O・レスリー・ストーン



**愛**する兄弟姉妹の皆さん。私はこの度の大会に出席できたことを喜んでいいます。ここで与えられた時間、子供たちを教える両親の責任についてお話ししたいと思います。

予言者アルマはその生涯を閉じようとする時息子ヒラマンに、リーハイの民がエルサレムを出発して以来の出来事を記した記録を託しました。この記録には民の日常生活と宗教上の出来事が記されていました。

アルマはその息子に悔改めと主イエス・キリストを信じる信仰を人々に説くよう命じ、次のような助言を与えました。

「わが子よ、忘れずに青年の時智恵を得よ。青年の時から神の命令を守る事を習慣とせよ。」

今日この言葉は、若人のみならず、すべての両親に対するチャレンジとなっています。もし両親が教えなければ子供は、どのようにして敬虔や従順また神の戒めを守ることを学ぶのでしょうか。

聖典には、両親の教えに従って非常に大きな成功を見た若者の例がたくさん挙げられています。また、主が信頼を寄せられた若者の例もたくさんあります。

誰が17歳の時にエジプトに売られていったヨセフの話をお忘れのことができませんか。主は戒めに従順であったことでヨセフを物心両面において、お守りになりました。そしてヨセフはそ

の高潔さにより、エジプト全国の司の地位を得たのでした。また、彼の偉大さは、自分を奴隷として売り払った兄たちに再会した時にもうかがえます。

「わたしに近寄ってください……わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。……

神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救いをもってあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。それゆえ、わたしをここにわかしたのはあなたがたではなく、神です。神はわたしをパロの父とし、その全家の主とし、またエジプト全国の司とされました。」(創世45:4、5、7、8)

どれ程の人々がヨセフが青年時代に示したような従順さを持てるのでしょうか。また円熟したヨセフのこのような気高い赦しを示せる人がどれ程いるのでしょうか。

ニーファイがすべての面で偉大であったことを御存知でしょう。モルモン経の、その胸を打つ歴史のまさに最初の見られる偉大な信仰と従順を学んだかが記されています。I ニーファイ1:1に次のように記されています。「私、すなわちニーファイは善い父母

から生れたので、父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。……そして、生涯主の厚い恵みを受けた。」

またその後、レーバンの家に戻って真鍮板を手に入れてくるよう主から指示された時に、ニーファイは次のような証を残しています。

「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうことには人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」

両親と祖父母の皆様は、父リーハイが義にかなった息子ニーファイに感じた満足と誇りと喜びがおわかりになるでしょう。少年が予言者ニーファイのように成長する時、はっきりと両親の指導と模範の賜をみることができます。

また、モルモンがニーファイの民から全軍の司令長官に任命されたのは弱冠16歳の時でした。この重大な責任が16歳の若者の双肩に課せられたのです。

しかし予言者ジョセフ・スミスが初めて示現を受けたのは、わずか14歳の時です。この若者が世の人々に力強い影響を与えたことを誰が否定できるのでしょうか。

若人の双肩には、重い責任が課せられています。親が考える以上に若人には力があります。私たちは若人を正しく導き、持てる力を十分に発揮できるように助ける責任があります。

しかし必ずしも家庭の中に、ニーファイやモロナイ、モルモンやエジプトに売られたヨセフがいる必要はありません。ただ、神の力と神権が再びこの地上に回復されたことを確信し、その力と神権を十分に行使する、忠実で従順で、しっかりした市民となる子供たちであれば良いのです。これらのことを教える責任は両親にあります。

人生にどのような霊的な価値があるかを知らない子供に、それを受け入れ従うことを期待できるでしょうか。

私たちは親として、子供が善悪を正しく判断できるよう教えることに関心を払っているでしょうか。必要な指示と指導を与えているでしょうか。幼い頃から肉体と同じく霊を養っているでしょうか。わずらわしいのを嫌って放任してはいないでしょうか。

若人は、自分に一番必要なのは、学校教育や流行、パーティー、この世の物などから得られる安易な生活だと思ふかもしれませんが。しかし若人が必要だと考えているものを、ひとこと教育という言葉で表わすことができます。そして教育は親の責任なのです。

多くの親が、子供たちが罪と苦難に陥っているのを見て、「何でもしてあげたのに、欲しがるものは何でも与えたのに」と嘆くのです。でもそれだけでは不十分なのです。このような親が一番安易な道を選んでいると言えましょう。物を与えるということは、自分自身を与えることに比べ至極安易なことなのです。私たちはこの世の物を与えることに汲々とし、見過ごしにしていることがあります。それは、基本原則を子供たちに教えることによって最も大切なものを与えるということです。この原則の幾つかを挙げてみましょう。

1. 神に近づくためには敬虔さが必要である。
2. 神のごとくになるためには正直で高潔な態度が必要である。
3. この世における私たちの責任は受けるだけでなく与えることである。
4. 私たちはこの世で、重大な決定を下すことを求められる。その

際、目前のことだけではなく、永遠にまで及ぶ長期のことを考え、祈りの気持で決定を下すようにする。

5. いつか試しと誘惑の時が訪れる。その時に、家族や教会の指導者とりわけ天父に助言と勧告を求めるようにする。
6. 神は愛の神であり、私たちはいつも心の交流を図ることができる。

私たちはこれらの原則を子供や孫に教えるだけで満足してはなりません。それを行わないによって示さなければなりません。例えば、祈りの原則を単に説明するだけでなく、祈る方法も教えます。救い主は模範の重要性を説かれましたが、これはすべての親が課題とすべきものです。

あなたがたの光を人々の前に輝かしそして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

(マタイ5:16)

今日の若人には将来の希望がかけられています。ですから、無責任、不道徳、享楽を追い求める気持を抱かせて

はなりません。むしろ天父のみもとに戻れるように、人生の真の意義を教えるようにしようではありませんか。今日多くの家庭は自分たちの都合だけに合わせて営まれています。しかし家庭は本来、教育と祈りと礼拝の場なのです。

この多難な時代にあって、親子の関係を正しく保つことは是非とも必要です。私たちが子どもたちに残していこうとしている遺産を思うと身も震うばかりです。

家庭での互いの関係はどうでしょうか。夫婦の関係はいかがですか。親子の関係はいかがですか。子供同士はいかがですか。

ここで子供の養育に関する、幾人かの大管長の助言と勧告を引用させていただきます。ブリガム・ヤング大管長はこう語っています。

「子供にその義務を教え、ひだ飾りのついた立派なドレスで身体を飾ることに代わって、その心を飾るものを教えなさい。両親は子供を追い立てるのではなく、彼らを導き、受け入れる備えのできた心に知識を与えなさい。」

ウィルフォード・ウッドラフ大管長



は言っています。

「両親から、正直、誠実、真実、徳の原則を学ぶ子供は、100人の内99人までがそれを守り通すであろう。」

ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう語っています。

「何にも増して大きな感化を受ける場所は、私たちの住む家庭である。……私たちの家庭に生まれる子供を教えることは私たちの務めである。私はこの責任が私たちにあり、この世の何人にも渡せないものであることを強調したい。」

両親である皆さんはこの原則にかなっているでしょうか。子供たちと共に静かにひざを交じえ、真の霊性、正直敬虔、良き人格などの原則について教えているでしょうか。子供たちに絶えず定期的に福音を教えていますか。子供たちはそれを信じていますか。皆さん自身はいかがですか。不信仰な親が子供に信仰を植えつけることができるでしょうか。家庭の夕べは家族に福音を教える絶好の機会です。

私たちは子供たちと近い関係を保

ち、よく理解を示し見守る必要があります。また、彼らが教会と近い関係を保てるよう必要に応じて助け、主が賢明な目的をもって設けられた神権組織や補助組織で活発に働けるようにしなければなりません。

この私たちの素晴らしい教会の補助組織を過小評価することはないにしても、私たちは、それはあくまでも補助であることを認識しなければなりません。つまり、道徳について教え、人格を築くという責任をこの組織の教師に転じることはできないのです。彼らと私たちの子供の交わる時間はごくわずかだからです。

子供たちを道徳的、霊的に進歩させる第1の責任は、両親にあります。末日聖徒の親はすべて、この人生の真の目的を子供たちに教え、彼らが天父のみもとに戻れるようにする責任を神より託されているのです。両親は主と協力して子供をこの世に送り出します。そして、責任を持って自分の役割を果たすのです。

子供たちに良い模範を示して教えな

かったことで、裁きの日に、本分を尽くすのを怠った主の愚かな僕と言われることを欲する人がいるでしょうか。

若人の皆さんは両親との結びつきを密にして、義にかなった生活を送れるようにしていただきたいと思います。また、両親の皆さんは、自分の召しに全力を尽くして下さい。子供に福音を教え、模範によって導いて下さい。

皆さんに証申し上げます。イエス・キリストの真の福音は現在この地上に回復されています。ジョセフ・スミスは予言者であり、主のみ手の内にあってこの回復をなしとげました。スペンサー・W・キンボール大管長は現代の予言者であり、私たちを導き、「歩みを早め」、この地上に王国を確立するために、神から靈感と啓示を絶えず受けておられます。私の声のとどく範囲内にいるすべての方々に、この証と祝福をお残し致します。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

8月9日(土)一般大会午後部の部における説教

## 模 範

十二使徒評議員会補助

アドニー・Y・小松



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、この日本で最初の地域総大会に皆さんと共に出席し、また素晴らしいみたまを感じることができますことを感謝しています。主がこの歴史的な大会に出席している皆さん方を祝福されていることを、私ははっきり知っています。

ここに出席している皆さんを見て、日本での教会の進歩と成長の様子を知

り、私の心は感謝の気持で一杯です。

10年前、日本と沖縄にはひとつの伝道部しかなく、会員も8,000人程度でした。今日では日本全体で6つの伝道部と3つのステーク部、そして会員はおよそ2万5千人にのぼっています。

このような教会の発展は、末日聖徒イエス・キリスト教会の基を築いた宣教師や会員たちの努力と忠実な犠牲の

賜です。今では日本の教会員数は、10年前の3倍になっていますが、しかし1億1千万人の日本の総人口と比べると、まだ多くの人々にイエス・キリストの福音を教えなければなりません。

今日ここに集まっている私たち教会の改宗者は、宣教師や会員たちが彼らの時間を使って喜んでイエス・キリストの福音の原則を教えてください



深く感謝しなければなりません。

私たちが年をとって、人生のいろいろな経験をしたとき、この福音について得た証が、かけがえのないものであることを知るに違いありません。

神は生きておられます。そしてイエスは生ける神の御子キリストであり、世の救い主であります。またジョセフ・スミスはこの末の世に、完全な福音を回復するように召された神の予言者です。また、スペンサー・W・キンボール大管長は今日世界中の末日聖徒イエス・キリスト教会を指導し、管理するように召された生ける神の予言者です。このことをよく理解し、知ることは、私たちの証となり、永遠の生命を得るために非常に大切なことです。

それでは、私たちはどのようにしてこの大切で、神聖な証を持ち続け、最後まで耐え忍んでふさわしい忠実な者となることができるのでしょうか。

そのひとつの方法は私たちが持っている証を愛する人々や友だちや近所の人々と分かち合い、彼らもまたイエス・キリストの福音による祝福を受けることができるようにすることです。

あなたがたのうち、多くの人は家族の中で初めて教会員になった人であり、家族にとっては文字通り開拓者です。それは教会が組織された当時の開拓者

たちと全く同じです。彼らも真の福音に生きるために多くの困難に遭いました。

もし私たちが主からの祝福を受けたいならば、私たちが遭う困難にもめげず、信仰を持ち、主の戒めを忠実に守らなければなりません。

この福音の原則を友だちや両親や近所の人々に話すとき、彼らとその原則を理解できなくても決して落胆してはなりません。

どうぞ忍耐強くあってください。なぜならば、私たちの両親や兄弟姉妹や友だちは、私たちの生活にとって非常に大切な人です。私たちは彼らを愛し、彼らのために最善を尽くしてあげなければなりません。

この世でも、次の世でも、私たちが得る喜びと幸福は家族の昇栄と共に与えられます。

もしあなたが、まだ独身であって、両親や兄弟姉妹と共に住んでいて、彼らがあなたの新しい生活を受け入れなくても、彼らを尊敬し、愛し、あなたの模範によって福音の真理を教えたいと思います。

救い主は次のように述べています。「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたが

たの父をあがめるようにしなさい。」  
(マタイ 5 : 16)

最近開かれた断食証会で、ひとりの青年が感銘深い証を述べました。それは彼が教会に入って初めて述べた証でした。

「兄は私のよい模範です。私は兄が神権の召しを全力を尽くして果たすことによって、彼が大変変わってきたことに気づきました。私は彼が神から召されていることをよく知っています。なぜならば、兄は深い思いやりと奉仕の精神で熱心に、謙遜にまた喜んで主の業に励んでいたからです。それで私も兄のようにになりたいと思います」と彼は証しました。

この兄のよい模範によって、弟は正しい道を学びました。確かにこのふたりの兄弟は、両親にとってもよい福音の模範になっていることでしょう。

このように、私たちは価値あることに心を留め、いつも喜びと感謝を見いだすように努力しなければなりません。

そして柔和と温情と親切と堅忍によって、私たちの愛する者を幸福に導くことができるのです。

皆さんの中にはまだ若く学校に通って、両親から援助を受けている人もいます。皆さんはまだ両親のもとで生活

しています。どうか両親を尊敬し、彼らの願いを無駄にしないでいただきたいと思います。

そうすれば親元を離れて自分の家庭を築くとき、皆さんは福音のすべての原則に従って自らの家庭を治めることができるでしょう。それまで落胆せずに、福音の原則を守って生活し、両親を愛し、尊敬していただきたいと思います。

もし、私たちが謙遜にこの道を歩む

ならば、主は私たち自身の救いをも与えると約束されています。

「もし汝善を行わんと欲し誠に終りまで変ることなく忠信ならば、神の王国に救われるべし。こは、神の賜のうち最大なるものなり。およそ、救いの賜に勝る賜はあらざればなり。」(教義と聖約 6 : 13)

ですから、私たちは一人一人がイエス・キリストのみ名を受け、福音に従

って生きなければなりません。

教会のいろいろな集会に出席し、主の戒めを守っていただきたいと思います。また、両親や友だちや近所の人々に対してもよい模範となってください。

主の特別な祝福が皆さんの上にありますように、心から祈っています。

イエス・キリストの御名によってお話し申し上げました。アーメン

8月9日(土)一般大会午後部の部における説教

## 忠実なしもべ

十二使徒評議員会補助

J・トーマス・ファイアンス

**愛**する兄弟姉妹の皆さん。創世の始めより、主は必要に応じて忠実なしもべに語りかけてこられました。忠実なしもべとはどんな人でしょうか。辞書には忠実を定義して、信仰の篤いこと、愛情や信義に偽りがないことと記されています。

では忠実なしもべはどこにいますでしょうか。この大会のこの会場にいます。ステーキ部長会、伝道部長会、教会のワード部、支部で働く人々です。皆さんの周囲に目を向けて下さい。地上に神の王国を建設するために、時間や才能や財産を捧げている忠実なしもべ、指導者、教会員を数限りなく見ることができません。

聖典から例を引いてみましょう。かのノアは天より受けた命令に従い、箱舟を造り、命じられたすべてのものを積み込みました。

「ノアはすべて神の命じられたようにした」(創世 6 : 22) と記されています。さらに創世記 7章 1節には、「あ

なたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」と述べられています。

神に忠実であったノアは家族を救ったのです。

モルモン経にはこうあります。

「……私ニーファイは、主の深い憐みは主を信ずる信仰があるから選ばれたすべての者の上に及び、この人たちの強くしてあらゆる悪から救われる力を与えたもうことをあなたたちにこれから示そう。」(I ニーファイ 1 : 20)

また父と家族が救い出されることについて、ニーファイ第一書 2章 1、2節にはこう述べられています。

「ごらん、主はまことに夢の中で私の父に向い『リーハイよ、汝は汝の行いのためにさいわいなり。汝は忠実なる者にしてわが命じたることをこの民に宣べ伝えし故、見よかれらは汝の命をとらんと謀るなり』と仰せになった。

そして主はまことに夢の中で私の父に妻子をつれて荒野へ出て行けと命じたもうた。」

このほかにも聖典にはアブラハムやモーセなど、天の導きを受けて滅亡を免れた例が数多くあります。

天よりの靈感は必ずしも物理的な変化を必要としません。事実、霊的な変化、つまり、主のみたまを受けるにふさわしい状態へと変わることが必要なのです。これら物心両面で変わるには信仰が必要です。

今までは聖典から過去の例を見ましたが、ここで数年前に経験したある出来事を紹介したいと思います。大管長会と十二使徒評議員会が翻訳事業部を東洋に設けるよう決定したとき、教会幹部と伝道部長は中心となる人物を推薦するように言われました。この人物は忠実で信仰の篤い人でなければなりません。ある人々は渡辺驩兄弟を推薦致しました。そして私が東京で渡辺兄弟と面接することになりま



した。現在十二使徒評議員会補助であり、当時日本伝道部伝道部長であったアドニー・小松長老は、渡辺兄弟の推薦の理由を次のように話してくれました。

渡辺兄弟は当時、小松部長の副伝道部長として日本伝道部で働いていました。ある日渡辺兄弟との会話で小松部長は、「あなたの住んでいるところはこちらから何百キロも離れているので、私はまるで片腕を背中にしばられてボクシングをしているみたいですよ」と語りました。こう言ったのは、渡辺兄弟が伝道部長会で大きな役割を果たしていることに感謝を示すつもりだったのです。

この会話から程なくして、渡辺兄弟は東京の伝道本部に現われ、小松部長にこう言いました。「伝道部長、やってきましたよ。」小松部長は「確かに目の前にいますね」と言いました。渡辺兄弟は「私が申し上げているのは、東京に来たということなんです。仕事をやめて、家族と一緒に東京へ引っ越して来ました。伝道部長が片腕を背中にしばられてボクシングしなくてもよいように、やって来たんです」と説明しました。何とすばらしい信仰でしょうか。間もなく渡辺兄弟は、非常によい待遇である会社に就職できました。

渡辺兄弟が部屋に案内されてきまし

た。私たちは、東洋で教会の資料の翻訳、印刷、出版の仕事を管理する人が必要であることを説明し、こう尋ねました。「この責任を引き受けたいと思えますか。」すぐに答えがありました。「主の望んでおられることでしたら、喜んで引き受けたいと思います。」

そのように私たちは彼に主の命令に喜んで従う気持のあることがわかりました。

過去、そして現在、そうした経験をお持ちの方もこの会場にはいらっしゃると思います。事実、皆さんは主のみ言葉を聞こうと、信仰を持ってここにいらっしゃいました。

信仰は一定の方法で行動するならば、所期の結果を得られるという確信を与えるものです。例をあげますと、部屋を出たいと思うならば、立ち上がって出口に歩いて行きます。電灯を消すときは、スイッチが電灯と接続しているという確信のもとにスイッチを切ります。私たちは新しい経験を通じて種々の事柄を学ぶものですが、信仰によって所期の目標に到達できるという気持を抱かなければ、新しい道に身を投じようとし兼ねるのが常です。信仰は経験の上に打ち立てられる心の状態であり、私たちはこれによって生活のあらゆる面で気持を奮い立たされるのです。

永続する信仰は正しい原則を基としなければなりません。信仰を築く過程は知識が真理かどうかを試すことと言えます。信仰は知識が増すに従って篤くなります。しかしその信仰の度合いは信ずる強さに比例します。限られた知識でも大きな信仰は持てます。そしてその信仰は人を行動に駆りたてる力があります。

全能の父は私たちが力をつけるよう望んでおられ、そのために自由意志を与えて、自分で選ぶことができるようにして下さいました。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。

「天の只中より天使を遣わして、全地の人にジョセフ・スミスは神の予言者だと叫ばせることは、主にとっては簡単なことであろう。だがこれは主の方法ではない。私たちがこの世に来たのは、試しを受け、いかなる信仰かを証明し、信仰によって歩むためである。」

信仰の原則は全人類の生活全般に及ぶ基本原則であり、イエス・キリストの福音の第一原則でもあります。救いの基本は、イエスをキリストであると信ずる信仰です。イエスが神の御子であり、全人類のために犠牲を払われたことに、また戒めに従えば永遠の生命を得られるという事実に、ゆるぎない



信仰を抱く必要があります。そしてその報いは信仰を行ないに移すとき与えられるのです。

日常生活で信仰はどのような働きをするのでしょうか。まず積極性が生まれます。主の約束を成就するには、体を清く、健康な状態に維持する必要があります。私たちはバプテスマを受け、聖餐を受け、福音の計画に従い、戒めを守るという約束と誓約を交わしています。この約束を果たすには、常に正直でなければなりませんし、与えられた責任を忠実に、全力を尽くして果たさなければなりません。信仰は知識を増し、才能や技術を伸ばして、自己を高めたいという意欲を生みます。そして人生のあらゆる面で力となるのです。一方霊的に成長するには、祈りによって天父のみこころをうかがい、聖典を読み、現代の予言者の勧告に耳を傾け、友として聖霊の導きを受けられるよう

な生活をする必要があります。

私たちは常に決断を迫られています。どこへ行くか、目標の地点に行くのにどの道を通るかといった決断を毎日下しています。

ある時、父親が娘を車に乗せて空地に乗り入れ、車をバックさせていました。すると娘が「お父さん、穴に落ちるわよ」と言いました。しかし父親は気にもとめず、バックし続けました。けれども繰り返して娘が叫ぶので、彼はブレーキを踏み、車を前に出しました。車を降りてみると、大きな穴に腐った板が渡してあり、あと30センチもバックすれば、とんでもないことになるところでした。

その父親は、「多分私は娘を信頼していなかったんでしょね。愚かにも私の判断の方が正しいんだと信じてきていたんです。そのため娘を信じようとしませんでした。娘の言葉を信ずる

のでなくて、娘の金切り声でようやく車をとめたのです。」

私たちは神の警告をこれと同じような姿勢で受け取っています。しもべは、「ストップ！まっすぐで狭い道からそれますよ、進路を変えなさい」と警告しています。私たちは、すべての戒めに従うようにとの神のしもべの勧告に必ず信仰を持っているのでしょうか。そのような信仰があれば、神は必ず約束を果たされます。私たちは正しい道を見出し、この世では幸福と繁栄を、次の世では永遠の生命を受けるのです。

ここで証したいと思います。天父は生きておられます。神の御子イエス・キリストは私たちの救い主であり、贖い主です。現在ここには主のみ言葉を伝える予言者がいます。神殿の建設発表が主のみたまのもとに予言者によってなされたことを、イエス・キリストのみ名を通して証します。アーメン。

8月9日(土) 一般大会午後部の部における説教

## みたまは証する

十二使徒評議員会補助

ジェームス・A・カリモア

**愛**する兄弟姉妹、このすばらしい大会に出席できたことを心から感謝しています。私は日本の皆様に、特に教会員の方々に大きな愛を感じています。皆様の信仰とみ業に献身している姿に触れるたびに、その愛は一層大きくなって参りました。私は日本を訪れるたびに心の温まるのを覚えます。かつてお会いした方々に再びまみえ、また皆様が非常に信仰篤くこの大会に臨んでおられることを知ってうれしく思っています。私は皆様の心と証を強く感じています。

私がアジア地区を担当する責任を受けましたとき、この地に住む大部分の人々が仏教か神道か、またはキリスト教以外の宗教を信じているので、「キリスト教とは何か」から入って、それからモルモンの教えに移って行かなければならないと考えました。しかし間もなくその考えが間違っていたことに気づきました。

3年ほど前になりますが、私は東南アジア伝道部を伝道部長と一緒にまわった時のことです。支部を組織するためにインドネシアのバンドン市に参り

ました。そこで、新しく支部長に召された兄弟からとても興味深い話をうかがいました。彼はすばらしい人でした。この教会に入れたことをとても喜んでいました。私は彼がどのようにして教会を知ったかを尋ねました。すると非常に興味深い話をしてくれたのです。彼はある時病気で医師のもとへ行きました。診察を終えるとその医師は、「あなたは熱心なクリスチャンでしょう」と言いました。「いいえ、私は仏教徒です。それとても熱心な」と彼は答えたそうです。けれども医師は、「で



も私は、あなたはきっと立派なクリスチャンになると思います。この町にあるキリスト教について調べてみたらいかがですか。」そう言って、いくつか宗派の名前をあげました。「でも、ひとつ注意しておきましょう。モルモンだけには気をつけなさいよ。」この時彼はモルモンという言葉初めて耳にしました。そしてこれが彼の好奇心をあおったのです。彼はその晩百科事典を引っ張り出し、モルモンについて調べました。でもあまりいいことは書いてありませんでした。それでも好奇心はおさまらず、さらに調べていました。それから、1日か2日後のこと、宣教師が彼の家のドアをノックしたのでした。こうして3、4週間後に、彼は奥さんと子供と一緒にこの教会に入りました。彼はそれまで福音について全く知りませんでしたし、礼拝の方法も宗教的な事柄についての理解も全く異っていました。けれども彼は見事に変わったのです。私は彼の話聞きながら、ひとつのことを考えました。それは、彼がキリスト教徒でなかったときでさえも、回復された福音は彼の心を打ち、聖霊はそれが真実であることを証したもうたということです。

そして、全くその通りだと感じました。予言者ジョセフ・スミスが森に入って祈りを捧げ、答えを受けたとき、どの教会に加わるべきか主に尋ねました。すると主は、いずれの教会にも加わってはならないと言われました。ジョセフ・スミスはキリスト教であるとなしとを問わずどの教会にも加わりませんでした。主が、すべての教会はことごとく誤っているとされたからです。聖霊は心の正直な人に福音の真理を証したもうのです。

今日、世界の多くの国々で、その国の言葉で福音が宣べ伝えられ、宣教師が外国語を覚え、人々と話す能力を授けられている様を見るにつけ、私は主が予言者ジョセフ・スミスに語られた言葉を思い出します。

「それより主の腕は力をもて現われ、諸々の国民と異教の国々とヨセフの家に、彼らの救いの福音を真に信ぜしむる日来るなり。

その日、イエス・キリストを啓示するために彼らの上に注がる『慰め主』の施したもうによりてこの能力を授けられたる者たちの口より、あらゆる人人は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん。』（教義と聖約90：10、11）

その国の言葉を使って伝道することは非常に大切なことです。フィリピンから台湾に向かう飛行機でアンダーソンというひとりの牧師と一緒にになりました。彼は台湾で集会を開くことになっており、その事を国中に宣伝していました。そしてそのテーマというのが、「私はキリスト教徒になるためになぜモルモン教会を離れたか」というものでした。ある宣教師たちはその集会に行き、話を聞きました。そして集会後、アンダーソン牧師のもとに行き、少し話をしました。アンダーソン牧師は通訳を使って話していましたので、宣教師たちが中国語を話すのに驚いていました。けれども宣教師たちにとってもっとおもしろいことがありました。通訳があまり上手でなかったため、モルモン教会を攻撃するほこ先がずれていたのです。アンダーソン牧師はモルモン教会には「神権」がないと言ったのですが、通訳は「司祭」がないと訳してしまったのです。もちろんこれでは、アンダーソン牧師の言おうとしたことと全く違ってきます。

どこに住んでいても、人は聖霊の力を受けて福音の真理を知ることができます。また神が生きておられ、イエスがキリストであり、キリストが時の絶頂に降誕して、教会をお建てになり、ユダヤ人によって十字架にかけられたことを知ることができます。

キリストの死と復活の後、大きな背教が起こり、神のみ名によって行なう権能を持つ人は地上にひとりもいなくなりました。それから長い年月の後、主は福音を回復する準備をされました。

このように、福音が回復されたことを説明していくとき、それが真実であることはキリスト教徒であるなしにかかわらず、ユダヤ人でも異邦人でも、心が正直でありさえすれば、みたまの告げる証によって理解できるのです。

約3年半前に私はインドネシアを訪れたとき、ジャカルタに来て4ヵ月しか経っていない4人の宣教師に会いました。彼らにはたった一つの翻訳されたチラシしかなく、「モルモン経」「教義と聖約」「高価なる真珠」はまだ翻訳されていませんでした。しかし宣教師たちは謙遜にそして熱心に伝道していました。福音の回復について語り、証を述べ、すでに24人の人たちにバプテスマを施していました。私たちは日曜日の集会に出席したのですが、日曜学校も聖餐会も約100人の出席があり、そのうち教会員はわずか24人でした。宣教師は大きな祝福を受けていました。集会には主のみたまがとどまっています。子供たちは「わたしは神の子」を歌い、とても上手でした。扶助協会も美しいコーラスを聞かせてくれました。

讚美歌を歌い、証を聞き、聖餐を受け、私はそこでみたまの証をかつてなく強く感じました。本当に福音は人を変えます。ここに集われている方々も、かつての家族や社会の習わしから訣別して、イエス・キリストの福音へと大きく生活を変えられたことと思います。福音とその教えを完全に受け入れ、その教えに従って生活するならば、必ず幸せがやってきます。

予言者ジョセフ・スミスは次のように言っています。「幸福こそが、私たちの存在する目的であり、理由である。そして、それが人生の目標である。この道は、徳、高潔、忠実、神の戒めをすべて守ることである。」しかし神の戒めを知らずして守ることはできません。またさらに深く知るためには、今知っている戒めを守る必要があります。アメリカのある大学教授が、最も幸せな男女のグループについて調査し、幸福になる条件をあげています。彼の調査によると、そのグループ全員が程度の差こそあれ、特定の心構えを持っていたことがわかりました。

まず第1は、仕事に打込むことです。私の会った人々で、幸福と言える人は、一人の例外もなく、何か自分自身のこと以外の仕事とか主義のために働かなければならない、という義務感を

もっていました。こういう人々は人生に対して一つの使命感を持っているので、自己中心的であったり自分だけの殻にとじこもったりはしません。彼らにとって幸福は義務と活動の副産物なのです。

第2はありのままの自己を認めることです。つまり恥ずかしがったり悩んだりすることなしに、自分自身、自分の性質をあるがままに認めます。不幸に出会えば、彼らもやはり他の人々と同様に苦しみますが、どうにもならないことはそれを耐え忍んで、人生のつとめを果してゆく力を現わすのです。彼らは今さら呼返すよしもない夢を思い出してくよくよするようなことをあまりしません。

第3は不確実なものに耐える力です。幸福な人は恐れたりおびえたりすることなしに、未知なるものと一緒に住むことができます。彼らは未知なるものを受入れ、ときにはそれに心を引かれることさえあります。正体のほどがわからないときにも、わからないままその未知なるものを受入れるのです。

第4にリアリズム。幸福な人はリアリストで、見せかけのもの、まやかしの、不正直なものなどを見抜くすぐれた能力をもっています。彼らは人生を桃色の眼鏡や黒いガラスを通して見ようとはしません。彼らは自分の欲求、希望、心配などよりも、むしろそこに現実に存在するものを見ます。また左右いずれにも極端に片寄ることをしません。

第5にもものを玩味する能力です。幸福な人は日常生活のありふれた楽しみを何度でも、新しくすなおに味わいとることのできる、ふしぎな能力をもっています。生活をたいくつなものにするようなことは決してしません。そして人々から受けたことに対して、絶えず感謝を表わします。(「リーダーズ・ダイジェスト」1967年12月号、ジョン・コード・ラングマン)

福音を理解している人にとって、これまで述べた5つの点はさらに大きな意味があります。マッケイ大管長は次のように言われました。「幸福だけを捜し求めている人は往々にして幸福を

見出せないが、他人のことを考えて生活を営む人、他人の幸福のために己れをむなしくする人は、2倍の幸福を得る。幸福とは、心に感じる暖かく安らいだ気持である。」(デビッド・O・マッケイ *Secrets of a Happy Life*, 「幸福な生活の秘訣」p.171—175)

本当の喜びと幸福はイエス・キリストの福音に従って初めて得られるものです。幸福の源は福音を理解し、それに従うところにあります。

私たちに、宣教師となって、人々に悔改めを叫ぶ責任が課せられています。人が悔い改めたとき、私たちはその人と共に喜びを抱くことができます。「而して、悔い改むる人を見て彼の喜びは如何に大なるか。而して汝らもし生涯今の世の人々に向けて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの喜び如何ばかりぞや。」(教義と聖約18:13、15)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。「この世の悪を正すのは、主イエス・キリストの福音をおいてほかにない。平和への望み、この世と霊的な繁栄への望み、また終局的に神の王国に住みたいという望みは、この回復された福音にのみ、またその福音を通じてのみ見出されるものである。我々の誰もが携わることのできる仕事のうちで、福音を宣べ伝え、この地上に教会、すなわち神の王国を打ち建てることほど重要なものはないのである。」(1972年4月大会説教「聖徒の道」1972年12月号)

福音はそれを受け入れ、それに従って生活するすべての人に平安と幸福をもたらしのです。

私たちは世の人々に次のようなメッセージを宣べ伝えています。

1. イエス・キリストは神の御子であり、人類の贖い主、救い主であって、救いは御子を通じてもたらされる。使徒ペテロもこのように述べています。「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒4:12)

2. イエス・キリストの福音が回復された。つまり、神は再び天より語り、イエス・キリストの福音を完全な形で回復されたのです。

何とすばらしいことでしょうか。神は生きておられ、イエスはキリストであり、天が開かれ、この時代に人は神と言葉を交わしたのです。ジョセフ・スミスは祈りの答えとして、神とキリストの訪れを受けました。ジョセフは御二方に尋ね、御二方はその質問に答え、何をすべきかを命じられました。ジョセフ・スミスは神にまみえたため、神がどのような御方かを知りました。神は人に似た姿をしておられました。人は神の姿に似たかたちをしています。今やジョセフは神を知りました。このため、神に対する一層の信仰と理解をもって祈ることができました。私たちに生命と救いの計画が明らかにされています。私たちはどこからきて、なぜここにおり、どこへ行くのかははっきりしています。救いを得るために必要な儀式が知らされ、その儀式を執行する権能すなわち神権が人に与えられています。

私は黙示者ヨハネが語った天使が実際に中空を飛んで永遠の福音を携えてきたことを証します。主は予言者ジョセフ・スミスに次のような啓示を与えておられます。

「さて、誠に主は言う。汝らこの世に住む者よ。これらのごとく汝らの中に知られんため、永遠の福音を持ち天の唯中を過りて飛ぶわが天の使を遣わせり。この使はすでにある者たちに現われ人間に福音を付したり。またこの使は、この世に住む多くの者に現わるべし。

而して、この福音はあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、およびあらゆる世の人々に宣べ伝えられん。

神の僕らは出で行きて声高く言うべし。神を畏れて栄を神に帰せよ。神の審判の時来りたればなり。

また、天と地と海と水の源とを造りたる者を礼拝し、(教義と聖約 133:36—39)

主は世界に散在するイスラエルを集めるために再び手を伸ばされました。

現在教会が急激に大きくなっている様を見るにつけ、私たちはネブカデネザル王の見た夢を思い出します。人の手によらずに山から切り出された小さな石が転がり出て、やがて全地に満ちたという夢です。また、ひとつの像があって、その頭は純金、胸と両腕は銀、腹とももは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土でできていました。予言者ダニエルはこの夢を解き明かして次のように言っています。

「あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。

こうして鉄と、粘土と、青銅と、銀と、金とはみな共に砕けて、夏の打ち場のみみがらのようになり、風に吹き

払われて、あとかたもなくなりました。ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。」(ダニエル 2:34、35)

ダニエルはさらに、王と王国にとってその夢はどのような意味があるか、また体の各部分と像が、王国とどのように関連づけられるかを説明しました。ダニエルはかかとと足が王国を表わしていることに触れて、次のように述べています。

「その足の指の一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。

あなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、それらは婚姻によって、互いに混ざるでしょう。しかし鉄と粘土とは相混じらないように、かれとこれと相合することはありません。

それらの王たちの世に、天の神は一

つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。

一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです。」(ダニエル 2:42-45)

私は天使が中空を飛んで、あらゆる国民、国語の民に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えてきたことが事実であることを証します。人手によらず山から切り出された小さな石が全地を満たすべく転がり出でています。

終りの時に至って福音が確立されたこと、戒めの声が万人に及ぶこと、主の僕らが出て行きてだれも彼らをとどめることができないこと、これらは主が語っておられることです。

「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。

また、およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは、彼らの罪悪は公に告げ知らされて、そのかくれたる行為の発かるべきを以てなり。

而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。

この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じたればなり。」(教義と聖約 1:1-5) これらの証をイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。





## 福音を教えるための 主のプログラム

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

**愛**する兄弟姉妹の皆様、この会は両親の夕べですので、私は福音を教えるということについて、皆様と共に考えてみたいと思います。

世の人々が懸命になって追い求めているもので、イエス・キリストの福音ほど必要なものはほかにないでしょう。それは、私たちが現在の堕落の状態から不死不滅と永遠の生命への状態に引き上げることでできるものは、福音をおいてほかにないからです。そして、天父なる神御自身がこの福音をお造りになりました。天父御自身がその大筋を定め、細目を決め、その定めに従って教えられたのです。

天父は、子供たちに福音を教えるという偉大な責任を、両親に託しました。天父御自身も、この世に生まれる前の霊の子供たちに福音を教え、また地上の人間には啓示をもって教えることにより、責任を果たしておられます。

もちろん私は、私たち全員が主が予言者ジョセフ・スミスに語った、「これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘」という言葉を理解していると考えています。(教義と聖約76:24)

アブラハムの語るところによれば、天父は天上の大会議において、私たちを含むすべての霊の子供たちに福音をお教えになりました。そして地球に来ている私たちは、福音を受け入れたため、この地上で肉体を受ける特権に浴したのです。

また、前世での生活は記憶から消さ

れ、私たちが自由意志を用いて主の命じたもうたあらゆる事柄を行なうか否かを試されることになりました。このようにして人は、この世の目的を完うするためには福音を学ばねばならなくなったのです。

従って私たちは、福音を教えるという大切な目的を達成するための主のプログラムについて、心に深く考えてみる必要があります。

このプログラムの先がけをされたのは天父御自身でした。天父はエデンの園において、アダムとイブに顔と顔を合わせて話し、教えを授けられました。そして禁断の木の実を食べて主のみ前から追放された後でも、アダムとイブは「エデンの園を指して行く途のかなた」から主の声が聞こえて、「主なる汝らの神を礼拝し、主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべし」と教えられたのです。そして、(記録によれば)アダムは主の戒めによく従いました。

「多くの日を経て、主の天使一人アダムに現れて言いけるは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。」(モーセ5:4-6)

そこで天使はアダムにイエス・キリストの福音を教えました。アダムはその教えを心から何の疑いもなく受け入れました。それも頭の中だけで理解したのではなく、原則に従ったのです。アダムは悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜を受けました。このようにし

て約束された祝福を得たのです。アダムは自分が子孫と共に贖われて再び神と共に住むことができると知って大いに喜びました。

このようにして、私たちの始祖アダムとイブは、父なる神と神の正式の代理人である天使から直接、福音を知らされたのでした。福音を教えるこの方式は、世の初めに神が定めたもうたものですが、それ以来変わっていません。

新しい神権時代が訪れるたびごとに、主は選ばれた僕に直接福音を啓示してこられました。

アダムがまだ生きていたときでさえ、主は新たにエノクに、またその後はノアに福音を啓示されました。大洪水の後も同じように、ジェレド人に、アブラハムに、そしてモーセ、ニーファイ人にと、啓示が与えられています。時の絶頂にはイエス御自身がおいでになり、説教と模範によって福音を教えられました。

そしてこの末日に天父と御子が予言者ジョセフを訪れ、福音を授けました。そればかりでなく、多くの天の使いたちが予言者のもとに送られ、すべての原則、儀式が更新されたのです。天父と御子から遣わされた天の使いたちは福音を宣べかつその儀式を執り行なう権能である神権を、ジョセフ・スミスに授けました。

両親の責任

さて次は、主が両親に対して与えられた、子供を育てる責任について考え

てみましょう。これは、主の福音を教えるプログラムの中で第2の段階をなすものです。

初めてアダムとイブに福音を宣べたもうたとき、主はこう語られました。

「われ汝に一つの誠命を与えてこれらの事を汝らの子らに自由に教えしむ。」(モーセ6:58)

「アダムとイブとは…息子娘らにすべての事を知らしめたり。」(モーセ5:12)

私たちはアブラハムもこのようにしたことを知っています。主が彼をほめてこう言われたからです。

「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。」(創世18:19)

また主はモーセを通じて、イスラエルの子らにこう命じられました。

「努めてこれ(神の言葉)をあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」(申命6:7)

エリは神殿の祭司長でしたが、子供たちは悪事を働き、彼の手に負えませんでした。主は言われました。

「わたしはエリに、彼が知っている悪事のゆえに、その家を永久に罰することを告げる。その子らが神をけがしているのに、彼がそれをとめなかったからである。」(Iサムエル3:13)

パウロは、エペソ人の父親にこう報告しました。

「父なる者よ、子供をおこらせないで、主の薫陶と訓誡とによって、彼らを育てなさい。」(エペソ6:4)

ニーファイは「善い父母」から生まれたといっていますが、これは彼らが「父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教え」を授けたからです。もちろん福音の知識もあったことでしょう。(Iニーファイ1:1)

イノスも父親のことを「正しい人」と言っています。それは「父の言葉で教え、また主の愛と誠命とを私に教えながら」です。(イノス1)

さらに民に福音を宣べ伝えたモーサヤ王は、もしも民が福音を信じるならば、「真の道を行う事と真面目でなけ

ればならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教える」はずであると語っています。(モーサヤ4:15)

そしてこの末日の神権時代、主は教会が設立されてまだ2年と経たないうちに、両親に子供を教育する責任があることを次のようにお教えになりました。

「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。

およそシオン、またはその組織せられたるステーキ部内に住める者の律法はかくの如し。

また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68:25、26、28)

そしてそれから1年半後、主は、子供の教育を怠ったことで、主だった指導者を責められました。

「……われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。

されど、われ誠にながらわが僕フレデリック・ジー・ウィリヤムスに告ぐ。……汝はいまだにわが誠命に従いて汝の子供たちに光明と真理を教え居らず。さればかの悪魔はいまだに汝を支配し居れり、これ汝の苦しみを受くる所以なり。

……汝もし救われんと欲せば自身の家を整うべし。汝の家には正しからざること多ければなり。」

主はシドニー・リグドンにも同じように叱責の言葉を下されました。

また予言者ジョセフ・スミスに対してはこう言われました。

「……汝は誠命を守らざりき。されば主の前にありて、必ず叱責を受けざるべからず。

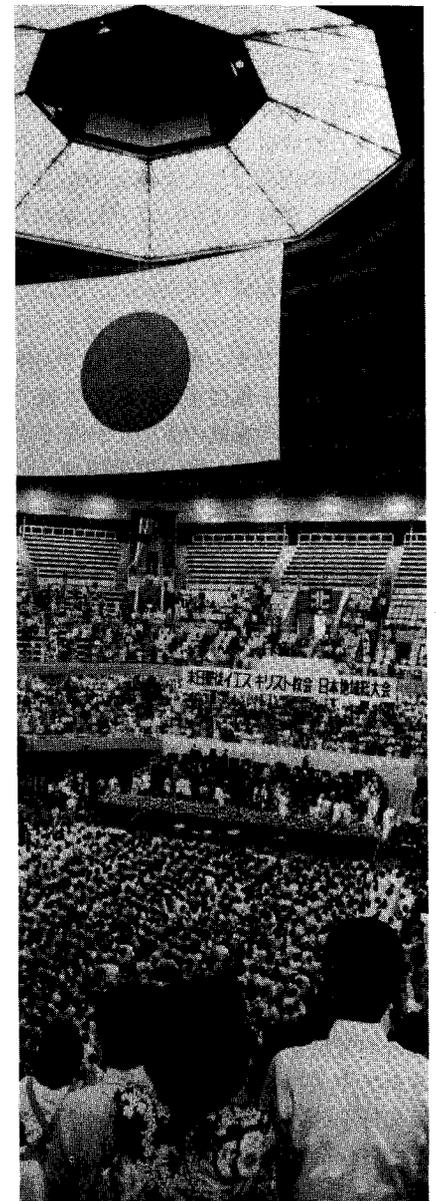
汝の家族共は必ず悔い改めて、或る事を捨て、また汝の言うことに一層誠実に心を留めざるべからず。……わが教会の一監督たるニューエル・ケイ・ホイットニーもまた必ず懲しめを受け、その家族を整うべきものなり。その家族の者共をして、家に在りて必ず今一

層勤勉に事にかかわらしめ、また常に祈りをなさしむべし。然らざれば、彼ら今居る所より立ちのかされん。」(教義と聖約93:40—43、47、48、50)

初期の頃から、教会の指導者は、子供を教えるという主の指示を実行するように強調し、奨励してきました。

1915年、大管長会は「ステーキ部長、監督およびシオンの両親へ」と題する通達を出しましたが、それにはすでに引用した教義と聖約第68章が添えてありました。ではその内容を御紹介致しましょう。

「シオンの子供たちは『あなたの父と母を敬え。これはあなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるため





ある』との戒めをさらに完全に守るようすべしです。(出エジプト20:12)

この啓示は末日聖徒が全力を傾けて取り入れなければならないものであり、この教会の両親は、この戒めを家庭の中で教え、実践していくように求められています。

この目標を達成するために、教会をあげて『家庭の夕べ』を始めるよう強く勧めるものです。両親が家庭で子供と共に集い、子供に主のみ言葉を教えるのです。この家庭の夕べで行なうのは、祈り、讃美歌、歌、器楽演奏、聖典の勉強、家族の問題や、その他福音の原則に基づいた特別なレッスン、また倫理上の問題さらに子が親や家庭、教会、社会、そして国に対して持つ義務と責任についての話し合いなどです。小さな子供たちのためには、簡単な話や歌、ゲームなどがいいでしょう。また、どこの家庭にもあるような軽い飲物も用意して下さい。

形式にとらわれることはこの際避けて、家族全員が参加できるような活動にしましょう。

こうして家族が共に集うとき、家庭の夕べは親と子、兄弟同士の信頼を増し、同時に両親が子供に対して警告と勧告の言葉を与える絶好の機会ともなるのです。この夕べを通じて子供たちは父母を敬い、家庭の一員として受けている祝福に感謝するのです。そうするとき、主の約束は文字通り実現し、

この人生における幸福はさらに長く続くことでしょう。

聖徒たちがこの勧告に従うならば、大いなる祝福がおとずれることを約束します。家庭は愛に満ち、両親への信頼は増し、イスラエルの若人に主を信ずる心が高まるでしょう。そして、悪の力と誘惑に対抗する力を得るようになるのです。

敬具

ジョセフ・F・スミス

アントン・H・ランド

チャールズ・W・ペンローズ

(Improvement Era「インブループメント・エラ」1915年6月号,P,733-734)

現在、大管長の靈感あふれる指導により、教会をあげて毎週の家庭の夕べで福音を教えることが、改めて強調されています。そして教える際の指針として、「家庭の夕べ」というテキストが全家庭に配布されています。

最初のテキストには大管長のメッセージが次のように記されています。

「教会の両親の皆様へ

『家庭において福音を教え、実践する』ためのこれらのレッスンは、毎週の家庭の夕べに役だてていただくために作られたものです。

従って自由に使って下さい。年齢や家族構成に合わせて変更を加えて下さい。子供たちが主について理解し、祈

り、主のみ前に正しく歩むように教える責任は両親の頭に課せられているのです。そして、私たちが声を大にして言わなければならないのは、『いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない』ということです。

両親が子供たちをまわりに集め、真理と正義、愛と信頼のうちに彼らを導くよう心からお勧めします。家庭は正しい生活の基です。子孫を育て、教えるのに、家庭に代わるところはないのです。この困難な時期にあつて、いかなる場所においても、いかなる組織、いかなる手段をもってしても、家庭における愛と正義、教えと模範、そして家庭において喜んで義務を果たすこと以上に問題解決の手段はありません。

以上のことから明らかなように、福音を教えるための主のプログラムの第二段階は両親に委ねられています。

#### 神権者の責任

さて、教会員に福音を教えるための主のプログラムの第三の面を見てみましょう。

この地上に再び主の教会が組織される日のことが啓示されましたが、その同じ啓示で、主は、神権を持つ者に課せられる責任について説明を加えました。次のように書いてあります。

「説き、教え、釈き、勧め……各会員の家を訪れ、彼らが声をあげてもひそかにても祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそむように勧め、もし必要ならば長老を助くべきものとす。」(教義と聖約20:46、47、52)

この啓示は、結局のところ、「各会員の家を訪れて彼らが声をあげてもひそかにても祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそむように勧め」る第一の責任が長老にあると言っています。

教師の義務という点から考えてみても、これは真実です。主はこう説明しておられます。

「教師の義務は常に教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。

また教会員の中に邪曲なきよう、互いの間に頑固なることのなきよう、また虚言、蔭口、悪口などもなき様注意

すべきものとする。

また教会員のしばしば集会することをはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」(教義と聖約20:53-55)

兄弟姉妹の皆さん、これまであげてきた教えに照らしてみると、主は福音を教えるにあたって実に明確なプログラムを与えられました。これには皆さんも同意されるでしょう。主は、このプログラムを推進するために全力を傾

けられたのです。

予言者たちも同じようにして与えられた責任を果たしてきたことは明らかです。

私たち子を持つ親にとって、また神権者にとって大切なのは、子供を教えるという責任を忠実に果たし、ホームティーチングを忠実にこなすということです。この地に間もなく神殿が建てられる予定です。このニュースを聞いた両親の皆さんは子供の教育にさらに

力を入れられることでしょうし、神権指導者はさらに忠実にホームティーチングプログラムを行なうことでしょう。

そうするならば、必ずや約束されている恵みを受けるでしょう。私がこれまで話してきた事柄が真実であることを証し、またへりくだり祈ります。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

8月9日(土) 両親の集いにおける説教

## 幸福な家庭の土台

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

一 の集いに、夫婦や両親がそろって出席して下さり感謝しています。かつて、その国の文化にもよりましたが、男性が奥さんを教会に連れてこないという傾向がありました。もちろん教会には男女別の集会もあります。男性には神権会が、女性には扶助協会があります。しかし、それ以外の集会や社交活動では、奥さんは御主人と一諸にいるようにしていただきたいのです。

兄弟姉妹の皆様、私は、家族が直面している最大の課題は、愛と感謝に満ちた幸福な家庭を築き上げることだと思います。幸福な結婚と言っても、しばしば耳にするような、甘い、うわついたものではありません。むしろ、自分の伴侶や子供たちの幸福を願う切実な気持ちだと思います。「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし」(詩篇127:1)と言われ

ています。

このような大きな建物には必ずしっかりした土台が必要です。これから幸福な家庭を築くための4つの土台をお話してみたいと思います。その前に、約束しておきましょう。皆様が私の提案に従って家庭を築いて下されば、皆様の生活も、子供たちの生活も必ず実りあるものとなり、喜びも永遠のものになります。

まず第一は、敬い合うことです。この気持は自分が何者か、なぜここにいるのかを知り、永遠の目標を知れば、おのずから生まれてきます。私たちは皆神の子ですから、何か特別神聖なものを必ず受けついでいます。この世でも、父親というものは、その息子と娘を同じように愛しているものです。ですから、同じように天父も、その息子と娘を平等に愛しておられるに違いありません。ある娘だけが何とか悪く言

われるのは、天父にとってうれしいことではないでしょう。もちろん、家庭を管理するのは御主人です。しかし、だからと言って、傲慢な態度やおせっかいや間違った支配はいけません。

兄弟の皆様、皆様の最も大切な永遠の財産は、妻であり、伴侶であり、子供の母親である女性です。永遠の父なる神の娘である女性に充分敬意を払っていただきたいのです。愛し、思いやり、敬い、いたわって、まことの交わりを持っていただきたいのです。

マッケイ大管長の言葉に次のようなものがあります。「子供たちに与える最大の感化は、父親が母親を愛しているということを彼らに示すことである。」

奥さん方、御主人を敬って下さい。教会で働く御主人を励まして下さい。神権を持ち、主のみ名によって語り、祝福し、永遠の目的を知って家庭を管

理する夫を持ち、父親を持つということは、大きな祝福なのです。

家族を管理している父親の皆様、神権の管理については主のみ言葉に従うことが最善の方法なのです。主はこのような啓示を下しておられます。

「如何なる権力も勢力も神権によりて維持する能わず、または維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また、親切と淨き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。

すなわち、聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。」(教義と聖約 121:41-43)

父親である方々は、この言葉を何度も読んでいただきたいと思います。この勧告に従って下されば、奥さんも、子供たちも、皆幸福になれると約束します。そして、年が経つにつれ、主に感謝を捧げる理由もわかって参ります。

第2の土台は、第1の土台と深い関係があります。これを「柔らかない答」とでも言いましょか。箴言で「柔らかない答は、憤りをとどめ、」(箴言 15:1)とあります。家庭における静か

な言葉こそ、平安をもたらす言葉です。ひとたび声をあげれば小さかったはずの不和も大きな争いになってしまいます。お互いにどなりあっているような家庭は、主の家ではなく、正義に反する家です。穏やかな会話をしている家庭の奥さんや子供たちは、何と恵まれていることでしょうか。

愛の声、平安の声、尊敬の声は、静かな声です。兄弟姉妹の皆様、このことをよく考えて下さい。必ず大きな祝福を受けることができます。

第3は、什分の一や献金を正直に納めることです。様々な経済上の問題をかかえている人がおられることを知っています。インフレが進んで、必要な出費もまかなうことがなかなか困難になってきました。食費をきりつめ、やっとの思いで生活しておられる方が多いことも存じています。しかしながら、主の戒めを守ると誓約を交した皆様は、正直に、什分の一と献金を納めていただきたいと思っています。神様は戒めを守る人々にすばらしい約束を与えておられます。マラキの言葉は御存知のことと思います。今日それに、ベンジャミン王が民に語った言葉を読みましょう。

「ごらん、神がお前たちに要求なさる

のは、お前たちが神の命令に従うことだけである。それで神は、『汝らもし神の命令を守らば地に栄ゆべし』という誓約をお前たちに立てたもうた。そして神は一度口に出したことを変えたまわれないから、お前たちが神の命令を守るならば神は必ずお前たちを祝福して栄えさせたもう。

主なる神がこのように言いたもうたから、以上のことが真実であることを忘れずに記憶せよ。」(モーサヤ 2:22,41)

最初に主に対する務めを果たしていただきたいと思います。主の約束は偉大であり、それを果たす力も驚くべきものです。私は、主が必ず約束を守られることを証し致します。

最後の4番目の土台は、家族の祈りです。結婚生活には時々悩みがありますが、これを解決するために、祈り程よいものではありません。主の前にひざまずき、互に向かいあい、感謝を述べ合い、欠点を告白し、許しを請い、強さを求めて祈るのです。祈りを生活の習慣にし、家庭の行事にして下さい。毎朝ひざまずいて感謝を捧げ、一日の活動の導きと主の祝福を願い、一日の終わりにも、主の前にひざまずいて一日の働きを報告するのです

神が皆様を祝福して下さいますよう



に、尊敬し合い、ささえ合い、励まし合い、助け合ってください。穏やかにまた思いやりを持って語り合ってください。また正直に什分の一や献金を納めましょう。そうすれば、主の慈悲のみに頼らず、当然の権利として、主に祝福を求めることができます。祈りによって

主と交わり、感謝を捧げ、祝福を請い求めて下さい。そのようにするなら、主との交わりが一層うるわしいものとなることでしょう。お互いに愛と感謝の気持も強くなるでしょう。子供に関心を払っていれば、いつかヨハネのように言う日が来ることでしょう。「わ

たしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」(Ⅲヨハネ4)

証し申し上げます。努力さえすれば、福音こそ、結婚生活と家族生活を成功させる鍵なのです。主が皆様を祝福して下さいよう、イエス・キリストのみ名により、お祈りいたします。アーメン。

8月9日(土) 両親の集いにおける説教

## 扶助協会

# 真の幸福をもらす生活への指針

扶助協会中央管理会会長

バーバラ・B・スミス



**私**は東京に参りましてから、皆様の心尽くしと愛をいっぱい受けました。そして今晚は天使の歌声を聞いたように思いました。愛する兄弟姉妹の皆様、私はこのすばらしい大会で教会の姉妹を代表してお話する機会をいただき、心から喜んでいきます。

扶助協会の姉妹が「両親の集い」でお話することは、ふさわしいことだと思います。それは扶助協会が創立以来、神権組織の傍らにあって助けとなってきたからです。神権と女性の組織のこの関係は必須のものです。予言者ジョセフ・スミスは、「神権組織にならぬ神権の機能によって扶助協会を組織したとき、「あなた方は神権組織を通して指示を受ける」(History of the Church「教会歴史」4:6,7)また必要なきときは、神権者に助言を求めることができると語っています。

扶助協会は全世界の女性のため、教会初期に、神の予言者を通して靈感によって組織されました。創立に当たって、予言者は役員を任命し、彼女たち

に委任された仕事の範囲内で扶助協会の事柄を指示する特権を与えました。私は、教会における神権と女性の組織との関係は社会の基本単位である家庭を象徴しているように思います。家庭にはまず、両親がいます。神権の権能によって家族を管理する族長である父親と、神様から与えられた役割の中で働き族長の伴侶である母親と、子供たちがいます。愛ある父親は、親切と理解をもって家族を正しく導き治めます。今、タナー副管長が教会幹部に召されてソルトレーク・シティーに来るよう求められたときのお話をしたいと思います。タナー副管長は、その召しが自分の生涯だけでなく、タナー姉妹の生涯にも非常に大きな影響を及ぼすことを感じました。そこでタナー姉妹に相談しました。

「この新しい家を離れることをどう思う？」

「そうね。これはただの建物にすぎないでしょ！」

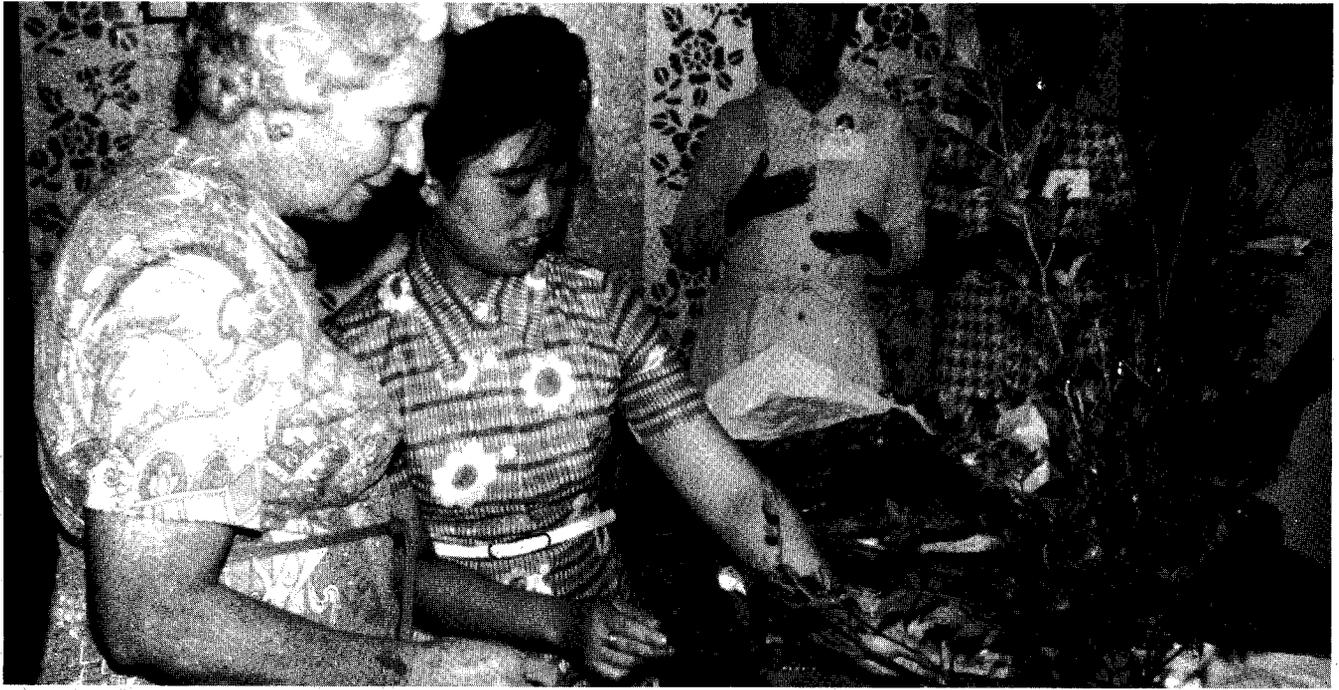
もちろん、その会話には、カナダにおけると同様に、また別の家に落ち着

けるという意味が含まれていました。御夫妻は、その召しが、おふたりの生活の中で最も大切なことを悟っておられました。おふたりは相談し、共に行動し、同じ決定を下されたのです。

この男女の関係は福音の教えを強調するものであると思います。主は「男と女を創造し」、それぞれの役割をはっきりと定められました。男女のそれぞれの分野についてお話するとき、私は、マッケイ大管長の言葉を思い出します。

男女の世界を個別に語るののは的確でない。なぜなら、それは分かつことができないからである……一般にふたりは同じ興味、希望、抱負を抱く。男性の成功は女性にかかっており、女性の成功は男性にかかっている。(扶助協会誌 1940年1月号 P.17)

既婚、独身を問わず、女性が最も大きな成功を収め、最も幸福を感じ、また社会に対して最も大きな貢献をなしてきた活動は、ホームメイキングの分野でしょう。ホームメイキングについ



て、前会長のベル・S・スパッフォード姉妹は、次のように語っています。

愛、平和、平安、家族の一致、安心感といった、靈的に価値ある事柄を考慮するのがホームメイキングです。ホームメイキングは、家庭を、家族が混乱した世の中から離れて意志の疎通を図り、元気を回復することのできる場所にします。平静がその特質であり、それは品のよい趣味、教養、文化をうかがわせます。(ベル・S・スパッフォード *A Woman's Reach* 「女性の及ぼす感化」 P.24)

この言葉は、高度の芸術的センスを持ち、家族に尽くしておられる日本女性の皆様にぴったりの言葉だと思えます。

既婚、独身を問わず、教会の女性はすべて、真の幸福をもたらす生活を営む術を身につけることが大切です。その最も高度なものがホームメイキングです。女性は、社会や子供たちに、より一層大きな影響を及ぼし、夫や他の兄弟たちのさらに大きな支えとなり、また教会や地域社会での責任を果たし、愛ある奉仕をすることができるに違いありません。

そのような家庭においては、女性は家族と自分自身の必要に心を配ります。またできるだけその必要を満たそうと

将来の備えをします。そして家族のために、細かな点に至るまで、生活を改善する努力を続けます。どのような方法を用いれば一番よいかを学び、あらゆる事柄を行なうときに節約を實踐します。またホームメイキングを上達させる技術を学びます。たとえそれが自分に経験のないことでも学びます。また上手な時間の使い方を学び、家計をやりくりして、家庭の中を美しく整えることを学びます。決して怠けません。

キンボール姉妹は、このような生活を営むすばらしい模範です。かつて子供が全員家に居て、その世話が必要なときに、ひとりの幼ない御息が小児マヒにかかりました。一家を切り盛りする問題が増し、病気の子供には特別の助けが必要でした。時々アリゾナ州サッチャーのこじんまりした家から遠く離れた専門医に連れていかなければなりません。さらに、他の子供たちの面倒も見なければなりません。キンボール姉妹は、祈りの気持で問題を考え、この特別な問題がある間、子供たちに、病院通いを重荷としてではなく、家族一緒にの外出と考えさせるように努めました。よく計画することによって、主婦としての務めを果たし、骨身を惜しまず一層の関心を示して家族を守り、家族の大きな支えとなられ

たのです。

皆様の中には、いつ、どこで、どのようにしたらこのことを知り、しかも母親としての責任を果たせるだろうかと考えておられる方もいらっしゃるでしょう。

そこで私はこの質問にお答えするために、主が女性のために組織して下さった扶助協会の大切さについて、再びお話ししたいと思います。1942年、ヒーバー・J・グラント大管長とその副管長は、扶助協会を「世界で類のない、神の啓示によって設立された組織である」と述べています。扶助協会は、世界のいかなる女性組織も獲得できない地位を得ています。大管長会は姉妹たちに、扶助協会に参加することは他のどのような方法によっても身につけることのできない、知的、靈的、文化的、かつ実用的な教育を受ける機会であると言われました。また、他の団体に加入したり、外部の事柄に関心を向けることによって、扶助協会のプログラムから気持をそらはならないと勧告されました。

聖典には、教会員は福音の原則に従うことによりあらゆる祝福を得ることができる」と記されています。私たち姉妹が扶助協会から祝福を得るときにも、全く同じことが言えます。女性が求め

るこれらの祝福は、プログラムにすべて参加することによって初めて得られるのです。

私は、日本の姉妹の皆様がこのすばらしい組織を利用して、ホームメイキングの分野における大切な務めを果た

すため努力を続けられますよう心から願っています。これは皆様が大きな影響を与える場となり、また最大の幸福を見出す場となることでしょう。

神様は生きておられ、真の愛をもって導き、私たちが自らの身と霊を高め

て、みもとに帰るにふさわしい者となるよう望んでおられることを証します。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

8月9日(土) 両親の集いにおける説教

## 忌まわしいこと

十二使徒評議員会補助

スターリング・W・シル

一 の世に住むすべての人には、ひとつの大きな責任が課せられています。それは、自分の生活と子供の生活を最善のものにするという責任です。それを全うするためには、主のみ言葉に従うことが極めて大切です。主はこの世における私たちの崇高な目的に関連して、次のように述べておられます。「見よ、わたしは、きょう、あなたがたの前に祝福と、のろいとを置く。……あなたがたの神、主の命令に聞き従うならば、祝福を受けるであろう。もしあなたがたの神、主の命令に聞き従わずば、のろいを受けるであろう。」(申命11:26-28参照)アブラハムの子孫は大いなる国民になると主は約束されました。そのための条件はただひとつ、戒めを守ることだけでした。私たちにもこのことが言えます。またいつの時代でもそうでした。主の道をそれる人には必ず困難が生じ、正しく生活する人には大きな祝福がもたらされるのです。

主はイスラエルの民をエジプトの捕われから解放した後、シナイ山のふもとに集めました。そして主は雲に包まれて山の上に下られたのでした。雷と稲妻の下で、神はイスラエルに律法を

授けられました。こうして民は40年間荒野をさまよった後、約束の地へ入る備えができました。当時すでにその約束の地は完全な耕作地となっていました。主はヨルダン川の岸で民に言われました。「あなたがたは自分の建てなかつた町へ住み、自分の植えなかつたぶどうの木から食べ、自分の掘らなかつた井戸から水を飲むだろう。」(ヨシュア24:13参照) 私たちも全く同じ状態にいます。自分の植えない木から食べ、自分の掘らない井戸から飲んでいます。そして、自分が携わらない所から、数え切れないほどの様々な恵みを得ているのです。主はイスラエルに、「食べて飽きるときに、主を忘れないように」とおっしゃっています(申命8:10, 11参照)が、これは私たちも何度か戒められた言葉でした。祝福を授けて下さる方をいつも思い起こそうではありませんか。主はイスラエルに、その地の民が邪悪で主の目にのろわしいので、彼らを追放すると言われました。

こうしてイスラエルはまず、頑強な砦をもつ町エリコに立ち向かいました。主は彼らに、この町を攻略する方法を細々と告げられました。そしてエリコ

の民が罪深かったために、その町のすべてのものが破壊されることになったのでした。けれどもイスラエルの民は、エリコの町の富はいかなるものも自分の所有とすることを許されませんでした。

主が以前に完全な勝利を宣言しておられたので、イスラエルはすぐに兵を進めました。しかし、指示に従わない人はいつもいるようです。ヨシュアの率いる中にアカンという名の兵がいましたが、彼はエリコの町の金を自分の天幕に隠してしまいました。

次の町アイは、取るに足らない小さな町でした。そこでヨシュアは自信を持って兵を送りましたが、彼らはアイの軍隊の前には太刀打ちできませんでした。エリコで力を発揮した兵たちも、アイでは散々な目にあい、混乱して逃げ出し、大勢の者が捕えられました。打ち負かされて士気を失った兵たちの「心は消えて水のようになった」(ヨシュア7:5)と記されています。

そのことでヨシュアは地にひれ伏し、ちりをかぶって、衣服を裂き、「主なる神よ、……われわれはヨルダンの向こうに、安んじてとどまればよかつたのです。すでに敵に背を向けた今となっ

て、わたしはまた何を言い得ましょう。」  
(ヨシュア 7:8)

すると主は、3,400年後の今日において、個人にも国家にも通用する大切な律法を与えられたのでした。主は言われました。「立ちなさい。あなたはどのようにして、そのようにひれ伏しているのか。イスラエルは罪を犯し、わたしが彼らに命じておいた契約を破った。彼らは奉納物を取り、盗み、かつ偽って、それを自分の所有物のうちに入れた。それでイスラエルの人々は敵に当ることができず、敵に背を向けた。彼らも滅ぼされるべきものとなったからである。あなたがたが、その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから滅ぼし去るのでなければ、わたしはもはやあなたがたと共にいないであろう。」  
(ヨシュア 7:10-12) そこでヨシュアはアカンの罪をあばき、アカンは石で撃たれ、火で焼かれました。(ヨシ

ユア 7:25参照) この結果、軍隊は清められ、アイに対して完全な勝利を得たのでした。(ヨシュア 8)

主は私たちが悪から清められ、力を受けられるように、この偉大な悔改めの律法を与えて下さいました。私たちの天幕の中に罪があれば、必ず滅びが訪れます。ヨシュアの場合と同様、自らの経験によっても教訓を得ることができます。文明であれ個人であれ、生活それ自体が清められ、清くない人は罰せられるのです。20世紀の世が直面している最大の危険は、核兵器の脅威ではなく、私たち自身の天幕の中の罪なのです。

アリストテレスがアレキサンダー大王に語ったように、最大の敵は、敵軍にではなく、いつも自分の陣営の中に、ひそんでいるのです。アルコール、タバコ、不道德な行為はどれをとっても忌むべきものです。私たちは実りある

幸せな生活に備えて、あらゆる不義から生活を清めなければなりません。清くないものが私たちを取り巻いているからです。そしてもし自らを清めなければ、今から数千年も前に下された恐ろしい裁きの言葉が私たちに下ることになります。「あなたには罪がある。それ故、敵の前に立つことはできない。そしてわたしはもはやあなたがたと共にいないであろう。」(ヨシュア 7:13, 12参照)

一方、偉大な神の戒めを守るならば、人生の最大の祝福である幸せと永遠の生命にあずかることができます。私たちは実に、神のすがたに創造された者だからです。このことをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

8月9日(土) 両親の集いにおける説教

## 子を教えよ

大管長

スペンサー・W・キンボール

**次** 代をになう子供たちを持つ父親、母親の皆様、このすばらしい大会でお会いでき、私は心から喜んでます。両親の方々にお話するにあたって、私たちは、子供たちに十分なしつけを行っているだろうかと考えました。

初めに、主は男と女を創造し、儀式を施して、それぞれを夫とし、妻と致しました。主が与えられた最初の戒めは、生み殖やして地を満たせということでした。この戒めには、生まれてくる子供たちを訓練するという大きな責任が付随しています。主は両親に対し

てその子らを養い育てるよう命じておられますが、その聖句についてはロムニー副管長をはじめとするほかの方々から引用されました。

私はもう一度、教義と聖約68章を引用したいと思います。「また、シオンにて子供を有する両親ならば、その子供八歳の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば」、その罪は両親にくだされます。(教義と聖約68:25参照)

私は年齢が定められていることにつ

いて考えてみたいと思います。主は子供が8歳になったときに教え始めるようにとは言われませんでした。そのときには、すでにこれら福音の大切な教義を知っていないかではないのです。子供が失敗したらいつも両親にその責任が問われるというわけではありませんが、子供の失敗の責任が両親にある場合が多いのです。

モルモン経を読みますと、予言者リ一ハイは子供たちについて述べ、子供たちに対する責任が自分にあることを述べた個所があります。「しかしごら



ん、私の孫たちよ。私はお前たちに祝福を与えなかったなら安心して死ねない。私はお前たちが従うべき道に従って育てられたなら、その道から外れないことを知っているからである。」(II ニーファイ 4 : 5) これは、すでに箴言に語られていた教えを繰り返し述べたものです。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22 : 6) そして、リーハイはこう続けます。「それで、もしこれからお前たちがのろわれるならば、そののろいがお前たちから取り去られて、のろいの下った責がお前たちの両親の頭に帰するように、私は祝福をお前たちに残しておく。」(II ニーファイ 4 : 6)

受けた教えをすべて無視し、従わずにその責めを自らに招いている反抗的な息子や娘は確かにいます。だからといって、私たち両親は子供を訓練する責任からまぬがれることはできないのです。

主はこの時代に次のように言っておられます。「汝は、今なお引きつづきこの罪に定められたり。すなわち、汝は

いまだにわが戒命に従いて汝の子供たちに光明と真理を教え居らず、」(教義と聖約 93 : 41、42)

もし、私たちが若人に教えなかったことで罪に定められるとしたら、それは皆さんにとって、また私にとってどれほど恐ろしいことでしょうか。実に多くの若人が自分の人生に対して両親が具体的な方向づけをしてくれることを期待しています。子供に行動の限界を設けてあげることが、子供への愛の表現なのです。何の制限もせず子供にしたい放題をさせるということは、子供に余り関心を持っていないことを表現しているのです。

両親や社会に反抗的な若人のことを考えますと、彼らの両親は家族の祈りを欠かさず捧げているのだろうかと思わずにはいられません。また定期的に家庭の夕べを開いているのでしょうか。子供たちに忠実であるべきこと、正直であるべきことを教えているのでしょうか。ほとんどの親は、その子供に住む場所を与え、病気のときは看護し、薬を与え、身なりを整えさせるために衣服を与え、成長するように食物を与え

ます。けれども、子供たちの霊に対して何をしていますでしょうか。

冬の寒い日に学校へ通う子供たちには暖かい服装をさせます。底の厚い靴をはかせ、オーバーシューズをはかせ、厚手のオーバーを着せ、首にはえりまきを巻かせ、厚手の手袋を与えて、子供たちを寒さから守ろうとします。けれども、この子供たちは、ほかの子供や教師その他の人々の誤った思想やイデオロギーから守られているのでしょうか。スキダイバーは、体が冷えないようにゴムの服を着ます。けれども、このスキダイビングをする若者は、祈り、家族、霊の訓練によって冷たく暗い世界から守られているのでしょうか。そのような世界で若者は毎日、飲み、食べ、眠り、遊んでいるのです。水泳選手は、オイルやグリスを塗って、体が冷え、しめるのを防いでいます。しかし、私たちが今住んでいる冷たいじとじとした世界から、子供たちは守られているのでしょうか。

あるとき、私は家族のことで問題を抱えているひとりの女性と面接しました。家族について伺っていると、そ

の夫人も御主人もそれぞれ8人の兄弟を持っていました。2人は結婚するまで同じ町に住んでいました。奥さんには7人の兄弟姉妹がいましたが、全員教会で活発でした。御主人の7人の兄弟姉妹は全員不活発でした。私は一体どうしてこれほど違う家族になったのかと思いました。この二家族は同じ町に住み、同じ学校で同じ教師から学びました。けれども一方の家族の子供たちはほとんど全滅の状態でした。彼らは道をそれました。戒めを守ることができませんでした。けれども、もう一方の家族は全員、両親の教えに忠実でした。私はさらに面接を続けてその理由がわかりました。原因は両親にあったのです。一方の家族では、両親は霊的な事柄を全くかえりみませんでした。けれども、もう一方の両親はすべてに忠実でした。家庭の夕べ、家族の祈り、什分の一、その他末日聖徒が求められているすべてのことに。

またロサンゼルスに行った時のことです。そこで少年院を訪れました。収容されている少年たちが逃げ出せないように、へいは高く網がめぐらされ、

あらゆる手段が講じられていました。見学も終りに近づいたころ、私は案内の方に尋ねました。「こうしてみますと、白人や黒人や、さまざまな皮ふの色をした人々が収容されていますが、東洋の人は見当たりませんでした。東洋人が収容されていないのはどうしたわけなのでしょう。」彼の答えに私は思いを新たにしました。「東洋人の親子は心のつながりがあるからです。親が家族の長であって、子供たちは従うことを教えられながら成長するのですよ。」私はその時以来、彼の言ったことに関心を抱き続けてきました。多くの判事は、しつけをよく受けなくて育った少年たちに対して裁判をしなければならぬのが実情です。そして、それが通例のことになっているようです。

私は子供たちを義のうちに育てておられる東洋の方々に感心しています。どうぞ、続けてこれを行なわれますように。皆さんが家族で管理する息子 娘によく教えて下さい。皆さんが家族と共にいるとき、子供たちに主のすべての戒めを守るよう力づけて下さい。

今宵、皆さんと共にすばらしい一時

を過ごしてまいりましたが、この会を終えるにあたって、ペテロと他の十二使徒の経験を再び考えてみたいと思います。主はペテロに「人々は人の子をだれと言っているか」と尋ねました。すると御存知のように、彼らは「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちはエリヤだと言います。また、……」と答えました。そこで主は、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」と尋ねました。このとき、ペテロは十二使徒を代表して言いました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」そして、主は、キリストが神の子であるというその証を持った人々の頭に祝福を注がれました。

私の証を申し上げたいと思います。ベツレヘムで生まれ、カルバリで亡くなった御方は生ける神の御子です。私はこの証を愛と祝福を込め、主イエス・キリストのみ名により皆さんに申し上げます。アーメン。





## 約束された将来

十二使徒評議員会会長

エズラ・タフト・ベンソン

**若**い兄弟姉妹の皆さん、このように皆さんの前に立って、私はへりくだり、感謝の気持を覚えています。私は皆さんが神の選ばれた息子、娘であることを存じています。皆さんは貴い霊であり、特別な理由があって今この特別な時に地上に送られてきました。

神は皆さん一人一人、またすべての子供たちを愛しておられます。神が望み、目的とされること、また神の栄光は、皆さんが神のみ前に永遠に住むにふさわしいことを証明し、清く汚れないまま前に帰ることです。

皆さんはこの偉大な国における教会の将来であり、未来の指導者であり、立派な両親のもとに家庭と教会で育かれた結実であるといえましょう。信仰のうちに強く踏みとどまり、悪にあっても揺るがないで下さい。そしてパウロが言ったように、「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ 6:11, 12)

私は率直にまた正直にお話したいと思います。皆さんは私たちが皆さんを愛していることを御存知だと思います。教会の指導者として私たちは、この教会の若人にとって良いことは何でもすべて行なっています。私たちは皆さんに大きな信頼を寄せています。皆さんはありきたりの青年男女ではありません。

選ばれた霊であって、多くの方は今日、大きな誘惑と責任と機会に満ちたこの時代に、この世に送られてきたのです。

まず私たちは、皆さんが幸せになることを願っています。悪の中に幸せはありません。悪事を行なっていて自分は正しいと感じることはできません。それは不可能なことです。正しい生活をすれば必ず報いがあります。自らを清く保ち、世の汚れに染まらず、肉体と思いを清く保てば、それは報われます。一時のスリルを味わうために、幸福な年月を犠牲にしないで下さい。清く生活して下さい。大きな悔いや心の痛みを残すことのない生活を送って下さい。

重大な過ちを犯した若人から教会本部に寄せられる手紙の中には、非常な悲しみを投げかけるものがいくつかあります。そのひとつを、名前を伏せて皆さんにお話したいと思います。この愛らしいモルモン少女は次のように書いてきました。「私は今、絶望のどん底でこの手紙を書いています。ほかの人たちが私と同じ苦しみを味わうことのないように、これが警告になればと思っています。罪のしずくが私の心に落ちるまでは、幸せで楽しい日々を送っていました。もし、昔の日々をとり戻すことができるのであれば、私は今持っているもの、これから持つことができるものをすべて差し出してもよいと思っています。人生をこれほどま

での悲しみと破壊に追いやる所に入り込んでいたとは知りませんでした。

私は今、心に感じている苦しみと後悔の念をお伝えできたらと思います。自己嫌悪に陥り、人生で最も大切なものが失われたことを感じています。私は、この世の刺激やスリルにもう夢中でした。けれども手に残ったのは灰でしかありませんでした。

若い女性の皆さんにお伝えしたいと思います。気どらない生活をして下さい。そして女性の友だち、お母さん、家族と親しく交わる喜びを知って下さい。清らかな自分を失わないようにしていれば、いつの日かふさわしいときに、人生の喜びと感動を味わうことが出来ます。決して急がないで下さい。急ぐと、ちょうどつばみがふくらむ前に霜にうたれた花のように、あなたの手の中でそれはしぼんでしまいます。どうか、両親が注意するときに、その言葉に聞き従って下さい。」

私たちはいつも神の計画に心を留めており、その神の計画は男女のひとつの標準を与えています。その標準とは道徳上の清さのことです。

デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べています。「真の女性らしさが試されるのは、純潔を問われる法廷において、罪なくして立つときです。真の女性の持つあらゆる徳のうち最も高く輝くのがこの純潔です。イエスキリストの教会に道徳の標準はひとつしかありません。若い男性も同様に罪

を犯してはなりません。清い女性と共に聖壇にぬかずに先立ち、監督のもとへ行って推薦状を受けるとき、男性も女性と同じ純潔が求められるのです。」(Gospel Ideals「福音の理想」P.417)

世の人々が何をしようと何を言おうと、教会と神の王国における純潔は依然として変わりません。ですから、若い女性の皆さん、自分を大切にしてください。嘆きや悲しみを招く交際に足を踏み入れないでください。不道徳の上に幸せな家庭は築けません。それは不可能です。

神の神権をもつ若い兄弟の皆さん、皆さんは女性を守らなくてはなりません。デートの相手の女性を自由に扱う特権が男性にあるわけではないのです。結婚の誓約を交わすときまで、甘く親密な交際を控えてください。これは神が結婚した人のために、賢明な栄えある目的をもって備えられたものです。幸福になるには、このように生活しなければなりません。

私たちは皆さんに幸福になっていたきたいと思います。人類が現世にあるのは幸福を得るためです。主は皆さんに充実した、健全な、喜びあふれる生活を、するよう望んでおられます。そのためには福音に対する証を持

たなければなりません。真理の証を持つことは実にすばらしいことです。経済的、社会的に逆境に置かれているとき、証がどれほどの力を発揮するか、私はその実例をたくさん目にしてきました。そしてこういう結論に到達しています。それはこの業が神のみ業であるという証を持っているならば、どんなことにも耐え、霊を健全な状態に維持できるということです。

皆さんは、充実した、健全な、喜びあふれる生活を送りたいと思うなら、真理の証、この偉大なみ業に対する証を持たなければなりません。皆さんはこの証を求め、祈り、ふさわしい生活をする必要があります。そうすればこの証は必ず得られます。なぜならば、天におられる神は、神が生きておられること、イエスがキリストであること、ジョセフ・スミスが予言者であり、今日スペンサー・W・キンボール大管長が予言者であることをすべての子供たちが知って欲しいと望んでいらっしゃるからです。皆さん一人一人がふさわしく生活するならば、以上のことが真実であることを知ることができるでしょう。

もうひとつ、私の信じていることがあります。それは、本当の幸福を得よ

うとしている若い兄弟たちが、神権の恵みを感じて生活するように神は望んでおられるということです。この教会の若い兄弟で、神権、すなわちメルゲゼデク神権を受けずに幸せを感じる人はいないと思います。この世と永遠の幸福は神権と深いつながりを持っています。この世で人が得ることのできる最大の名誉は、キリストの真の教会に籍を置き、真理に対する証を持ち、聖なる神権を持つことです。

真の幸福を得るには、神の宮居でこの世と永遠にわたる結婚をする必要があります。このすばらしい地に皆さんの神殿を持てることは、何とすばらしい祝福でしょうか。神殿の中で行なわれる結婚と外で行なわれる結婚は全く別のもだからです。この結婚は神のみこころにかなうものです。神殿で結婚すべき理由はたくさんありますが、その中で最も大切な理由は、日の光栄の王国の最高の栄えで、皆さんの両親や子供たちと一緒に、神のみ前に住むためにはこれが大前提となるということです。

天父は、教会の若人をはじめすべての会員が日の光栄の王国で昇栄することを望んでおられるに違いありません。私たちは低い王国を目指して努力しているではありません。私たちは月の光栄の王国や星の光栄の王国を願ってはいません。この教会の若人は日の光栄の王国とその王国の最高の栄えに入る候補者です。このためには多くのことが求められます。標準、特に日常生活での標準について非常に多くのことが要求されます。これはただ教会へ行くとか、ただ神権を持つとか、世間の標準から見て幸福であればよいとかという意味ではありません。教会のすべての標準に完全に従うことが求められるのです。

これは肉体と心の両面で清くあるということです。現代の世に見られる呪いは、不貞です。これは殺人に次ぐ罪とされています。不道徳の上に幸せな家庭や幸せな結婚生活を築くことはできません。

また、正しく結婚したのち、親となる祝福にあずかるのを不当に延ばして



はなりません。結婚生活の一部である甘く親密な交わりを享受する一方で、親となる責任を回避するのは、神の喜ばれることではありません。世の人々はこのことに無頓着ですが、これは神の王国の標準なのです。神は地に殖え、地を満たす責任を私たちに課せられたとき、何の留保や条件もつけられませんでした。結婚の主な目的はこの責任を果たすことにあるのです。

皆さんは決して標準を下げてはなりません。結婚の誓約によらないふしだらな関係にふけていて、悪い結果が生まれませんがありません。神の律法を破れば必ず、心の痛み、悲しみ、悔い、自己嫌悪といった罰を受けなければなりません。そして、神のみたまから遠ざかってゆくのです。

この話を聞いている皆さんの中で、悲しむべき過ちを犯してしまった人がいても、その人々は絶望だとは申しません。悔改めと赦しは、福音の一部からです。そのことを神に感謝して下さい。しかし、本当の悔改めとは、罪を心の底から悲しみ、生活を変えることです。単に罪を告白するだけではありません。心の底から深く罪を悲しむならば、私たちは自然にひざまずいて、へりくだり、涙を流し、そして心から罪を悲しむことによって生活を変えることでしょう。その時にはじめて、天の神はその憐みと愛によって、私たちを赦すかどうかを決められるのです。地上に住む神権者ではなく、神が裁きを、しかも最終的な裁きを行なわれるのです。

私たちは多難な時代に住んでいます。サタンは虎視眈々と皆さんをねらっています。サタンは皆さんを墮落させようとして、甘言でそそのかすことでしょう。サタンは戒めを与えて人を正すようなことはせず、「独自の自由」、つまり、タバコを吸い、酒を飲む自由、幻覚剤を使う自由を与え、何かのとりこにして墮落させようとするのです。サタンは、皆さんが若く、活力が最も盛んで、周囲から刺激を受けやすく、感情が細やかなことを知っています。私の知る限り、今日ほど、悪魔がその力を結集させ、多くの使者を抱えてい

るときはなかったと思います。今日サタンは攻撃のまとを若人と、私たちの基盤である家庭と家族にしぼっています。その証拠は、あらゆる所で見られます。誘惑は非常にこうかつで、数限りなく、また突然にやってきます。皆さんの両親が考えもしなかったような誘惑がこの時代ではごく当たり前なのです。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこのように述べています。「教会の歴史を通じて今日ほど、多くの誘惑、落とし穴、危険があり、教会員を義務の道と義からそらせようとする時はない。」(Take Heed to Yourselves 「己に心を留めよ」、P. 127)

またこのようにも言っています。「現在の世は良い方向に前進してはいない……悪が増大している。」(同上P. 207)

確かに私たちは邪悪な世の中に住んでいます。私の記憶からしても、悪の軍勢がこれほどまでにその勢いを持っていたときはありません。あらゆる所で悲しい、胸の張り裂けるような出来事が目に映ります。悪魔から派生した破壊への圧力が、文学に、芸術、映画、ラジオ、服装、ダンス、テレビに、さらには言わゆる現代の音楽にも表われています。サタンは家庭、家族、特に若人を弱め、滅ぼすために、いろいろな手段を使います。これはかつてなかったことです。サタンの攻撃は現在皆さんに、私たちの大切な若人に向けられているのです。

皆さんは、現代音楽、現代芸術、性倒錯に見られるように、悪魔の手に取り囲まれ、攻撃を受けています。特に、幻覚剤(LSD、マリファナ、その他)の使用、大衆の雑誌や若人に向けた地下出版書、テレビ、映画、ラジオ、ポルノ文学、その他いかがわしい雑誌にこの悪魔の手がはっきりうかがえます。

よいもの、神聖なもの、精神を高めるもの、清いものは、すべて攻撃を受け、吹き飛ばされそうになっています。私の記憶では、昨日までの標準が一夜にして無くなるなどということはありませんでした。私は世界中の多くの国を訪れてきた者のひとりとしてこのことが言えます。今日ほど、悪魔が力

を得、組織的に動いている時代はありません。若人がこのようなチャレンジを受けたこともありません。若人に力と勇気と信仰がこれほど必要とされる時代でもありませんでした。

ニューファイ第二書28章で、主は予言者を通じこのように言われました。「ごらん、その時に(私は現代をさしていると思います。)悪魔はある人々の心に入って荒々しい行いをさせ、またこの人たちに善い事を怒らせる。またほかの人々をなだめ、この人たちをすかして肉欲をほしいままにさせるから、その人々は『シオンの中では万事よろしい。シオンは栄えて実に何事もみなよろしい』と言う。このように悪魔はこの人々をだまし、心を配って地獄へつれて行くのである。悪魔はまたほかの或る人々にへつらってこの人々を迷わせ、地獄はないものであると言い、このように耳にささやいて一度かかったら決して逃れられない恐しい鎖でとうとう縛ってしまう。」(IIニューファイ 28: 20—22)

この言葉は今日の世の中の状態を実によく言い表わしています。さて、若い兄弟姉妹の皆さん、主は、立って己が光を輝かし、「国民の旗じるし」となるよう命じておられます。(教義と聖約115: 5参照)主はこう言われました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

主は、私たちに世の光となるよう望んでおられます。皆さんが世の光となり、主が言われたように、立って己が光を輝かすとは、何とすばらしい召しであり、責任でしょうか。

私たちは教会の若人が主が望んでおられるような生活をするよう心から願っています。皆さんは選ばれた人々です。また特別な人々でもあります。ペテロが聖徒に宛てて書いた言葉を覚えていることでしょう。「あなたがたは、選ばれた種族、王国の祭司、聖なる国民、神につける民である。」(Iペテロ 2:9)この教会の若人は、いろいろな点で特別です。福音に従って生活して

いるならば、その標準において特別です。

兄弟姉妹、このことを覚えておいて下さい。皆さんは、教会の標準と教えと理想に従って生活しているならば、必ず真の男性、真の女性と呼ばれる人人の仲間に加えられることでしょう。勧告されているにもかかわらず、世の中に合わせようとするとき、私たちは世の中の誤った標準に追従するようになってしまいます。新しい世の中の標準が優勢を占めていますが、神の義の子らは、必ず来るよき日のために備え、その日を待って、最も高い標準に従って生活しなければなりません。

ですから、愛する兄弟姉妹、教会の大切な若人であり、主の愛を受けている皆さん、これらのことについて真剣に考えて下さい。これらのことについて、断食し、祈って下さい。主は答えて下さいます。皆さんがそれを成し遂げ、幸福になるよう主は望んでおられるからです。

私たちも皆さんが幸せになることを

願っています。そしてそれは、たとえ邪悪に満ちた世の中であっても可能です。皆さんに安易な生活は望んでいません。問題を抱え、落胆し、心の痛みを感じることでしょう。人が成長するのは、成功と安楽の絶頂にあるときではありません。心が痛み、落胆し、逆境の谷底に落とされたときに、強い性格を身につけることがしばしばあるのです。しかし、神はこの世が基本的に満足と喜びをもたらすものとなるよう意図されました。

申し上げたいことはまだありますが、最後に、私たちが皆さんに心から望んでいることを申し上げたいと思います。それは、皆さんが日の光栄の王国の最高の位で昇栄することです。これはどういう意味でしょうか。この世と永遠にわたる、新しくかつ永遠の結婚の誓約を交わすということです。日の光栄の最高の位で昇栄するためには絶対必要な条件です。言葉を言いかえすと、神の神殿で結婚するということです。

すべてのことははっきりとしていま

す。主はしもべを通じて語られ、私たちが歩むべき道について現在も勧告が与えられています。

若い兄弟姉妹、皆さんの上に神の祝福がありますように。私たちが神の祝福を受けて、世の人々が何を言い、何をしようとも、神の道を歩み、鉄の棒にしっかりと握り、信仰に忠実であって、また主が主の教会に定められた標準を維持し、安全で高められる道を歩むことができますように。

扉は開かれています。計画は示されています。権威と権能は地上にあります。ですから皆さん次第です。この計画に従って生活すれば、幸せになり、成功し、愛する人と共に日の光栄の王国で昇栄するのです。

このことをすべての人に願い、祈りつつ、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

8月9日(土) 青少年の集いにおける説教

## あなたの霊を 強めなさい

管理監督会第一副監督

H・バーク・ピーターソン



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、今夜この集いに出席できたことは私にとって大きな喜びです。日本訪問に先立ち、私は日本の伝統や歴史についてたくさんの本を読んできました。中でもこの素晴らしい国での教会の発展に興味深く読みました。ですから、皆さんが世界の他の国々の若人と同じように、多くの夢や希望を持っていることをよく知っています。

私には5人の娘がいますので、皆さんが大人になる過程でどのような思いを抱くかをよく承知しているつもりです。私は娘たちを通して、若人の皆さんには多くの試練や問題があり、また満たされないものがあることを知ったのです。孤独なときもあるでしょう。学校で末日聖徒の標準を守っている人がひとりかふたりしかない場合には特にそうでしょう。また悲しいときも

あるでしょう。何もかもがうまく行かず社会全体が自分の敵のように思えるとき、また反対にすべてが順調にいてまるで天国にでもいるような幸福を感じずる特別なときもあるでしょう。私は皆さん一人一人が非常に大切な要求を持っておられることを承知しています。その要求とは、皆さんが大切な存在として認められることです。つまり、求められ必要とされていることを感じ



ることです。若人の皆さんは特別な人になりたいと思うのです。自分の周囲を見回して、学校や教会で自分の隣りにいる人が、自分よりも優れているように思うのは人の本性のようです。つまり自分よりも才能があるように思えたり、美しく見えたりするものです。自分の周囲を見回して、自分がこうなりたいと思う人物を見つけるのは難しいことではありません。

皆さんに証したいと思います。皆さんはそれぞれ特別な理由があってこの地上に生を受けました。幾人かの人ではなく、すべての人が例外なく特別な理由によってこの世にきました。私は皆さん全員が必要な才能と能力を備えていることを知っています。皆さんは目的を遂げるためにこの世に来たのです。皆さんにはこの世においてある大切な、善き業を果たす能力があります。それは皆さんが行なわなければ、ほかの誰もしません。皆さんは自ら選んでこの地上に来たのです。また理由があってこの日本に住んでいるのです。

顔かたちや行ないが周囲の人のようでないからといって悲観してはなりません。違ってよいのです。顔かたちや行ないは一人一人が違ってはいいです。なぜなら、この世で捧げるものは異なるからです。つまり、もし皆さんが提供しなければ他の人々が得ることのできない善なるものを皆さんは

持っているからです。一人一人が特別な存在であり、大切であるということをご皆さんに理解していただきたいと思っています。私は約束します。皆さんはごく簡単な1、2の事柄を行なうときに、この意味を理解し、信じることでできることでしょう。

最も大切なことは、今夜床に就く前と朝起きたときにひざまずいて祈ることです。この場に集っている方は全員、朝に夕に祈りを捧げるようにして下さい。しばしの間、ひとりになれる場所に行きましょう。そして才能を伸ばすことができるよう助けを求めて天父に祈って下さい。毎日善いことを行なえるよう祈って下さい。また毎日他の人を助けることができるよう導きを仰いで下さい。問題を解決できるよう助けを求めて下さい。さて、私たちは祈りは主のみこころにかなったときに答えられるということを知らなければなりません。私たちが願ってもすぐには祈りの答えを受けられないことがよくあります。しかし主は私たちの祈りが正しく、私たちに答えを受ける準備ができていたと考えられたときに祈りに答えて下さいます。幸福な奉仕の生活を送る準備をするのに最も大切なことは、祈る習慣を身につけることです。祈りのない生活からは何も生まれません。

次に大切なことは、毎日聖典の勉強をすることです。毎日15分間、モルモ

ン経を読むようチャレンジしたいと思います。今日からそれを実行するならば素晴らしい霊的な経験をするに違いありません。私はそのことを約束します。霊の訓練を引き延ばさないように、今夜から始めて下さい。主は御自分の王国の指導者として皆さん方若い兄弟姉妹を必要としておられます。皆さんはこの奉仕という素晴らしい機会を通して、多くの喜びを得ることができることでしょう。祈りと聖典の勉強によって霊は強められ、サタンが惑わそうとするときにも皆さんの霊は十分サタンの力に耐えられることでしょう。サタンは自分の意のままになる手段を備えており、その手段のひとつは、皆さんが正しくない、みだらな映画を見に行くことです。皆さんの中には、いかがわしく霊のためによくはない小説や雑誌を読みたいと思う人は誰もいないと思います。他の人がそうしているからといって正当化することはできません。皆さんを滅ぼそうとして戦うサタンの最も有効な武器は不道徳です。性は特別な目的のためにあり、正式な婚姻関係以外に用いられるべきものではありません。ペットィングは正しい行為ではありません。いかなる形であれ正しくありません。少しだけならよいということはありません。程度は問わず、ペットィングは悪いことです。どうかこのことを知らない人々に惑わされて

道を誤ることのないようにしていただき  
きたいと思います。

サタンは非常に狡猾です。私たちに  
悪いことを良いことのように思わせる  
力を持っています。

これまで私は各地の教会の若人に会  
ってきましたが、主のみこころにそい、  
また必要なことであれば何でもしよ  
う、指導者の勧告に従い、主の要求に対  
しては、すべてを捧げようとする若人の  
姿にいつも胸を打たれました。

キンボール大管長は、若い兄弟の皆  
さんが、準備をして伝道の業にさらに  
献身するようにと、勧告しておられま  
す。最近、私は日系人のある若者に会  
いました。彼はハワイの方です。彼は  
末日聖徒であることを恥としない何人  
かの若者たちと交わった後、宣教師に  
レッスンをお願いしました。そして父  
親の許可を得てバプテスマを受けまし  
た。両親は彼が間違った方向に進んで  
いると思いましたが、教会に入っても  
すぐにあきるだろうと思って別に反対  
もしませんでした。この若者の家は経  
済的にも恵まれていたので、彼は将来  
学校に行って医者になる計画を立てて  
いました。

ところが教会に入って間もなく、彼  
は両親に伝道に行きたいと話し、援助

してくれるかどうか尋ねました。当然  
両親はそんな気はないと答えました。  
両親は息子のしていることが信じられ  
なかったのです。彼は学校をやめて伝  
道に出たいと言いました。ところが両  
親は、このままいけば医者になれるの  
に伝道なんて何と愚かなことを、と答  
えたのです。でも彼はあきらめません  
でした。それから彼は貯金をし、何人  
かの友人の援助を受けることができま  
した。そして韓国で伝道するように召  
されたのでした。

彼は伝道中のことをこう話してくれ  
ました。伝道に出てから2、3カ月経っ  
たとき、両親が息子に会いに韓国にや  
ってきました。父親は彼に言いました。  
「もうこれ位で十分だろう。私たちは  
我慢してきたし、理解してきたつもり  
だ。……もう家に帰って勉強をはじめ  
てもいいんじゃないかね。」両親は息  
子を連れて帰るつもりでした。しかし  
彼は家には帰らない、自分は正しいこ  
とをしているのだからここを離れるこ  
とはできない、そして自分は主から召  
されているのでこの地を離れるわけに  
はいかないと答えました。両親はこの  
ことを理解できたでしょうか？

父親は彼に教育のことを話し、学資  
をすべて出そうと言いました。しかし

息子はそれを断わり、宣教師の責任を  
放棄することはできないと答えました。  
伝道は医者になることよりもはるかに  
大切なことだったのでした。

父親は続けて、もし彼が伝道をやめて  
一緒に帰らなければ勘当すると言いま  
した。しかしこの宣教師はあくまで帰  
らないと言いつづけたのです。

こうしてその宣教師は、自分がどの  
ようにして家族から勘当されたかを話  
してくれました。両親は彼を家から追  
い出したのです。伝道を終えたとき、  
彼には帰る家がありませんでした。こ  
の若者は伝道を終え、現在、大学へ行  
くかたわら働いて学資を得ています。

若人の皆さん、皆さんは予言者の勧  
告と助言に従うためであれば、何でも  
行なう方々です。教会員であることに  
対して弁解はしません。皆さんは、救  
い主に代って宣教師となるために準備  
しなければならないことは何でも行な  
い、将来の召しを待つ人なのです。

愛する若人の皆さん、天父なる神は  
実在する御方であり、皆さんを愛して  
いらっしゃいます。イエスはキリスト  
であり、この教会の頭です。このこと  
をイエス・キリストのみ名によって証  
します。アーメン。

8月9日(土) 青少年の集いにおける説教

## 人生は価値ある 旅路です！

七十人最高評議員会会長

ポール・H・ダン

**愛**する兄弟姉妹、こんばんわ、うま  
く言えたでしょうか。私がこの大  
会で何の話をすればよいのかヒンクレ  
ー長老に尋ねてみますと、彼は「野球  
の話はどうだろうか」とのことでした。

それできょうは野球の話をしようと思  
います。

ある大リーグの試合を観戦してい  
たときのことで。私は一見して牧師さ  
んだとわかる方と隣り合わせになりま



した。試合が進むにつれて、彼が地元  
チームの猛烈なファンであることがは  
っきりわかりました。と言うのも、彼  
はたえず大声で応援し、審判が不利な  
判定などしようものなら、野次を飛ば



していたからです。八回まで零対零の均衡を保っていました。九回の表に相手チームの一番バッターが、ランナーを二塁に置いて、ショートの前で痛烈なゴロを打ちました。二塁ランナーは三塁を回って一挙にホームへ突っ込んできました。ショートはボールをはじきながらもよく押え、好球をホームへ送りました。走者とキャッチャーがもつれました。その土煙りの中から、審判は「セーフ！」と叫んだのです。

それを見て、牧師さんはカーッときたようでした。立ち上って誰よりも大きな声でこう叫んだのです。「目がついているのか、どこを見ているんだ！」

私は、皆さんがもっている理想に深い感銘をおぼえています。また皆さんが福音を知り真理を受け入れる目を持っていることをうれしく思います。

きょう、このように若い兄弟姉妹の皆さんとお会い出来ることを名誉に思います。いつも私の慰めとなっているのは世界中のどこへ出かけても、教会には、有能で献身的な若い末日聖徒が大勢いることです。彼らは召されれば、いつでも喜んで指導者としての責任を受けます。このような皆さんに心から敬意を表したいと思います。

ちょうど一年ほど前の今頃、私は心臓の切開手術を受け、立つこともできませんでした。正直に言いますと、全

快出来ると希望は持っていましたが、いつも「この前の話が最後になるのでは？」との思いが胸をよぎりました。人が死に直面すると、過去の出来事が走馬燈のように頭に浮んでくると聞いています。ある程度、私の場合もそうであったと思います。

私は20歳までのことを心の中で振り返ってみました。その頃の最大の関心事と言えば、プロ野球の選手になることでした。そして多くの若者が味わったように、兵役によってその目標が打ち砕かれたことを思い起こしました。また高校や大学で経験したこと、妻と出会ったときのことを思い起こしました。娘たちが成長していくさまや家族全員が楽しく過ごした日々を思い起こしました。それから、教会のセミナーやインスティテュートで若人に教えたすばらしい数々の経験とイエス・キリストの福音を全世界に広めるために兄弟たちと一つになって、働き過ごした日々のことを思い返しました。そして面白いことに、皆さんのことを思ったのでした。皆さんは「それはまたどうして！」などと思われることと思いますが、ちょうどこんなふうでした。「さて、君はこれまで教会の全世界の若人に長年話をしてきた。仮に今、5分間だけ彼らと過ごす時間があるとすれば、何を話すのかね。」

主の慈悲と愛のおかげと、友であり、

愛するはらからである兄弟たちが施してくれた灌油の儀式により、私は今日ここで皆さんの前に立って話す機会を与えられています。

若い友だちである皆さん、あなたにお伝えしたいことがあります。それは、天のお父さまは一人一人に心をかけて下さる愛ある父だということです。このことを一番よく知っている人は、もっともよく祈り神に近づく人です。「われに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ。さらば与えられ、叩けよ。さらば開かることを得ん。」(教義と聖約88：63)

私は人生がチャレンジに満ちていることを感謝しています。皆さんがこの地上に送られて来たのは、樂をするためではなく、試されるためであることをよく覚えている必要があります。それは「信仰の度を試してからでない」と(イテル12：6)本当の証は得られないからです。ですから、私たちは問題、困難、失望、悲しみなどに直面しますが、私は確信をもって皆さんに申し上げたいと思います。人生は旅をする価値があります。人生は楽しくまたすばらしいものであります。そしてまさしく「幸福を得んため」(第IIニーファイ2：25)にここにいるのです。

世の中には、「幸福になるには自分

自身のことをしていればいい」という考えがありますが、それとは対照的に私は喜んで、人に与える度合に応じて、喜びと幸福が与えられることを知りました。レーマン人の王の祈りを思い出して下さい。

「われ汝を知るようわが一切の罪を捨てん。」(アルマ22:18参照)

これこそ模範とすべきことです。またモルモン経の予言者の一人が、人のために務めることは「ただ神のために務めただけである」(モーサヤ2:16)と教えたことを覚えておられますか。全くこの教えの通りだと心から思いません。

人生という旅路の中で喜びも苦しみ

も味わって来た者として、皆さんにも一度証したいと思います。神が生きておられ、祈りに答えられるが故に、人生は価値があります。この末日聖徒イエス・キリスト教会には回復された福音があります。生ける予言者が私たちを導いておられます。その方はスペンサー・W・キンボール大管長です。そうです。人生は価値ある旅路です。福音によって人生の目的と展望とが与えられ、避けることの出来ない問題と試練をのりこえる力が与えられているからです。今晚、ここで皆さん方一人一人が、この人生の旅路を価値あるものとし、主に仕える備えをなし、偉大な宣教師や献身的な末日聖徒になるよ

うにチャレンジしたいと思います。

最後に、モルモン経の一節を引用して私の証を述べたいと思います。

「神は民がどこに居ってもこれを心にかけ、これを数え、自身の心に満ちている慈悲深い恩恵を全世界に及ぼしたもう。これが私の喜びであり、また私が非常に感謝をするところである。私はとこしえに私の神に感謝を捧げよう。」(アルマ26:37)

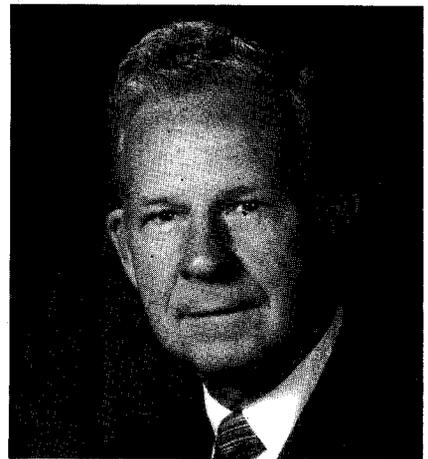
すべてをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

8月9日(土) 青少年の集いにおける説教

## 兄弟たちを強くすべし

十二使徒評議員会会員

マービン・J・アシュトン



**若**人の皆さん、私は皆さんを心から愛しています。皆さんと共にこの霊的な集会に出席できたことを喜んでます。兄弟、姉妹である皆さんと知り合えるこの機会はまだことに素晴らしい経験です。

神が皆さんを心にかけ、愛しておられることを証します。皆さんをお見捨てにはなりません。正義にかなって神を求め人々には、神はいつでも応えて下さいます。今日、私は皆さんに、お互いに強め合うことが神に愛を示すことであると申し上げたいのです。皆さんの会話や祈り、訓戒、その他あらゆる行いによって、知人や友人を感化して下さい。機会あるごとに人を益する言葉を語りましょう。人を批判し、あざしがしをし、中傷したくなった時

には、自分の舌を制しましょう。

もし私たちが教義と聖約108:7、8に示されている模範に従うなら、私たちの生活はどんなにか祝福されることでしょう。

「この故に、すべての談話により、すべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行為により、汝の兄弟たちを強くすべし。見よ、みよ、われ汝と共にありて汝を祝福し、永久に汝を救わん、アーメン。」

若人の皆さん、私はこの力強い聖句を読み、考えるたびに、「すべての」という言葉に強く心を据えられます。「すべての談話により、すべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行為により」救い主イエス・キリストはそのすべての教えによって御自身

のように人々を強くされました。イエスは人々のことを話され、御自分が出会い知り合った人々のことから私たちに教えて下さいました。イエスは目にされたことや友人のことを話され、模範を示して下さい、「汝らの言葉をし、互いに徳の向上に資するところあらしめよ」と言われました。(教義と聖約136:24)

私たちは皆、話好きで、またおしゃべりです。人のことを話すのが好きで、時には人を傷つけます。あるうわさは事実のように広まります。また事実無根のことでも(それを信じる人がいるため)現実となることもあります。また人の心をひどく傷つけることもあります。もし若人の皆さんが、「すべての談話により兄弟たちを強くする」と

いう責任を果たすなら、何とすばらしいことでしょうか。

次のような言葉があります。「主よ、どうぞ、今日、私の言葉を甘く、柔らかいものにして下さい。明日それを食べなくてはならぬことになるかもしれませんから。」下品な言葉は、聞く人、語る人の品位を下げるのに引き替え、思いやりのある言葉は人々を高めます。祈る時はいつも、助けを要する人、特にあなたが理解できない人のために祈って下さい。訓戒を与える時は、責めずに励ましてあげて下さい。

イエスは言われました。「パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。」(ヨハネ3:1) 次いでイエスはこの指導者のことを語って教えて下さいました。「律法学者たちやパリサイ人たちが姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた。」(ヨハネ8:3) しかしイエスは裁こうとなさらずに、その場に居合わせたすべての人と私たちに、そのことから教えを与えて下さいました。「ひとりの病人がいた。ラザロといい、……ベタニヤの人であった。」(ヨハネ11:1) 救い主はまた、この病人について多くを語られ

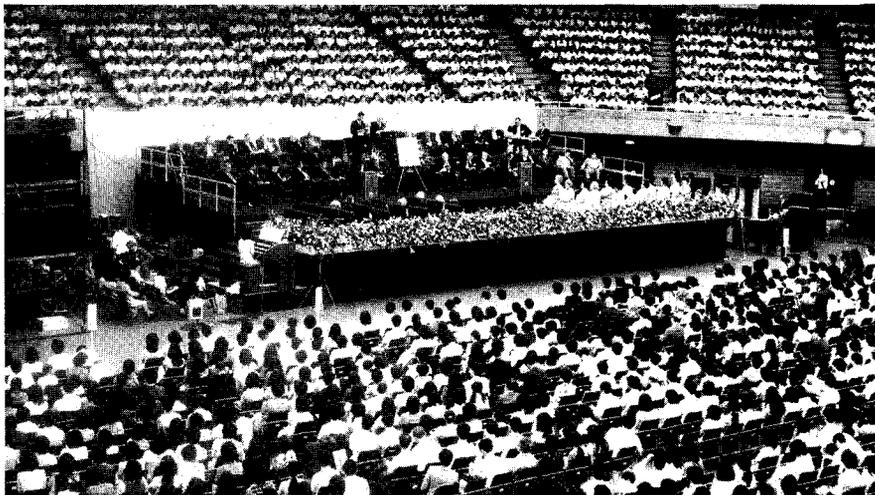
ず、癒しの力をお示しになりました。「ある人に、ふたりのむすこがあった。」(ルカ15:11) こう始められて、放蕩息子の話が語られました。主イエスはすべての行いにより、兄弟を強くされたのです。

同じような行い、会話、祈り、訓戒から、私たちは祝福と主の導きを受けるのです。「見よ、みよ、われ汝と共に在りて汝を祝福し、永久に汝を救わん」とは何と力強い言葉でしょう。

人々の良い面をもっと話して、「互いに徳の向上」を図るよう今日決心しようではありませんか。徳の向上とは

教え、恵みをもたらすことです。皆さんは、教え、恵みをもたらすとき、兄弟たちは強くなります。そして兄弟たちを強くすれば、それに応じて皆さん自身も強くなることを約束致します。

皆さんが、すべての行いと祈り、訓戒、会話のうちに、力と勇気を得て、兄弟たちを強められるよう、天父なる神に心から祈ります。この偉大な教会は、イエス・キリストの教会であり、真の教会であることを証します。すべてをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



8月9日(土) 青少年の集いにおける説教

## おのれを清く保て

大管長

スパンサー・W・キンボール

二の大きな建物が若人で埋まっている光景は、まさに感動に値します。私は皆さんを愛しています。心から愛しています。これまでの皆さんの姿を目にして、私は皆さんを誇りに感じています。とても清潔で、好感もてる、

身だしなみに気を配っている方々であることがわかります。誇らしく思います。皆さんが清く雄々しく成長し、人々の模範となるとき、共に喜び、一方不幸が訪れ、悔い悩むとき共に悲しみたいと思います。

大海原では、船舶の衝突、時には氷山との衝突という事故がひんぱんに起こっています。しかし、こういった衝突もやがて避けられることになりそうです。すべての船舶に警報装置が備えつけられ、その装置からテープが自動

的に作動して、「警戒。本船は物体に接近中」というアナウンスが流れ、警戒水域を離れるまで作動し続けるからです。

私は、教会の若人は健全であって、基本的に善良で立派な方々だと思っています。けれども、海図にない海へも船首を向け、航海しなければなりません。そこには、浅瀬や岩、氷山、その他危険なものがあることでしょう。

私たち教会の指導者には、危険を知らせる責任があります。そこで皆さんに申し上げたいと思います。皆さんは現在、警戒水域におり、さらには危険の只中に置かれることがあるでしょう。安全ベルトをしっかりと締めて下さい。大嵐に突入しようとしています。

「もしわたしがきて彼らに語らなかつたならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし今となっては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない。」(ヨハネ15:22) この救い主の言葉は、私たちが警告を受けたとき、それに耳を傾け、それに従い、浅瀬や岩や危険水域を避けなければならないということを語っています。

外国へ旅行して、その国の言葉や文字が理解できないと全く何もできません。

バベルの塔を築いた人々は、技術にたけた人々でした。道具がなくなれば、別のものを作り出し、技術者がいなくなれば、技術を学び直すことができました。けれども、バベルの塔の時代に互いに言葉を交わす力を奪われたとき、彼らは塔の建設をあきらめなければなりませんでした。

使徒パウロは私たちにこう警告しています。「不品行な者たちと交際してはいけない。……その悪人を、あなたがたの中から除いてしまいなさい。」

(Iコリント5:9、13) 教会の若人はこの教訓を学び、正しい交際をし、あなたの標準を下げるような人々と決して交わらないようにしていただきたいと思います。高い標準を共に維持できるような友だちを選んで下さい。

これまで何度も申し上げてきたことを今一度お話しておかなければなりません。不品行とそれに付随するあらゆる

る罪はこのことの大小を問わず邪悪なものであって、神はこれを非難しておられます。アダムの時代においても、モーセの時代、パウロの時代、そして現代1975年においてもこのことは真実です。教会は誤った性関係をいささかも容認することはありません。「すなわち、主なるわれは罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり。」(教義と聖約1:31) これが罪に対する主の考えです。けれども、主は悔い改める人に愛を示し、真実に悔い改める人を赦して下さいます。

使徒パウロは、肉欲に従う者、姦淫をする者、不品行な者、清くない者、みだらな者を非難したのち、正しくない者は神の国をつぐことはないと言っています。神は、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがありません。(Iコリント6:9、ヘブル13:8参照)

教会はいかなる時にあっても、いかなることについても、決してその標準を下げることはありません。予言者モルモンは、標準を下げようとする人々についてこのように述べています。「ち

ょうど風に吹き散らされるもみがらのように、またちょうど帆もいかりもなしに波のまにまに漂う船のように、サタンによってあちらこちらへ誘われる。」(モルモン5:18) これほど聖典ははっきり述べているのに、どうして不道徳を正当化できるのでしょうか。黒は白でしょうか。悪は善でしょうか。不潔は純潔でしょうか。悔改め、真心からの悔改めがなくては、赦しはありません。そして、自分のありのままを認めて、言いわけや合理化することなく自分の罪を認めるのでなければ、悔い改めたとすることはできません。そして、一切を包み隠さず、自分に対して、監督に対して、主に対して認める必要があります。

教会の道徳に対する標準は極めてはっきりとしています。決して古びた、みすばらしいものではないことを断言します。神はきのうも今日もいつまでも同じにましますから、神の誓約と教義もいつまでも変わることがありません。たとえ、太陽がその輝きを失い、星が天から降ちようとも、純潔の律法は神の治めたもう世界と主の教会を貫



く原則であって変わることがないので、教会は、古より価値があるとされてきたものを大切にしています。それは古いからでなく、正しいことが歴史を通じて証明されてきたからです。この律法はいつまでも変わることがありません。皆さんの祖父母や曾祖父母が生きておられたときも、この律法は現在と同じでした。そして、皆さんが曾祖父母となるときも、この律法はイエス・キリストの教会において全く同じに存在するでしょう。なぜならば、この律法は正しいものであり、真理だからです。

正しくない性関係は決してよい実を結べません。結婚関係にない者の性的交渉がもたらすものは、不幸であり、落胆、嫌悪感であり、ついには相手を拒絶するようになるのです。不法な性関係は、極めて利己的な裏切り行為です。自分の行為に対して責任を持たないことは、ひきょうなことであり、憶病なことです。

結婚はこの世と永遠に存続するものです。皆さんは新しく神殿を得、それによってすべての人が神殿で永遠に結び固めを受けられるようになります。

罪を犯して快樂を得たとしても、それはその瞬間、その時のものでしかありません。しかし、結婚は生命であり、健全で幸福な生活をもたらします。

神はご自分のかたちにかたどって男と女を創造されたのち、このアダムとイブのために永遠の結婚の儀式を執行されました。主は結婚した二人に対して、子供を生みふやすよう命じられました。これが、人々が地上で生活する第一の理由です。もちろん、肉体的な満足を得るだけのために、結婚が許されているわけではありません。人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるように神は言うておられます。このため、教会は、男性が女性に対して純潔を望むと全く同じように、男性に対して純潔であるよう望んでいます。

先程私は、不法な性関係は利己的な行為であると申しました。「あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。」(マタイ 7:9, 10, ルカ 11: 12) パンは命の糧であり、石は命のないもの、すなわち死を意味します。魚

は卵と同じように食べ物であって、体を維持してくれるものですが、へびとさそりは命を奪うものであり、死を象徴しています。

性を正しく扱うことによって繁栄と責任と平安とがもたらされます。愛というものは、個人の魅力から生まれるものではありません。極めて包括的なものです。愛を抱く者の間には、共通の理想と高い標準がなければなりません。主が私たちに望んでおられるのはこのような生活です。主は私たちにごく普通の立派な生活をするよう望んでおられます。正しい悔い改めをすれば、主は赦して下さいます。しかし、高いかけをはいあがる方が、かけをおりるよりもはるかに長い時間を要することをおぼえておかななくてはなりません。

主はこう約束しておられます。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約 58: 42)

そして、悪と性的倒錯の罪をよく理解していたヤコブは、このように語っています。「だれでも誘惑に会う場合、『この誘惑は、神から来たものだ』と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさらない。人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。愛する兄弟たちよ。思い違いをしてはいけない。」(ヤコブ 1: 13-16)

愛する兄弟姉妹の皆さん、今夜ここで兄弟たちの語った危険信号を忘れないでいただきたい。「主の器をになう者よ、おのを清く保て。」(イザヤ 52: 11) この言葉を忘れないでいただきたい。

若人の皆さん、私はあなたがたを愛しています。主の祝福が皆さんの上にあるように、皆さんが力強くすばらしい教会の指導者に成長できるよう主の祝福があらんことを。イエス・キリストのみ名により証申し上げます。アーメン。



# 神権と福音の誓約

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

け さ、この神権会に皆様と共に集えますことを光栄に思っております。しばらくの間、神権と福音の誓約ということについて話したいと思います。神権に関する偉大な啓示が教義と聖約の第107章にあります。主は言われました。「また長老の職を管理する長たる者の義務は、九十六人の長老を統轄しこれと共に会議を開きて誓約に従ってこれを教うべし。」(第89節)

私の今朝の話の目的は、この啓示の中にある誓約について、幾つか注意を喚起することです。

主はウィリヤム・E・ムレリンに「……わが完全なる福音、すなわちわが永遠の誓約を受け入れたるために幸福なり」と語り、主の福音が偉大であり、すべてを包含する誓約であることを確認されました。(教義と聖約66：2)

この誓約は、前世での天上の大会議において神の霊の子供たちに示されました。そして主はこう言われたのです。「……われら降り行かん。……而して……これらの者の住まうべき地を造らん。

而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して、最初の位を保つ者は更に付け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して、第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭

に付け加えられん。」(アブラハム3：24-26)

3分の1の霊はこの誓約を拒みましたが、私たちは受け入れ、地上に生を受けました。予言者ジョセフ・スミスはこう言っています。

「霊の世界と天上の世界、霊たちと天上に住む者たちの置かれた様は、完全に秩序と調和のとれた状態であった。そして数々の越えることのできない制限が定められ、天上にいる人々はそれに自ら同意し、また地上においては、私たちの最初の両親がこの計画に同意した。従って永遠の生命を得るためには、地上のすべての人間が永遠の真理の原則を身に受け、生活に取り入れなければならないのである。」

「第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられん」とあります。この報いを得る者は、福音の誓約を受け入れ、それを守らなければなりません。(アブラハム3：26)

「われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。

われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数られ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。

われは汝を祝する者を祝し、汝を咀

う者を咀わん。また汝(すなわち汝の神権)により、汝のすえ(すなわち汝の神権)による。そはこの権能は、汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり。」(アブラハム2：9-11)

この誓約はイサク、ヤコブと更新され、彼らの子孫すなわちアブラハムの子孫はそのとき以来、福音を理解する人から「誓約の子」として知られてきました。

私たちがこの死すべき世の中で主と交わす第一の誓約は、バプテスマの誓約です。アルマはこの誓約の持つ特質について述べています。アルマと、アピナダイの教えを信ずる者たちは荒野に逃れ、モルモンというところに行きました。

それは「アルマの言葉を聞くためでした。「そこでアルマは言った『ごらん、ここにモルモンの泉がある。…あなたたちは神の羊の群に入って神の民と言われること、互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと、

悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、慰めが要る者を慰めること、また神に贖われ………で永遠の生命を得るよう、いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも神の証し人になりたい

と心から思っている。

……あなたたちがもしも真心からこれを望んでいるならば、あなたたちは主からますます豊にその「みたま」を賜るよう、主に仕えてその命令を守ると言う誓約を主に立てた証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何のさしつかえがあらうか」と。(モーサヤ18:7-10)

この神権時代に、主はバプテスマの誓約についても同じことを言われました。(教義と聖約20:37)

バプテスマの誓約は大切です。毎週思い起こすようにと主がおっしゃっているほどだからです。「汝なおさら十分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし」(教義と聖約59:9)

この戒めを実践するために毎週日曜日に聖餐会が開かれます。聖餐の祈りは主御自身がお与え下さったものですが、バプテスマの誓約に含まれる戒めを一つ一つ取り上げています。

「永遠の父なる神よ、われら御子イエス・キリストの御名によりて願ひ奉

る。ここにこのパンをいただくすべての人々が、御子のからだの記念にこれをいただくよう、また喜びて御子の御名を受け、御子を常に忘れず、またその下したまえる誠命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し、かくして御子の『みたま』常に一同と共にましますよう、このパンを祝いきよめたまえ。アーメン。」(教義と聖約20:77)

主の戒めの多くは誓約の形をとっており、特定の祝福が約束されています。たとえば什分の一はこうです。

「……什分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。

わたしは食い減ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、減ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落すことのないようにしようと、万軍の主は言われる。」(マラキ3:10-11)

しかしこの誓約に従わない人たちは、

大いなる祝福を失ってしまいます。

「見よ、人の子の来るまで今より後を『今日』と称えらる。誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。」(教義と聖約64:23)

「われら汝らに告ぐ、もしわが民にしてこの律法を守りて聖く保たず、またこの律法によりてシオンの地をわれに聖くして以てわが律令と審判とをそこに保たずば……そは汝らにとりてシオンの地にあらざるべしと。」(教義と聖約119:6参照)もうひとつの誓約は、知恵の言葉に見られます。

「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。

また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。

而して走れども疲れず、歩けども氣を失うことなからん。

主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。アーメン。」(教義と聖約89:18-21)

憶えておいでだとは思いますが、この聖句にある「さつりくの天使」がエジプト中の初子を殺すことは、パロがイスラエル人を国外に出すために必要なことだったので。

「さつりくの天使」は近代の聖典にたびたび登場します。知恵の言葉の約束が下される2年前、主は「天の使たちは世の毒麦を集めてこれを焼捨てんために世を刈り取る大命を待ちつつあり。」(教義と聖約38:12)

さらにこの約束が与えられる2ヵ月前、主は言われました。

「……天使らは夜昼主に向いて叫び、畑に遣わされて刈り取らんことを待ち構えつつあり。

されど主、天使らに言う、汝ら小麦もまた損わざるよう葉のいまだ軟かなる時毒麦を抜き取ることなかれ。」(教義と聖約86:5,6)

1896年、ウッドラフ大管長はこの聖句を引用してこう話しました。



「私はここにお集まりの方々に、天に地に証したい。これらの天使がその業を開始する日が来ている。」(「教義と聖約註解」p.202)

確かに、知恵の言葉に従って生活する人への報いには私たちが力づけてくれるものがあります。

ここで、神権の誓約について考えてみましょう。私たちに力を与え、多大な影響を与える誓約は、「神権に属する誓詞と誓約」です。この誓約について主は言われました。「およそ忠実にしてわが今語る二つの神権を得(メルゲゼデク神権とアロン神権です)、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新される。

これらの者は……アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。」(教義と聖約84:33、34)

約束はさらに続きます。「主は言う、またすべてこの神権を受け入る者は、われを受くるなり。

そは、わが僕らを受け入る者はわれを受くればなり。

また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。

而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えられるべし。」(教義と聖約84:35-38)

神権を受け入れ、全力を尽くして遂行する者への報いは何と素晴らしいことでしょう。なぜなら、主が再びこう言われたからです。

「而してこは神権に属する誓詞と誓約によりて然るなり。

この故にこの神権を受くる者は、すべてわが父のこの誓詞と誓約とを受け、而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。」(教義と聖約84:39、40)

主がこの約束を成就されることには、疑いの余地がありません。問題は、私たちが「全力を尽くして遂行する」という決意をどう実践するかということです。

全力を尽くさない人の末路は恐ろしいものです。こう書かれています。

「されど何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り、またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても

未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」(教義と聖約84:41)

今まであげてきた誓約を守るならば、私たちは神殿に入り、昇栄に必要なより高い儀式と誓約を受ける資格が得られます。これには新しく且つ永遠の誓約である日の光栄の結婚も含まれます。私は昨日、この地に神殿が建設される発表を聞いて、この誓約のことが心にうかびました。神の祝福があって私たちがこれらの誓約を受けるにふさわしい者となるよう祈っています。

神権を持つ人々は、これらの誓約を常に心に留める必要があります。中でも定員会の会長は特にそうです。次の主の言葉を深く考えて下さい。

「……長老の職を管理する長たる者の義務は、九十六人の長老を統轄しこれと共に会議を開いて誓約に従ってこれを教うべし。」(教義と聖約107:89)

私たちが神権の召しを全力を尽くして遂行し、私たちに課せられたあらゆる誓約と義務に忠実に従うとき、主は私たちすべてをお助け下さるでしょう。イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申し上げます。アーメン。

## 8月10日(日)神権会における説教

# 神権のもたらす恵み

大管長

スペンサー・W・キンボール

**愛**する兄弟の皆さん、日本の地に住む、かくも多くのメルゲゼデク神権者が集った光景は、本当にすばらしいものです。

私は、32年前ヒーバー・J・グラント大管長より使徒に聖任されました。グラント大管長は1882年にジョージ・

Q・キャノンより使徒に聖任されました。キャノン兄弟は1860年にブリガム・ヤングより使徒に聖任され、彼はそれ以前にモルモン経の三人の見証者より使徒に聖任されました。そして、彼らは予言者ジョセフ・スミスの助けを借りて、ペテロ、ヤコブ、ヨハネより聖

なる神権を受けました。ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、主イエス・キリストからこの聖なる神権を受けました。

皆さんのうち、何人の方が神権の系譜をイエス・キリストまでさかのぼることができるのでしょうか。私は神権の系譜を記したカードを少しばかり持つ

てまいりました。数は限られています  
が、入用の方はどうぞ受け取って下さ  
い。

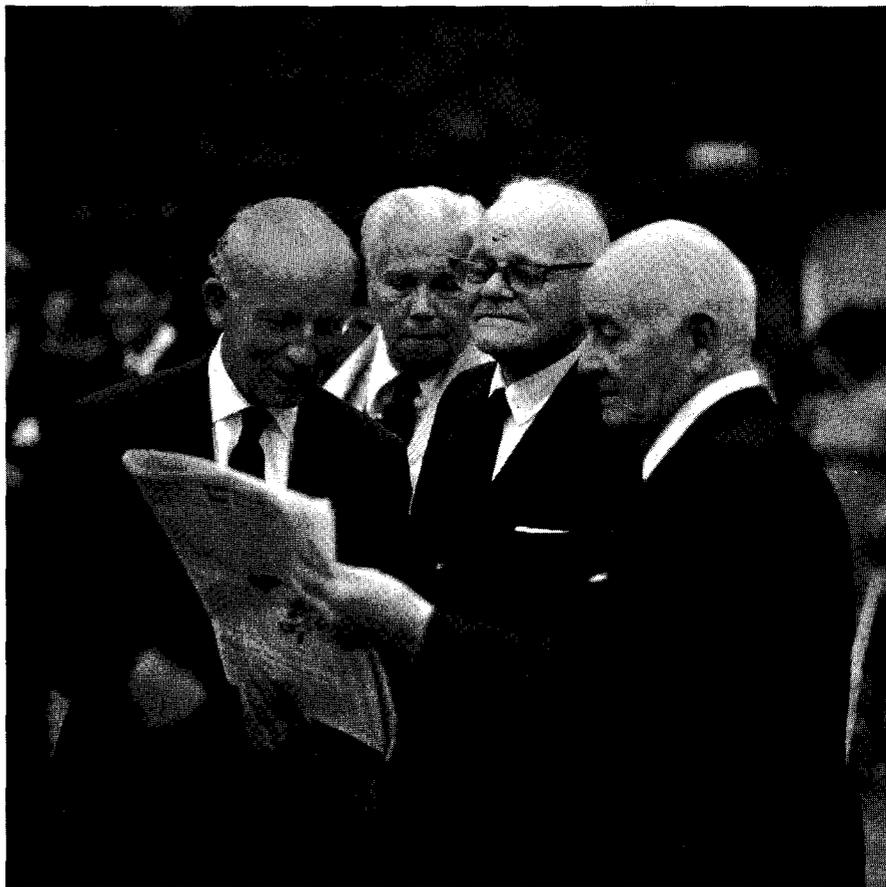
皆さんの神権の系譜も私の系譜とあ  
まり変わらないと思います。現在の使  
徒たちはそのほとんどがヒーバー・J・  
グラントを通じて聖任されています。  
そして現在の使徒たちは、皆さんを聖  
任した人を聖任しました。私は神権の  
系譜を三、四代さかのぼると世の救い  
主に到達します。私はこのことに非常  
な満足を覚えています。

この教会以外の何十万という牧師や  
司祭は、その神権をさかのぼることが  
できません。皆さんも御存知のように、  
彼らには神権がないからです。このよ  
うに大切な事柄において、私たちはこ  
れほど主に近くあることに、心がはず  
まないでしょうか。皆さんが自分の手  
を他の人の頭に按いて聖任するとき、  
それは主御自身が按かれると同じこと  
であるということに心がはずむのを感じ  
ないでしょうか。

この非常に大切な真理を悟ることは  
決してたやすくはないことを私は知っ  
ています。けれども、これは真理ですか  
ら、それだけで召しを全力を尽くして  
遂行する理由としては十分です。

私たちは病人に灌油の儀式を施すとき、  
神の力である神権を使って、その人  
に祝福がもたらされるよう主に求め  
ます。また、長老として改宗者を確認  
するとき、私たちは最も大切な務めを  
行なっているのです。なぜならば、私  
たちが「汝、聖霊を受けよ」と言うとき、  
その改宗者ももしふさわしいならば、  
その通りになるのです。聖霊は徐々  
に私たちに対して働きかけるのです。  
私は、聖霊が私たちに働きかけて、そ  
の大切さとその力を知らせてくださ  
ることをはっきりと知っています。この  
ように私たちの持つ神権は、基本とな  
るものであり、非常に大切なものです。

ここで、ロムニー副管長が先程の話  
で引用した聖句をもう一度、引用した  
いと思います。「而して汝らが受けた  
るこの神権に来らざる者はすべて禍な  
るかな。この神権は今日此所に在る汝  
らの上に、天よりわが声によりて今や  
これを確認し、且つまたわれは正に天



の衆群とわが天の使たちに汝らを預け  
たり。)(教義と聖約84:42)

私たちが誓詞と誓約によって神権を  
受けるとき、実に重大な責任を引き受  
けるのです。アロン神権の場合は、誓  
詞と誓約によって神権を受けません。  
このため、私たちは聖なるメルケゼデ  
ク神権を授けるとき、一層の注意を払  
うのです。この聖句について、さらに  
考えを進めてみたいと思います。「さ  
れど何人にまれ一度この誓約を受けて  
後これを破り、またことごとくこれに  
違背する者はこの世に於ても未来の世  
に於ても罪の赦しを受くることなかる  
べし。)(教義と聖約84:41)

実に恐いことではないでしょうか。  
誘惑に直面したときに、誓詞と誓約と  
共に受けた召しを全力を尽くして果た  
さなければ、一体どうなるかを考えて  
みて下さい。

それ程重大なものなら、私は神権を  
受けない方がよい、という人がしばしば  
見受けられます。しかし、主はその  
ような人々に警告しておられます。「こ  
の神権に来らざる者はすべて禍なるか

な。)(教義と聖約84:42) 従って、私  
たちは主のすべての戒めに従おうと堅  
く決意して、按手により神権を受ける  
のです。

聖なる神権を受けると、聖なる神殿  
の儀式にあずかる資格ができます。私  
たちは資格ある者、長老として、永遠  
に続くこれらの祝福を受けることができ  
るのです。私たちは天使以上の者にな  
って、神に近く住まうのです。主は  
132章で、私たちは諸天使と見張りの  
前を通り過ぎ、私たちが望むもの、す  
なわち神々となると述べておられます。

私たちは自分自身と自分の弱さを考  
え、主となり神となるという教え、  
この大なる聖なる召しを受けるとい  
うことに、驚きおびえさを感じるの  
ではないかと思ひます。もちろん、私  
たちが弱点を克服し、完全な者となる  
には時間を要します。主と共に、永遠  
の仕事をして過ごす時間は、時計が刻む  
時間とは全く別のものです。

さて、私たちに神権が与えられてい  
るのは、単に私たちに名誉をもたらす  
ためではなく、主のみ業を促進する力

を与えるためのものです。私たちに課せられている最も大切な責任のひとつは、伝道活動です。その理由でヒーバー・J・グラントが日本に遣わされて、この偉大なみ業が始められたのです。

私たちが力の限りを尽くして行なうなら、世界の何十億という人々に福音をもたらすことができる、と主は言われました。アジアに住む人々は17億を数えます。そしてこの人々に対する責任は皆さんにあります。この大切な仕事を始めるにあたって、現在の所、日本が最も多くの会員数を擁しています。日本には、2,050人のメルケゼデク神権者と、4,100人のアロン神権者がいます。つまり、6,000人以上の人たちが神権を持っていて、この日本にあって、111人以上の人々が責任ある地位について働いていることを、私たちは誇りに思っています。あらゆる国々の偉大な指導者たちがその果たすべき使命を人々から認められ、主のみ業を進めることができるよう願っています。

アジアには現在1,767名程の専任宣教師がいます。これら宣教師の大部分はユタ州とアメリカ合衆国のいずれかの州から来ています。世の人々に福音を伝えるにあたって、英国人、ブラジル人、その他の国々の人々と同様に日本人もその責任を果たすべきだと思います。日本には1億以上、中国とその他アジアの国々にそれぞれ億を数える人々が、住んでいることを考えますと、当然ながら、私たちは皆さんの息子さんたちが必要になります。息子や孫を伝道に送り出す責任はほかならぬ皆さんにあるのです。

私は数年前にヨーロッパへ行つたときのことを今思い出しています。私は伝道について話し始めました。そこにいた兄弟たちは、福音がその地に充分根をおろしているから、宣教師はアメリカから来なければならないという考えを持っていました。もう息子たちを伝道に送り出すことはできない。学校へ行ったり、そのほかのことで忙しいので、送ることはできない。アメリカの人たちに伝道してもらおうと考えていました。

ここにはそのような雰囲気はありま

せん。日本の地から伝道に旅立った若人に非常な誇りを感じています。けれども、私たちは皆さん全員が息子さんを伝道に送り出すことを期待し、望んでいます。息子さんと共に朝晩祈りを捧げ、常に宣教師のことについて祈るならば、息子さんを伝道に送り出すことはさほどむずかしいことではありません。

すべての若人は伝道に出ているとき、主の守りを受けて働きます。私は南アメリカで、ある宣教師が宣教師大会で自分の伝道について次のように報告するのを聞いたことがあります。「今日で私の伝道は終わります。明日家に帰ります。私は家へ帰るのがこわいのです。なぜなら、明日から200万人の人々が私のために祈ってくれなくなるからです。」ほとんどの家庭では宣教師のために祈りを捧げています。そして、主は、これらの祈りと信仰に心をかけておられます。

もし、皆さんの幼い息子さんたちが家庭で祈りを捧げるときに、宣教師のために祈るならば、必ず宣教師になろうと自分の人生を計画するに違いありません。幼い息子さんたちが自分の手でお金を稼ぎ、貯金するよう教育されるならば、19歳になるまでには多額のお金が貯められるので、お金の面での心配はなくなります。しかし、もっと大切な事柄は、これらの年月の間に自分自身を改宗することです。

さて、伝道は強制的なものではありません。しかし、義務です。教会に行くだけでは充分ではありません。そのほかにもいろいろな義務があります。これらを果たすよう教育することによって、息子娘たちを神殿結婚に導くことができるのです。帰還宣教師の神殿結婚率は非常に高いのです。従って、伝道に照準を合わせて訓練することは、子供たちを改宗に導くこの上ない方法なのです。

ここで、神権の昇進について一言申し上げたいと思います。すべての子供は少年少女とも8歳でバプテスマを受けべきです。8歳半でも、9歳でも、10歳でもなく、8歳です。昨年申しましたように、8歳になるまでに充分教

育しなければなりません。そして、少年は12歳になるときに、執事に聖任されるべきです。

ここにも、まだ聖任されていない少年たちがいると思います。12歳でふさわしくない点があるとはとても思えません。それより遅れないようにして下さい。支部とワード部の指導者は少年たちの年齢に注意して下さい。少年が14歳ならば教師に、16歳ならば祭司に聖任されます。もちろん、ふさわしいことが前提になります。そして、状況に応じて18歳もしくは19歳で、資格があるならば長老に聖任されます。

さて、成人してから教会に加入した人々について申し上げたいと思います。成人の人々がバプテスマを受けた直後に、執事に聖任することが秩序になった方法です。私は個人的に考えていることですが、すべての成人男性には、教師、祭司、そして長老と順に聖任し、それぞれの職にあった働く機会を与えることが、当人に謙遜さを示す機会を与えることになると思います。教会の指導者にとって、謙遜は大切な要素のひとつです。

次の大会のために、私たちはこの集会を終えなければなりません。聖なるメルケゼデク神権を持つこれほど多くの神権指導者を見て、私たちは心から感謝していることを今一度申し上げたいと思います。どうか、教義と聖約第84章を暗記するほどまで読んで下さい。セミナー、インスティテュートで学ぶ多くの少年少女を誇りに思っています。これは、神権者として働くこと、伝道、神殿の仕事、すべての準備になるものです。皆さんが家族を養い育てるときに、家庭の中に主のみたまがありますように。皆さんが日本の人々に大いなる影響力を発揮できますように。私は自分に与えられている神権を誇りに思い、私に与えられているすべての特権に喜びを覚えています。これこそ真実のものです。これこそ大神権です。皆さんの家庭を神が祝福されますように。主イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

# 教会役員の支持

## 第二副管長

### マリオン・G・ロムニー

この大会のコーラスをうかがっておりますと、日の光栄の王国の聖歌隊もこのようなものではないかと思えてきます。本当によくお歌い下さいました。

では、教会幹部、役員について皆様の支持をお願いしたいと思います。

私たちは予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さい。賛成の方は右手をあげてその意を表わして下さい。反対の方はその意を表わして下さい。

大管長第一副管長としてN・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方は同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方はその意を表わして下さい。

十二使徒定員会会員としてエズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン、デルバート・L・ステイブレー、リグランド・リチャーズ、ヒュー・B・ブラウン、ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・マッコンキー、L・ト

ム・ベリーを支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスをサポートして下さい。賛成の方は右手をあげてその意を表わして下さい。反対の方はその意を表わして下さい。

以上大管長副管長、十二使徒、教会の大祝福師を予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

十二使徒補助として、アルマ・ソニエルレイ・L・クリスチャンセン、スターリング・W・シル、ヘンリー・D・テイラー、アルビン・R・ダイヤー、フランクリン・D・リチャーズ、セオドア・M・バートン、バーナード・P・ブロックバンク、ジェームス・A・カリモア、マリオン・D・ハンクス、ジョセフ・アンダーソン、デビッド・B・ハイト、ウィリアム・H・ベネット、ジョン・H・バンデンバーク、ロバート・L・シンプソン、O・レスリー・ストーン、ジェームズ・E・ファウスト、J・トーマス・ファイアーズ、ニール・A・マックスウェル、ウィリアム・G・バンガーター、ロバート・D・ヘイルズ、アドニー・Y・小松、ジョセフ・B・ワーズリンをサポートして下さい。賛成の方は右

手をあげてその意を表わして下さい。

また反対の方はその意を表わして下さい。

末日聖徒イエス・キリスト教会信託統治人としてスペンサー・W・キンボールをサポートして下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方がありましたらその意を表わして下さい。

七十人最高評議員会会員として、S・デルワース・ヤング、A・セオドア・タトル、ポール・H・ダン、ハートマン・レクター・ジュニア、ローレン・C・ダン、レックス・D・ピネガーをサポートして下さい。賛成の方は右手をあげてその意を表わして下さい。反対の方はその意を表わして下さい。

管理監督会管理監督としてビクター・L・ブラウン、第一副監督としてH・バーク・ピーターソン、第二副監督としてボーン・J・フェザーストーンをサポートして下さい。賛成の方は右手をあげてその意を表わして下さい。反対の方はその意を表わして下さい。

全十二使徒会地区代表を現状のまま地区代表として支持するように。メルケゼデク神権部会実務部長としてデビッド・B・ハイトを、副部長としてジェームス・A・カリモアおよびマリオン・D・ハンクスをサポートするように。

メルケゼデク神権MIA実務部長としてマリオン・D・ハンクスを、また委員を現状のまま支持するように。

管理監督会、ビクター・L・ブラウン、H・バーク・ピーターソン、ボン・J・フェザーストーンの指導の下にあるアロン神権部会の実務長として、ルロン・ジェラルド・クレイブンを、また委員を現状のままで支持するように。

若い女性の会長としてルース・ハーディー・ファンクを、第一副会長としてホーテンス・H・チャイルドを、第二副管長としてアーデンス・G・ナップを、また委員を現状のままで支持するように。

扶助協会会長としてバーバラ・B・スミスを、教育担当副会長としてジャンナス・ラッセル・キャノンを、ホームメーカー担当副会長としてマリアン・R・ボイヤーを、また全管理会員を現状のままで支持するように。日曜学校会長としてラッセル・M・ネルソンを、第一副会長としてロイド・アルマンを、第二副会長として、ジョー・クリスチャンセンを、その他全管理会員を現状のままで支持するように。

初等協会会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを、第一副会長としてメリサ・ブロードベント・ポールセンを、第二副会長としてマリオン・ブッシュマン・レモンを、その他全管理会員を現状のままで支持する



ように。

教会教育委員会委員として、スペンサー・W・キンボール、N・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニー、エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、ブルース・R・マッコンキー、マリオン・D・ハンクス、ポール・H・ダン、ビクター・L・ブラウン、バーバラ・B・スミス

を支持するように。

以上すべての提議に賛成の方は右手をあげてその意を表わして下さい。反対の方がいましたら同じくその意を表わして下さい。

キンボール大管長、全教会幹部役員に対して全員一致の支持が得られたようです。ありがとうございました。

8月10日（日）一般大会午前部の部における説教

## 証とそれを得る方法

第一副管長

マリオン・G・ロムニー

しばらくの間、証を得る方法について話したいと思います。

証とは何か

証にはいろいろな種類があり、その対象となるものも様々です。私が今日

お話したいのは、「イエス・キリストの福音の中に明らかにされている真理への不変の生きた確信」という意味での

証についてです。

そのひとつは、神が感情、感覚、体を持ちたもう神、すなわち予言者ジョセフ・スミスの言葉をかりれば、「高められた人間」であり、また私たちの天の父であるという真理に対する揺るぎない確信です。

もうひとつは、イエス・キリストを中心とする神の救いの計画に対する信仰です。

さらにもうひとつこの証に必要なのは、ジョセフ・スミスの見神に対する信仰です。ジョセフ・スミスは永遠の父なる神と御子イエス・キリストを見ました。御二方が彼の前に立ちたまひ、彼に話しかけられたのです。

さらに、モルモン経が予言者ジョセフ・スミスの語ったような方法でこの世に現わされたことを事実として受け入れることです。すなわちモロナイが彼に与えた金版には古代の記録が刻まれており、予言者が「神の能力」によって翻訳をしたということです。

また、予言者ジョセフ・スミスが天の使いたちの訪れによって、日の光栄の王国に昇栄するに必要な天上の力と権能を受けたということに対して確信を抱かなければなりません。すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会が、こうした原則と儀式と神権の力を有した教会だということです。

このような証を持つ人は、神の王国の鍵が予言者ジョセフから現在のスペンサー・W・キンボール大管長に至るまで、すべてこの教会を管理する人によって保持されてきたという真理を受け入れるのです。

こうした証の中で最も重要であり、かつ最も得るのがむずかしいものは、現在の予言者がジョセフ・スミスと同じように予言者であるという証です。

古代の予言者を受け入れるのはたやすいことだが現在の予言者は、という人がいます。イエスの時代もそうでした。主は律法学者やパリサイ人を偽善者と責められました。死んだ予言者の墓を建て、生ける予言者を殺したからです。

確かな証は、人が持てるものの中で最も貴重なものです。それは人に知識

を与え、希望を与え、福音の律法と儀式に従えば約束された恵みをすべて受けることができるという確信を与えてくれるのです。

私は人が証を述べるのを聞いたときに常に感動を覚えますが、**グラント大管長**の証を聞いたときは、本当に胸が高鳴るのを覚えました。彼は大会を終えるとき、いつもこう言いました。

「私は自分が生きておりと同じように神が生きておられ、イエスがキリストであり、生ける神の御子であり、世の贖い主であること、またジョセフ・スミスが真の生ける神の予言者であったこと、さらに、いわゆる**モルモニズム**がまさしく生命と救いの計画であることを知っている。」(Conference Report「大会報告」1934年10月 p. 132)

私は**グラント大管長**のこの証を聞くたびに、強い確信を得ました。

#### 聖霊によって得る証

証はこの世的な学問を通して得られるものではありません。また哲学的な研究や証を持たない人の言葉の研究から得られるものでもありません。証を全く持たない人が今ここで語ったような多くの真理を説明しようとしても、行きつくところは以下に述べるようなものです。神の本性について彼らはこう言っています。

「永遠にして生ける真実の神はただひとりである。この御方は肉体もなければ感情もない。無限の力、知恵、善を持つ御方であり、見える見えないにかかわらず万物を創造された方で、この神格の中には、形、力、永遠をひとつにする三体、すなわち天父、御子、聖霊がある。」(英国国教三十九個条より)

これと、予言者ジョセフ・スミスの話を比較してみましょう。

「御父は、人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子もまた然り。されど、聖霊は骨肉の体をもちたまわずして霊の御方なり。」(教義と聖約130:22)

ではみたまの導きを受けずに聖典を改訂しようとする人々の行きつくところが何かを示す例をここにあげてみま

しょう。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を生む。その名はインマヌエルとなえられる。」(イザヤ7:14)

イザヤが「おとめ」という言葉を使ったのは、まだ男性を知らない女性が子供を生むという意味でした。

ところが現在の英語の聖書には「見よ、若い女がみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる」とあります。つまり英語の聖書では、*virgin*が*young woman*となっているのです。

これからわかるように、彼らはキリストを神として信じないため、「おとめ」でも「若い女」でも大差はないと思っているのです。

証は聖霊の力を通して私たちにもたらされます。証を持つ人は、すべて聖霊の靈感によってそれを受けているのです。予言者ジョセフ・スミスが言ったように、聖霊は神会を構成する霊の御方であり、イエスをキリストとして信じる人々に証を立てるという使命を持っているのです。

パウロは「また、聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」と言いました。(I コリント12:3, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 233参照)

グラント大管長はインディアナ州出身の上院議員**ピバリッジ氏**との経験をよく話しました。ピバリッジ氏は夏の休暇の最中に著名な神学者と会見したのですが、彼の質問の中に神の属性についてのものがありました。

「『……皆さんは神が天の父、ひとりの独立した御方であり、はっきり触知し得る英智ある御方であること、宇宙に霧のように浮かぶ法則の集まりではなく、人格を有する神であり、その神に似せて皆さんが造られたことを信じますか。議論や説明は結構ですから、はいまたはいいえだけで答えて下さい。』

「はい」と答えた人はひとりもなく、だれもがくどくどと説明をまくしたてた。だが明確なものは何も得られなかった。次はこうであった。「次の質問に『はい』または『いいえ』で答えて下さい。」

キリストが生ける神の御子であり、世を救うために神から遣わされてきたことを信じますか。私は皆さんが、イエスを靈感に満ちた偉大な道德教師として信じているか否かを問うつもりはありません。それは改めて取り上げるまでもないことです。ただキリストが神の御子であり、神から明確な使命を受けて十字架におかかりになり、死からよみがえった御方であることを信じるか、ということです。

再び、だれも『はい』とは答えなかった。(ヒーバー・J・グラント大管長、*Improvement Era*「インブループメント・エラ」1940年7月号 p. 394)

彼らは「はい」と言うことができなかったのです。聖霊の証がなかったのですから。

今日ここで、何人の方がイエスがキリストであることを知っているか尋ねたら、多くの人が「はい」と答えるでしょう。どうしてでしょう。それは聖霊が皆さんに証をしたからです。

#### 聖霊からの証はどずしでもたらされるか

この知識は、その人に突然おとずれることがあります。そして、いつそのようなおとずれを受けたかということ

は自覚できるものです。

ここでひとりの少女の経験をお話しましょう。私の妻のことです。彼女がステーキ部日曜学校管理会の一員だった頃のことです。彼女には準備会で教師に教える責任がありました。そのときのレッスンは、予言者が神と御子イエス・キリストにまみえたことに関するものでした。そのクラスには末日聖徒ではないアイダホ大学の卒業生がよく顔を出していました。もちろん福音を信じていませんでした。彼女は、この教養ある洗練された卒業生は、予言者ジョセフ・スミスに天父と御子が現われたという話など受け入れないのでは、という気持が起きてきました。そう考えると不安になってきました。自分でも真実なのかどうかわからないのです。彼女は心を悩ませ、母親に泣きながらこう言いました。「お母さん、私レッスンできないわ。ジョセフ・スミスが本当に示現を受けたかわからないの。あの人は笑って私を軽べつするにちがいないわ。」

彼女の母親は別に学識があるわけはありませんでした。でも、証はありました。彼女は娘に言いました。「予言者がどのようにして証を得たか知って

いるでしょう。」

「ええ」娘は答えました。「知恵を受けられるように祈ったわ。」

「じゃ、そのようにしたら」母親はそう言いました。

娘は自分の部屋に行って試してみました。イノスのように神に一心不乱に祈ったのです。そうして彼女は、確信に満ちたレッスンを行ない、普段の能力以上の力を発揮できたのでした。

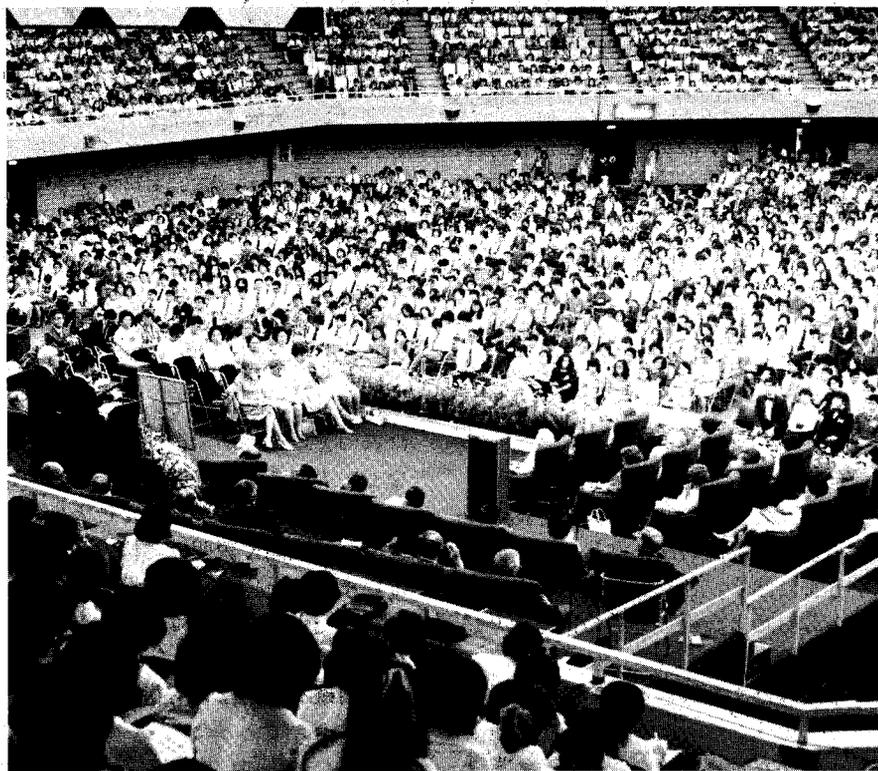
どうしてできたのでしょうか。そうです。聖霊が降って彼女の疑問に答えてくれたのです。彼女は心の内に燃えるものを感じました。ジョセフ・スミスが示現を受けたことをはっきり知ったのです。予言者ジョセフが見たものと同じものを見たわけではありませんでしたが、同じ知識を得ました。彼女はジョセフ・スミスの言葉から、彼が見たものを知り、そしてジョセフの言葉が真実であるという証を聖霊を通して受けたのです。

時々、証は長い間かかって与えられることがあります。私は自分自身の経験では、証が突然もたらされたという記憶がありません。また証が全くなかったということもありませんでした。私の証は日々強められてきているのです。

#### 証によって生じる変化

証は、突然もたらされても、段階を踏んでもたらされても、その人に何かを生じさせます。証を受けると、受ける前とは異なった人物となるのです。善良な人間、偉大な人間は異なっています。ペテロは異なっていました。イエスが十字架におかかりになると言われたとき、ペテロは共に死にますと言いました。それに答えて、イエスはペテロに言いました。「鶏が二度鳴く前に、そういうあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう。」(マルコ14:30)

兵士たちがキリストを引き連れて行くとき、ペテロも後から離れてついて行き、キリストが告発されるころまで行きました。聖書にはその様子がこう書かれています。「ある女中が、彼…を見、彼を見つめて、『この人もイエス



と一緒にいました」と言った。ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ。するとペテロは言った、『いや、それはちがう』。約一時間たってから、またほかの者が言い張った、『たしかにこの人もイエスと一緒にいた。この人もガリラヤ人なのだから』。ペテロは言った、『あなたの言っていることは、わたしにわからない』。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。主は振り向いてペテロを見つめられた。そのときペテロは、『きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう』と言われた主のお言葉を思い出した。そして外へ出て、激しく泣いた。(ルカ22:56-62)

しかし、ペテロは、後にどうなったでしょう。ペンテコステの日、聖霊がペテロをはじめ使徒たちに降り注ぎ、彼らは証を得ました。そしてペテロとヨハネは神殿に行き、足なえをいやしました。イエスのみ名により神権の力を行使したため、神は願いを聞き届けられて、その力を癒されました。人々は彼のまわりに集まり、大騒ぎをしました。ユダヤの指導者たちは自分の部下を取られてしまうのを恐れ、彼らを監禁し、イエス・キリストのみ名によって教えるはならないと命じたのでした。これらの統治者は、キリストを十字架にかけて殺したように、このふたりをも殺すことができました。しかし、ペテロは今までのペテロではありません。こう語っています。

「……神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない。」(使徒4:19-20)

彼には証がありました。

アルマとパウロの経験も、証が人を変える良い例です。

私の父は、証を持った人と持つ前の人とは、ちょうど生きて成長しつつある木と、枯れてしまった木の切株にたとえられるといつも私に語ってくれま

した。確かにそうだと思います。

### 証を得る方法

私はイエスが、これに対して最も素晴らしい答えをお与え下さっていると思います。仮庵の祭のとき、イエスは神殿の中で教えを説いておられました。イエスを殺そうと計っていたユダヤ人たちはそのイエスの教えに驚嘆し、「この人は学問をしたこともないのに、どうして律法の知識をもっているのだろう」と言いました。イエスはこう答えられました。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされた方の教である。神のみこころを行なおうと思う者であればだれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、私自身から出たものかわかるであろう。」(ヨハネ7:15-17)

この声明は「愚かなる者」の「迷い入る」ことのない道をはっきりと示しています。(イザヤ35:8)

証を得るための第一の方法は、明らかに天父のみこころを知ることです。これは主のみ言葉を学び、学んだ言葉に従順に従うことによって得られます。聖典を学びましょう。予言者の教えを学びましょう。モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠、聖書を学びましょう。近代の予言者の教えと予言者ジョセフ・スミスの人生を読み、学び、従おうではありませんか。

証に近道はありません。道はふたつはありません。ひとつしかないのです。その確実な道を、主はこう教えていらっしゃいます。

「オリヴァ・カウドリよ、誠にまことにわれ汝に告ぐ。……汝ある知識を受くべしと信じて信仰をもて真心より求むる如何なる事の知識をも、これを得んことは汝の神にして汝の贖い主なる主の今生きて在るが如く正に確かなり。……然り、見よ、われ今汝に來りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。そもそも、見よ、これは啓示の『みたま』なり。」(教義と聖約8:1-3)

自分が学んだ福音に関する事柄について確信を得たいと心から望む人は、

すべて、主がオリヴァに言われたようにその「智と情に」告げられます。そして主が言われたように、この証は「心の中に留る」のです。さらに以下の事柄を行なえば、証は永遠のものとなるでしょう。すなわち、罪を悔い改め、バプテスマを受け、接手札により聖霊の賜を受け、この世での生活が終りを告げるまで、福音の原則に従うことです。

### 私の証

私はきょうこれまで話してきたことがすべて真実であると心から証します。私は神が生きたまい、イエス・キリストが生きておられることを知っています。神の前に立ち、肉体を得ていたときの行ないを裁かれるときに、人はこのことを知るでしょう。でも、私は今その知識を得ています。この真理を私に証するのは聖霊です。神は祈りを聞いて下さいます。私にはそれについての経験がたくさんあります。私は主から直接の啓示を受けました。私には自分の力では解決できない問題がありました。なかなか解決のめどがたらず、それを解決せずには一歩も前に進めないという状況におかれたこともありました。しかし祈りと断食を通して、私は解決策が私の心にはっきりした形で啓示されるのを経験してきました。私は主のみ声を心の中に聞きました。私は主の言葉を知っています。

兄弟姉妹の皆さん、あなた方すべてが神の祝福を受けて、この福音の真理に対して証する偉大な賜を得られるように、予言者ジョセフ・スミスは人は無知にしては救われずと言いました。予言者の言う無知とは、外国語を知らないから救われないとか、ある科学の分野に無知だから救われないとかいうことではありません。私は学ぶということには全く異論はありません。学問は善いものです。できるだけ学問を修めて下さい。それぞれ特別な分野に、さらに知識を深められる分野に進んで下さい。すべては大切です。しかしながら、これらのどれをとってみても、予言者が人は無知にして救われずと言ったその知識を与えてくれるものはな

いのです。救われるための知識は、イエス・キリストの福音が、その教える原則をも含めてすべて真実であるとの証に伴ってもたらされるものです。それは得られるのです。皆さんが得てお

られることを私は知っています。神の祝福があって、あなた方すべてが証を得、人生の終りまで変わらず忠実でいられますように。なぜなら、そのような人にこそすべての約束が与えられて

いるからです。』

皆さん方の上に祝福があるよう、イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。

8月10日(日) 一般大会午前の部における説教

## 福音の基

日本横浜ステークス部長

柏倉 仁



皆様おはようございます。昨日は予言者キンボール大管長から神殿の発表をいただき、心から感謝致します。また本日、日本の各地からお集まりの会員の皆様、またお友だち、御親戚、御両親の皆様、このよき聖なる安息日、末日聖徒イエス・キリスト教会の日本の地域総大会にこのように多くの人々と一堂に会して予言者の言葉や教会幹部の方々の「この現世をどのように生きていくか」ということについての諸諸のお話をうかがう機会にあずかり、皆様と共に心から神に感謝いたします。

さて私たちが神の教えすなわち福音の原則に従って生活し、この現世をどのように生きていくのかという目標について深く考えることはまことに素晴らしい事柄であります。なぜなら、この会に御出席の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の皆様は、程度の違いはあってもこの事柄について何回か深く考えて神に祈ってその答えをいただいたからです。

私は福音の原則に従った生活の活気を十数年間のこの若い楽しい時代に十分経験しました。福音の第一の原則とはまず、主イエス・キリストを信ずる信仰を持つこと、また悔い改めることであると教わってまいりました。信仰

について古代の使徒パウロは、「それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を真実とするなり」と定義しております。確信とは信頼することであり、真実とは証明することです。これらの信頼感はいくつもの人々がそれぞれの程度に従って持っています。実際に信仰の程度は心配や怖れをやっと離れて弱い信念と言えるか言えないかという初期の状態から、あらゆる疑念や困難をものしめない確固不動の力強さに至るまでいろいろです。私は、信仰とは神を信頼すること、それも、積極的に心から信頼することであると考えます。神のみごころを人生における私たちの目標として受け入れること、神のみ言葉を人生における私たちの指導原理として受け入れることです。このようなとき神を信ずる信仰が確立すると思います。

また悔改めは福音の第二の原則に位置するものであり、信仰とは密接な関係を有し、信仰に続いて直ちに來るものです。これはまた深い謙遜の念から出てくるものであり、神を信ずる変わらない信仰を行ないに表わすことによります。人はこのような悔改めによる確信によって吹きこまれた熱心さによって、自分が新たに生まれ変わったことを良い行ないによって人々に示す機会

を熱心に望むようになります。

私はこの信仰と悔改めの素晴らしい数々の実例をこの目で確認し、また私自身も経験しました。私は大学の2年の7月に初めて末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師に会いました。1960年の日米安保条約問題の激しい屋外デモの後で夏期アルバイトをしているときで、どのように現世を生きていこうかとそれまで以上に深く考え始めていたときでしたので、比較的簡単に宣教師から求められるままにお祈りをしました。モルモン経という聖典を宣教師と共に毎週勉強し、ジョセフ・スミスという予言者について教わりました。2カ月後にバプテスマを受けましたが、人間の弱さから主の教えをよく守れたわけではありませんでした。しかし私は、その後何回となく神に改宗する機会があり、今日、力強く活気を持って福音の原則を守り行なう力を得させていただきました。

私は自分の経験から、モルモン経を読んで、考えて、祈ることは神から「みたま」すなわち「聖霊の力」を得るよい方法であると悟りました。また現代の予言者の言葉や教会幹部の方々のメッセージは、私がこの現世をどのように生きていくかについてはっきりとし

た答えを下さいました。このように多くの日本人の中にある小さな私にも神は限りない愛を示して下さい、皆様の上に主の導きとみ守りがあって、さらに深く神のみこころを知ることができるよう祈ります。

また真夏の大変な時期に予言者をはじめ教会幹部の皆様がこのようにたくさん御出席下さり感謝します。旅行中にも健康が守られるよう心から祈ります。イエス・キリストのみ名によりお話ししました。アーメン。



8月10日(日) 一般大会午前の部における説教



**心**から敬愛する全国の兄弟姉妹の皆様、一昨日よりの大会で私の心は、私の霊は、私の魂は、全く洗われたような気がいたします。再び同じ自分であってはならないと深く肝に命じております。皆様方も御存知のように、私たちの敬愛するキンボール大管長は、奇跡の人です。これまでいくたびとなく生死の境をのりこえて現在に至っておられます。大きな病いからまた事故から守られて奇跡的にこの尊い予言者の務めを果たしていらっしゃいます。私たちは確かに主がキンボール大管長を守っていらっしゃるといことがよくわかります。しかし大管長はその著書「赦しの奇跡」の中で次のように言っています。

「私たちの主イエス・キリストは奇跡の神である。主はあるとき、自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。』

『悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しいたげられる者を放ち去らせ』たイエスの奇跡に比肩しうる奇跡がほかにあろうか。イエスは病人をいやし、悪霊を追い出し、嵐を鎮め、また死者を生き返らせることさえた。だが、無知や迷信や罪のかせから人々を解き放つ奇跡にならぶ奇跡がほかにあるだろうか。

予言者ジョセフ・スミスは、『生きている人を救うことの方が、死者を生き返らせることよりもはるかに大切である。』と語っている。誠にその通りであります。私は毎日そのような、人を救うその奇跡をこの目で見てまいりました。これから私が紹介いたしますこの方も不可能であろうかと思われたことが実現した方です。この方についてふたつの大きな改宗への障害がありました。ひとつはこの方自身神を信じることができなかったのです。また求める心もなかったのです。ふつう真実の神

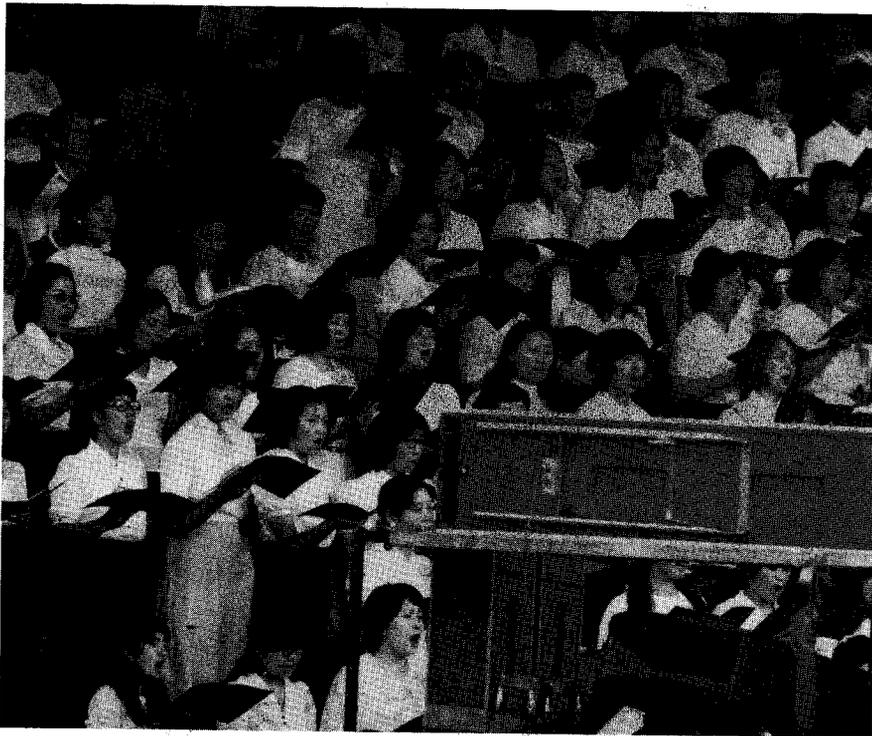
を教えられなかったがゆえに神様を信じることのできない人が沢山いらっしゃいます。この方も同じように神様を信じることができなかったのです。ただ自分の良心に従って正しくこの世を生きていけば、また世のため人のためになることを行なえばそれでよい、とこのように考えておりました。そして宗教の必要性を彼女は認めなかったのです。またもうひとつの理由はこの方の御主人は三百年以上も続いた神官の家の長男でありましたので、将来はその神社の神主さんになる必要があった関係で、なかなか改宗にふみ切れなかったのです。

しかし1971年8月の末のある夕方、二人の宣教師がこの方の家を訪れました。教会のことは別にして彼らがその若さで親元を離れて自炊生活をしながら伝道しているという点にすっかり同情してこの方はたちまち友達になってしまいました。そして断わり切れない

## 真理は人を変える

十二使徒評議員会地区代表

渡 辺 駿



ままだ、家庭集会を受けるようになったのです。レッスンは1回めから、うんざりするものでした。特に信じてもないのにいっしょにお祈りをさせられるのが、心外だったそうです。しかしレッスンの後、宣教師といっしょに過ごす時間が楽しくていつも前の日から腕をふるって料理をし、遠くにいる息子が帰ってくるかのようにいそいそと迎えたのです。そのような状態が3カ月続きました。その間この方は一度も神様のメッセージに耳を傾けようともしませんでした。またお祈りをたのまれても一度もしませんでした。でも宣教師は辛抱強く毎週やって来ました。

そしてあの記念すべき12月11日がやって来たのです。その日は朝から非常に寒い日でした。宣教師が約束の時間に来るやいなや彼女はこう言いました。「寒かったですよ。今日はおいしいイタリア料理を用意しましたよ。レッスンは、早く済ませて食事にしましょう。」二人はちょっとこまった顔をして「今日私たちは断食をしております。せっかくですが、いただくわけにはいきません。」そしてレッスンが終わった後、自分たちがこんなに誠意をもって神様のメッセージをお伝えしているのにどう

してわかってもらえないのかと尋ねました。この方はたいへんすまない気持ちになって、その時はじめて家庭の事情を話し改宗できない理由を話しました。しかしたとえ宗教が違っていてもお互いに友達でいよう。何か不自由なことがあったら助け合いましょうと話しました。宣教師たちはこの事情を聞いて非常に力を落としました。そして「神様を求めた気持ちにあなたがいつかなったら喜んでお助けしますからどうぞ知らせて下さい。」このように宣教師は申しました。そして最後に宣教師たちは長い長いお祈りをしました。「毛利さん、あなたが福音を受け入れないのは自分たちの力が足りなかったからで、すべて私たちの責任です。彼女は今まで会ったどんな人よりも心の暖かいお父様の娘となるにふさわしい方です。どうぞ彼女を見捨てず変わらぬ祝福をお与え下さいませ」という意味のことを宣教師は10分以上も切々と訴え続けました。19歳の少年が、自分の母親ぐらの年齢のこの方のために必死に神様にとりすがったのです。この方は非常に衝撃を受けました。それはまるで頭をガンとなぐられたような、胸の中に冷水をどっと注ぎ込まれたような強い衝撃で目の前が真っ暗になる思いでした。やがて二人は

悲しそうに別れを告げたのでした。最後に宣教師は「時々私たちが言ったことを思い出して下さい。そしてお祈りを始めたらすぐ知らせて下さい」とこう言って立ち去りました。

ひとり残されたこの方はなんと形容しがたいみじめな気持ちにおそわれ、体中の力が抜けて地底へ引き込まれていくような感じで2、3時間ずっと椅子にかけていました。いつか夕闇が迫った室内に電燈もつけず、ぐったりと座り込んでいたのです。そのときふと一条の光がさし込むように「お祈りしよう。そしてお詫びをしなくては」と思いつきました。そのとき彼女は生まれて初めて、「天のお父様」と呼びかけたのです。そして心からの祈りを捧げました。祈っているうちに何とも言えず気持ちが楽になり自分が赦されていくことがわかったのです。まるで目の前にかかっていた幕が開かれたように、自分が今までどんなに傲慢であったか、神様に対して不敬であったかをはっきりと知りました。その夜は彼女はほとんど眠れずに、宣教師の言ったことは真実だろうかと考えました。神様は本当に生きていらっしゃるのではないだろうかと考え続けました。

翌12月12日は土曜日で御主人が休みでしたので、昼前から二人で買物にでかけました。買物にでかけている間にふと、こういう考えが浮かびました。「そうだ、今日買物をしている間に宣教師にあったら私はゆうべお祈りをしたことを話そう。」そう思って出かけましたけれども逢うことができませんでした。何とはなしに複雑な気持ちで帰ろうとした時に、御主人はデパートに行ってみようと言いました。そしてしばらく行くと、そこに思いもかけない光景が、うつりました。信号を渡って約20メートルも歩いたとき、この方は思わず棒立ちになりました。まちがいなくあの二人の宣教師です。こちらに向かってやって来るのです。彼女は我を忘れて二人の前に立ちふさがり、「長老たち、私はきのう初めてお祈りをしました」と大声で叫んだのです。その瞬間この方の心はすっかり別なものになってしまいました。周囲がバラ色に変わりました。

た。大きな力が包んでいるような安らかな気持ちになりました。そして心の中に、「あー、やっぱり神様は生きていらっしやっつた。」こう感じました。

この方はこのようにして神様から新しい心をいただいたのです。今や彼女の行く道は決まりました。兄弟姉妹の皆様、真実の宗教というものは人から教えられるものではありません。神様のみたまの力によって自分の心で感じとるものです。神のみたまによって感じとるものです。それから後、彼女は心を入れかえて一生懸命勉強しました。その間、いろいろな奇跡が起こって、今まではクリスチャンになってはこまると言っていた御主人ももろ手をあげて賛成をし、ついに彼女はバプテスマをうけました。彼女はバプテスマをうけたその晩、20数枚の便箋に託して自分の両親にこの心の喜びをうちあげました。その手紙の結果、今日この方の御両親は、ここに来ていらっしやいま

す。私は本当に神様は生きていらっしやっつて、神様は真実神様を求める人をその教会に導きたもうということを証することができます。真に神様は生ける奇跡の神でございます。私たちを神様のみもとに近づけることのできる方です。この福音は真に私たち一人一人を変えの力があります。私たちは真理を変えることはできません。しかし真理は私たちを変えることができます。パウロはローマ書の中でこう語っています。「我は福音を恥とせず。この福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にもすべての人に救いを得させる神の力たればなり。」この福音は私たちを、悪人であれば善人に、善人をさらによい人に、よい人をさらに神へと近づける神の力です。皆様方の上に神の力が加わって、まだ教会に入っていられないう方が今日から世界最大の奇跡を自分の心のうちに見ることができますように、私は心から祈ってやみません。この教

会は神様の教会です。神様は生きていらっしやいます。そして私たちの祈りに答えられます。神様はその御子イエス・キリストをこの世に遣わして私たちが救われるようにして下さいました。イエスはキリストであって世の救い主であることを証致します。

また本日ここにイエス・キリスト様の兄弟として、スペンサー・W・キンボール大管長がいらっしやることを証致します。まことにキンボール大管長は生ける神の予言者であり、主イエス・キリストの特別の証し人であることを証します。私たちはみなキンボール大管長のようになれますようにイエス・キリストのみ名を通してお祈りいたします。アーメン。

8月10日(日)一般大会午前部の部における説教

## 最も大いなる贈り物

七十人最高評議員会会長

ポール・H・ダン

**皆**様の温かい心とやさしく親しみのある笑顔、そして心の豊かさを感じとるのに、言葉など必要ではありません。皆様は、はつらつとしており、福音を喜びとしておられます。皆様と共にこの大会に出席できることは私にとって大きな名誉です。アメリカには「昇れ、輝け、神に栄えよ」という歌詞で終わる歌がありますが、皆様はまさしくこの日の出ずる国で、イエス・キリストのみ名をもつ教会がめざましい発展と成長を遂げていることを示す力強い、輝ける証人です。父なる神の栄光

が日本の地を、また全世界を照らしていることを証する方々です。

私たちは、皆様のすばらしい実績と力を誇りに思っています。皆様を通して、主のみ言葉はアジアのすべての人々に伝えられることでしょう。ここに出席しておられる末日聖徒の方々、またこの日本の地の末日聖徒の家庭で成長している若い兄弟姉妹は、きっと日本やアジアの各地で、誰よりもすばらしい伝道をすることができると思います。それは皆様が日本人であるからです。それは皆様が日本人であるからです。主は今日、皆様を呼んでおられま

す。古代の神殿においてイザヤが答えたように、皆様も答えていただきたいと思えます。「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください。」(イザヤ6:8) 私は日本語でこのことを申し上げることはできませんが、この気持ちをくみ取って下さればと思えます。

もちろん日本語が話せたら、いろいろと助かるのと思えます。私はどうも東京ではすぐ道に迷ってしまいます。以前伝道本部に向かう途中、迷ってしまったことがあります。そこで私は誰かに道を尋ねようとしていました。す

るとちょうどそこにひとりの若者が自転車で乗ってやって来ました。私は宣教師かもしれないと思いました。それは彼がモルモンの宣教師のトレードマークである、あの白いシャツを着ていたからです。そこで私は道に乗り出して、「ホエアーズデンドウホンブ(伝道本部はどこですか)」と大声で聞きました。彼は知らん顔です。私は彼の後を追いかけて叫びました。「デンドウホンブ！」すると彼は自転車を止め、振り返りざまにこう言いました。「貧乏暇なし」それから彼は再び自転車で乗って行ってしまったのです。私は、彼がどのようなつもりでそう言ったのか、今でもわかりませんが、どうも宣教師でなかったことは確かなようです。

これからはばらくの間、私たちがお互いに分かち合っているものについてお話したいと思います。私たちは海を隔てて住んでいますが、意外に多くのものお互いにお互いあげたりもらったりしています。この点、アメリカ人はしばしば感謝することを忘れがちです。

たとえば、イースター・リリーというきれいな百合がありますが、毎年主の復活を祝う頃になると花屋の店先をにぎわします。これは約1世紀前に日本から輸入されたものです。しかし、何にもまして最もすばらしい贈り物は、日本大使の仲介を経て東京都民から合衆国へ贈られた桜の木でしょう。この桜は興津産の吉野桜で、1912年に首都ワシントンにあるポトマック公園に植えられたものです。

満開に咲き誇る桜の花かげから見るワシントン記念館、リンカーン記念堂、ジェファソン記念堂、それに国会議事堂など、アメリカにとって記念すべき4つの建物の眺めはたえようありません。3週間にわたって開かれる桜祭には、世界中から何百万という人人が集まって、桜の花を見ながら日本の美をたんのう致します。本当に貴重な贈り物です。イギリスの詩人キーツが語ったように、「美しきものは、永遠の喜び」です。

御存知のように、教会は新しくワシントン神殿を主に捧げました。これは会員すべてが誇りとするところです。

できますれば、桜祭の開かれる4月1日頃に、アメリカの首都と神殿を訪問されるようにお勧め致します。新しい神殿を建て、海外から大勢の方々が訪れてこの大きな祝福にあずかるときに、皆様も同じ感激を味わわれることでしょう。

では、私たちから日本へは何が贈られたでしょうか。どうも記録をみても大したものはないようです。私たちは技術を提供致しました。もともと、祝福だったかどうかは別ですが……。今では日本はあらゆるものを生産しています。昨年の自動車の生産台数はアメリカを上回っています。カメラについても全く同じことが言えます。私たちはビジネスに関して知っているすべてのことを教えました。ところが今や日本は、私たちの手の届かない価格の真珠をアメリカに売り、ハワイを買い占めるのではと心配する向きがあるほどです。日本は文化も送り続けています。一般的な芸術についてはもちろんのこと、歌舞伎や能を通して、私たちの精神を高めて下さっています。お返しに私たちが高くしたものとえば、地震層の上に立った雲をつくビルの高さかもしれません。

日本からは柔道、空手、相撲を教わっていますが、スポーツの点ではよい贈り物をしたのではないかと考えています。それはアメリカの最高のスポーツである野球を教えて差し上げたのですから。

私がひとりよがりと言っているという人がいるかも知れませんが、そうかもしれません。昔、私はセントルイス・カージナルスというチームでピッチャーをしていました。王貞治選手のことをよく聞きます。彼が打席に立つとファンが皆「王、王」と言うそうですね。ホームランを打つとファンは「オー、オー」と呼び、投げたピッチャーはただ「オー、オー」と言うばかりとか。

日本の野球も進んでいますから、間もなくワールドシリーズが開かれることでしょう。

私たちは日本から沢山のものを受けていますので、感謝致しております。最後に、主の恵みによって私たちが皆

様に差し上げることのできるものをひとつ申し上げたいと思います。それは皆様が宣教師として言葉と模範によって教えない限り、他の人に差し上げることのできないものです。それは、最後の神権時代に、地上に回復されたこの教会にあるイエス・キリストの福音です。

新約聖書に次のような話があります。「ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、『美しの門』と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。彼は、何かもらえるのだらうと期待して、ふたりに注目していると、ペテロが言った。『金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい』。(すると足のきかなかった男は)躍りあがって立ち、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮には行って行った。民衆はみな、彼の身に起ったことについて、驚き怪しんだ。』(使徒3:1-10)

これが皆様や私が宣べ伝えている福音です。これ以上のものはありません。完全な教会が予言者ジョセフ・スミスの時に回復されました。そして現在、キンボール大管長から、霊的になえた人々に完全な福音を伝えるよう求められています。福音は私たちが何者であり、どこから来たのか、この世で何をするのか、そしてどこへ行くのかといったことを教えてくれます。また家族が永遠に結ばれることの大切さを教えています。福音はこの人生を住みよいものとするだけでなく、すばらしく楽しいものにもしてくれます。また聖霊の助けによって、困難に打ち勝つ力と、想像もできないほどの平安を得ることが出来ます。これは主御自身が全世界の教会員のために予言者、聖見者、啓示を受ける者として選んだもうた生ける予言者を通じて得られる福音であります。ここにおられるキンボール大管長は、主に代わって話をされ、主から必要な指示を受けられる方です。これ

が主イエス・キリストが御自身の教会を導く方法です。そして私たちは皆、それを理解するにふさわしい者となって生ける予言者の勧告に従うよう励んでいます。これこそ私たちが宣べ伝える回復された教会の完全な福音であり、これ以上のものはありません。私たちは別に声をあげて主張は致しませんが、真実のものであることを知っています。

モルモン経のニーファイ第三書に、復活された主のみ言葉があります。「わ

れは汝らをこの民の光となす。山の上にある町はそれを隠すことを得ず。」(III ニーファイ12:14) 皆様は現在そのような状態にあります。言葉と模範と忠実な信仰によって、皆様はすでに日本とアジアにおける立派な主の証人になっておられます。この会場にいらっしゃる皆様の中で、特に若人にチャレンジしたいと思います。この最も大いなる贈り物を隣人に与え、皆様の心を開き、宣教師が皆様の友人に福音を教え

ることができるようにして下さい。そうすれば、彼らもまた神が生きておられ、イエスがキリストであることを知ることができます。

すばらしい末日聖徒の皆様の上に神の祝福がありますように。神は生きておられ、イエスはキリストであり、これはキリストの教会です。またキンボール大管長は予言者です。これらのことをイエス・キリストのみ名によって証致します。アーメン。

8月10日(日) 一般大会午前の部における説教

# 大いなる価値

十二使徒評議員会会員

マービン・J・アシュトン

**兄** 弟姉妹の皆様、人の値を知っている教会の一員であることは実に素晴らしい特権です。末日聖徒イエス・キリスト教会にあっては、個人、すなわち人の身と霊を最も大切にしています。この素晴らしい大会において、私たちは皆様方に父なる神との関係を思い起こしていただきたいと思います。皆様方は神の息子であり娘であります。神は皆様方を愛しておられます。神は皆様方が喜びと幸福を得、昇栄して神と共に住むよう望んでおられます。

「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)

「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」(教義と聖約18:10)

神は皆様御自身と皆様が営む生活を最も心にかけておられます。私たちは皆この大切な事実を心にとめる必要があります。神の教会、神の真理、神の永遠の住まいは、父なる神を愛し、神の戒めを守り、神のみ言葉を行なう者

のためにあります。

「見よ、そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に来らんために、すべての人々の苦を受けたり。彼はすべての人々悔い改むるならば彼に連れ行かんために、死人の中より再びよみがえれり。」(教義と聖約18:11、12)

神が私たちを心から愛して下さいているということを感じるのは、毎日祈りを通して神と交わるときです。主は私たちに絶えず祈るよう求めておられます。主は私たちの祈りに耳を傾け、助けの手を差し伸べたいと望んでおられます。導きたいと望んでおられます。また、私たちが主を信頼し、主の導きと力と変わらぬみ守りを求めて絶えず祈るよう望んでおられるのです。モルモン経ニーファイ第二書にこのようにあります。

「さて私の愛する兄弟たちよ。私はあなたたちがまだ心に考えこんでいる

のを認め、このようなことをあなたたちに戒めなければならないのをまことに悲しく思う。あなたたちがもし祈らねばならぬことを教える「みたま」の言葉に聞き従うならば、あなたたちは祈らなくてはならないことを覚るであろう。悪魔は祈れと人に教えず、かえって祈ってはならないと教える。

しかしごらんよく言うておく。あなたたちは力を落さずいつも祈らなくてはならない、そして自分たちの働きが自分の身も霊も救われるように天の御父がその働きを祝福したもうよう、キリストの御名によってまず天の御父に祈らないでは主の御前にどのような働きもしてはならない。」(II ニーファイ32:8、9)

決して祈りの力を軽んずべきではありません。兄弟姉妹の皆様、私たちが今日この場に集まっているのは、神が14歳の少年の祈りを聞いて下さったからです。今日、みたまにあふれたこの喜ばしい大会に共に集まっているとい

う事實は、ジョセフ・スミスが神の予言者であり、神が彼の祈りを聞かれたということ証する以外の何ものでもありません。私は皆様もよく御存知の聖句ヤコブの手紙第1章5節から7節の力強い言葉を毎日主に感謝しています。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑われないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない」

またジョセフ・スミスの著第2章12節から19節には次のようにあります。

「どの聖句にもまさって、この時ほどこの言葉が私の心に真に力強く迫って来たことはない。それは私の心の底という底を大きな力で貫き通すような気がした。私はこの言葉を再三再四思いめぐらして、もし誰か神よりの智恵を必要とするならば、正にそれは私であることを知った。なぜならばこの際私はどうしてよいか知らなかったし、当時の私の智恵よりももっと深い智恵が得られなかったなら私は為すべき方法を知らなかったからである。それと言うのも、種々な教派の宗教教師たちは、聖書の同じ章句をめいめい非常に異なって解釈し、その結果人が聖書に訴えて疑問を決しようとする信頼をことごとくうちこわしていたからである。とうとう、私はこのまま暗黒と混乱の中に止まらねばならぬのか、それともヤコブの指図する通り、神に願わねばならぬのか、どちらかにせねばならぬという結論に達した。私はついに「神に願う」と決心をして、もし神が智恵の欠けた者に智恵を与え、しかも惜しむことなく咎めることもないならば、ひとつ神に願ってみようとした。決めた。

そこで神に願うと言うこの決心に従い、これを実行しようとして私は森の中へ人目を避けて入り込んだ。それは千八百二十年の早春、一点の雲もない美しい朝であった。このような企てをし

ようとしたのは、私の生涯ではじめてであった。というのは私があれほど苦しんでいる真最中でも、口に出して神に祈ろうとしたことはまだこれまでになかったからである。

私は、前以て行こうと計画をして置いた場所へ人目を避けて入り込んでから、あたりを見廻して人気のないのを見ずますとひざまずいて自分の心の願いを神に祈り始めたが、私が祈り始めるや否や、直ちに私は何とも知れぬ力によって捉えられ、ついに私は全く抵抗力を失った。またその力は私の舌さえしびれる程の驚くべき力を振るったので私は物言うこともできなかった。そしてあたりはだんだん暗くなり、一時はあたかも私はこのまま急に死んでしまうかのように思われた。

しかし、私は自分を捉えたこの敵の力から何とぞ逃れしめたまえと、全力を振りしぼって神を呼び求めたが、私が今にも絶望に打ち沈んでわが身を破滅に任せようとしたその瞬間、それは考えただけの滅亡というようなものではなく、目に見えぬ世界から来た何ともわからぬ生き者で、全くこれまで私がどんな者に逢っても覚えたことのない程の驚くべき強い力を具えた者の力に打ち負けて、わが身を見捨てようとしたその瞬間、この非常な驚きの瞬間である、私は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にもふり注いだ。

その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留まった時、私は筆紙に尽くし難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見たら。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまひ、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。

私が主に何おうとした目的は、私が何れに加入すべきかを知るためにすべての教派の中で何れが正しいかを知ることであった。それで私はわれに返って言葉が出せるようになるや否や、私の真上で光に包まれて立ちたもう御方

に、すべてこれらの教派の中で何れが正しいかそして私は何れに加わるべきかを伺った。

ところがその御答に『汝はその何れにも加わるべからず、彼らことごとく誤れるを以てなり』と言いたもうた。そして、私に話しかけたもうたその御方は『彼らの信条はことごとくわが目より見て悪むべきものなり。また彼ら信条を口にする者たちはことごとく腐敗せり。また彼らは昏をもてわれに近づけど、その心はわれに遠ざかれり。彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む』と宣うた。」

兄弟姉妹の皆様、予言者ジョセフ・スミスのこの記事を決して忘れないようにしましょう。また、教義と聖約第20章47節に言われている大切な勧告を忘れないようにしようではありませんか。

「また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてひそかにても祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそむように勧め」とあります。

家庭にあっても、職場にあっても、学校にあっても、また車を運転しているときや考えごとをしているとき、交際中にも、また教会や神殿においても、あるいはひとりで思案しているときでも、主は祈りに答えて下さいます。私はきょう、皆様方の友として、兄弟として、神の計画と愛を理解するために、たえず祈られるようにとお願いいたします。

家族は永遠に続くものであって、家族の単位も永遠であることを銘記していただきたいと思います。私たちが今日、これらの真理を全世界の人々に声を大にして宣言するのは、私たちが文字通り、「それ故に、あなたがたは行って、すべての国民に教えよ」(マタイ28:19)との命を受け、それに従っているからです。堅固な家庭を築くためには、いつも愛と忍耐を实践することが必要です。

「さて、われ汝らの家族に就きて告ぐ。もし、人々汝らもしくは汝らの家族に一度危害を与うとも汝ら忍耐してこれを堪え、彼らをののしりまた讐を

返さんとする事なくば汝らよき報いを得べし。」

されど、もし汝らそれを忍耐して堪えずんば、汝ら正しき衡の量る如くに量らるる者と見なさるべし。

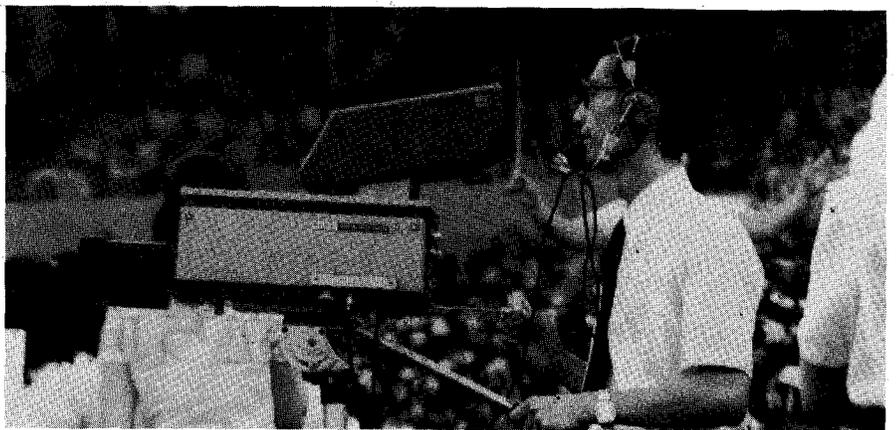
また、汝らの敵再び汝らに危害を与うとも汝らこれをのしらず、忍耐してこれに堪うる時は汝らの受くるよき報いは百倍とならん。」(教義と聖約98:23-25)

私たちは家族のだれに対しても、努めて変わらぬ愛を示さなければなりません。末日聖徒は、どのような振舞いや態度に出会っても、家族を見捨てることはしません。家族一人一人の値が主の前に大いなるものだからです。

そのことを自分の目で確かめることはどんなに大切なことでしょうか？皆様方は、自分自身を本当に神の息子娘として見ていらっしゃるでしょうか。自分自身を尊び重んじていますか。自分をつまらないものと考えてはいませんか。神の宮であることを忘れてはいませんか。自分を大いなる値を持つ者として考えていますか。以上の質問から、私たちは神の助けによって自分ができるようなことでもできること、私たちに無限の可能性があることを理解する必要があります。主の道を歩むときに、安全が保証されることを一人一人が知ることは何という神の恵みでしょうか。聖典には「心安かれ、われ汝らの唯中にあり」とあります。私たちが悔い改めて、神のみもとに立ち帰るときに、神は心から喜んで下さいます。神の持てるすべてのものは、どれだけ神の道から離れたかには関係なく、ふさわしい神の子らに与えられるのです。

私たちに希望を与えてくれる放蕩息子のお話を読んでみましょう。

「『よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使いたちの前でよろこびがあるであろう。』また言われた、『ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください。』そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部と



りまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果たした。何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることに窮しはじめた。そこで、その地方のある住民のところに行き、身を寄せたところが、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。そこで彼は本心に立ちかえって言った、『父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください。』そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思っ走り寄り、その首をだいて接吻した。むすこは父に言った、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません。』しかし父は僕たちに言いつけた。『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しむうではないか。このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』それから祝宴がはじまった。ところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた。僕は答えた、

『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなされたのです。』兄はおこって家にはいろうとしなかったので、父が出てきてなだめると、兄は父にむかって言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにぞむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下されたことはありません。それなのに、遊女どもと一緒にあって、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました。』すると父は言った、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである。』(ルカ15:10-32)

兄弟姉妹の皆様、私は皆様に心から申し上げます。神は私たちすべてを愛しておられます。皆様の未来は、主の目から見て大いなる価値があります。主に従いましょう。主を愛しましょう。主の戒めを守りましょう。そして「わたしとわたしの家とは共に主に仕える。」(ヨシヤ24:15参照)ことを堅く決心しましょう。そうすれば、大いなる喜びと永遠の幸福がもたらされることをお約束致します。神は生きておられます。この教会はイエス・キリストの教会です。スペンサー・W・キンボール大管長は予言者であり、イエス・キリストの福音は真実であり永遠不変のものであります。これらのことが真実であることをイエス・キリストのみ名によりへりくだって証致します。アーメン。

# 邪悪に立ち向かう力

十二使徒評議員会会長

エズラ・タフト・ベンソン

**愛**する兄弟姉妹ならびに友人の皆さん、この日本に住む心温かい方々のもとを再び訪れることができ嬉しく思います。日本の方々を愛し尊敬しています。福音を純粹に愛しておられる皆さんを誇りに思っています。

再びこの国を訪れ、多くの思い出がよみがえって参りました。

私たち家族にとり、すべてが楽しく貴いものです。

1950年代半ばに私は初めてこの国を訪れました。当時私は、アイゼンハワー大統領のもとで農務長官を務めていました。アイゼンハワー大統領の勸めをいただき2人の娘を同行致しました。

農務長官時代のスクラップブックには旅行でとったたくさん写真がファイルされています。私たちは美しい田園地帯を訪れ、この国の最も生産高い農業の方法を視察しました。また学校を訪ね、市場や一般の商店やデパートにも行きました。美しい史跡や神社仏閣にも案内されました。

政府の方々と会談した際に、日本の方は進歩的で、親切で、有能で、いつもあいそよい方々であることを知りました。

この国に初めてきた時、日本の方々に大きな尊敬と愛を抱くようになり、以来20年間その気持はさらに強くなっています。実際、当時最も感銘を覚えたのは、各地の視察や会談ではなく、日曜日の教会の集会でした。教会員や友人と出席した日曜学校や聖餐会、そ

れにモルモンの軍人の特別集会でした。軍人の方々は、この愛する日本で主のみ業に貢献しています。

のちに大管長会よりアジアの教会の業務を管理する責任を与えられた時の、家族の喜びをご想像いただけるでしょうか。「第一回全日本モルモン、ユース・コンファレンス」に出席した時には、実に深い感銘を覚えました。800から1,000名の若人と初めて礼拝堂で集会した日のことを、今も覚えています。きれいな、輝いた顔と黒い髪に感動しました。そこには金髪も見られなければ老いた人もいません。その時から日本のモルモンの若人を愛しています。

今、ユースコンファレンスについて詳しくお話する時間はありませんが、広い会場での見応えある卓球の試合を思い出します。同時に20試合が行われました。さけび声やかんせいはなく、技術をこらして黙々と行われました。若人の優雅なダンスも印象深い光景でした。

しかしユースコンファレンスのハイライトは日曜日の朝の証会でした。125名の立派な若人の熱烈な証を聞き、涙をさそわれました。これらの愛する若人は、福音の祝福を得ていたのです。

30分後に他の団体が会場を使うため3時間続いた証会を終えなければなりませんでした。しかしなお85名の若人が列をなし証の機会を待っていました。これらの若人と家族に神の祝福があり

ますように。私は彼らを深く愛しています。

私の家の暖炉や家具、たなそして事務所には、1969年以来教会の責任でたびたび日本を訪れた時の記念の品が並んでおり、それを見るたびにいつも日本を思い出します。

これはみな、はるかな日本の地に住む皆さんとの楽しい日々を思い出させてくれます。この東京に最初のステーク部を組織した日のことも思い出します。1970年の万国博では、恵まれてモルモンパビリオンの展示で大阪を訪れました。パビリオンのためのくわ入れ式や献堂式、閉館式では、数々のすばらしい経験をしました。万国博では約700万人がパビリオンを訪れ、約80万人が教会について知りたいということでカードに名前を書きました。

万国博が終わった日、ホテルに故佐藤首相を訪れた時のことも思い出します。その後1972年に再び大阪を訪れ、日本で2番目のステーク部を組織しました。

教会は今日、かつてなく広く名を知られています。ほとんどの地で、現在の教会は知られています。過去の反対者は力を失っています。教会とその教えは全世界少なくとも自由世界の関心をよんでいます。私は1970年の万国博で、700万もの人が狭いパビリオンを訪れたこの国に注目しました。

万国博に関連して、非常に多くの出来事があります。伝道活動と、日本に

おける教会の発展です。この日本の国民に与えられた豊かな祝福を主に感謝しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、世界の組織です。このメッセージは世界のメッセージです。モルモン経の予言者たちは、今の時代を先見することを許され、キリスト教会の会員が、比較的少ないことを知っていました。教会員が世界各地に住むことも知っていました。世界大戦の終結した1946年に私はヨーロッパに臨時に設けられた伝道部で働き、戦禍を被った世界各地をまわり、教会員が広く分布している様に胸を打たれました。

正にこれは世界の教会です。主は復活後、昇天に先立って全世界へ伝道することの大切なことを、使徒たちに最後の指示としてお与えになりました。主は言われました。「あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19、20) 教義と聖約の中でも、主は民に言っておられます。「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。」(教義と聖約1:1)

この意義ある言葉はアジアの国々にあてはまります。「汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。」

私はかつて政府の仕事で2度ほど、また教会の責任でしばしばこれらアジアの島々を訪れた時、この予言の言葉をよく引用して話しました。

1969年4月にシンガポールの地を奉獻した時、私たちは「海の島々」という言葉を思い浮かべました。台湾を訪れた時にも、フィリピンのマニラで、2,000人以上の人が集まった地方部大会に出席した時もそうでした。その7,000の島々には約4,000万の人が住ん

でいます。親切な指導者に迎えられ、1万4,000の島から成るインドネシアの地を奉獻した時も、この言葉がしきりに浮かんできました。

現在ほど教会が、アジアの国民の心を有効にとらえる力と手段を備えたことは未だかつてありません。主の時刻表では今やとびらは開かれ、アジアでのみ言葉が進む時です。訪れるたびに心の励みが増して参ります。みわざは進み、さらに広範囲に及んでおります。各国の教会の驚異的な発展には、全く心がふるいたたされます。この地域には、世界人口の約3分の1の10億人が住んでいます。もちろん、全体の人口からみた場合、み業は始まったばかりです。

世界は大きな問題や困難をかかえています。この教会の指導者は、啓示により召された神権者ですから世界の問題をはっきり見きわめ、解決するすべをよく知っています。主は教会の設立後間もなく予言者ジョセフ・スミスに言われました。「主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。」(教義と聖約1:2) また言っておられます。「この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。」(教義と聖約1:4) これらの人こそ私たちであり、私たちこそキリストの弟子なのです。

この世は邪悪です。私たちの知る限り悪魔の軍勢は隊列など組んではいません。悪魔はたくみに立ちまわり、大勢の使いを率っています。悪魔は教会の若人を減らし、家庭と家族を弱め、悪魔の大教会を通して主イエス・キリストの目的を打ち破ろうとしています。

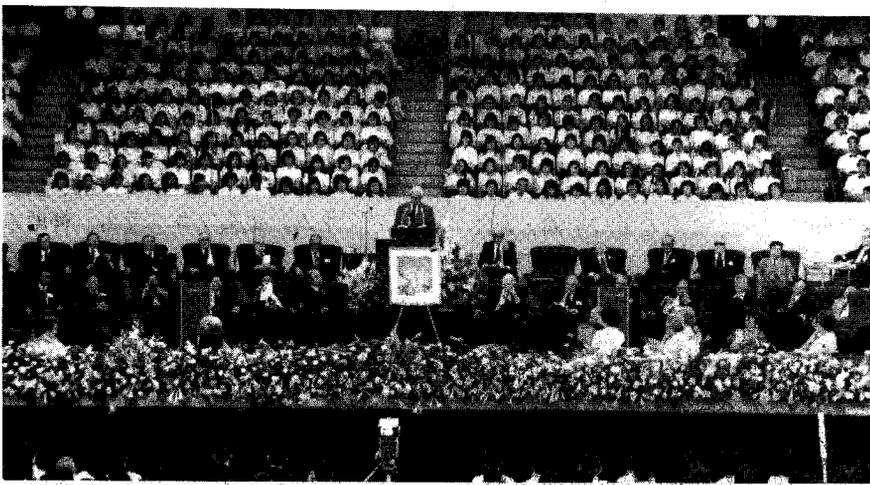
末日聖徒は、悪魔が栄えないことを

知っています。教会は今日かつてなかったほどしっかりと立っています。人数だけでなく教会員の信仰と証も強くなっています。それは、集会の出席数、什分の一と献金の納入状況、伝道プログラム、建築プログラムの進展からもよくわかります。今日教会には、すべての人に祝福をもたらす、完全な恵まれたプログラムがあります。これは真実です。

しかし、私たちは邪悪な世に住んでいます。正しく清く、気高く、堅固なものが、ほとんどすべて、かつてないチャレンジを受けているようです。そして多くの人がそれを放棄しています。困難な時代ですが、チャレンジと希望と確信に満ちた時代でもあります。私たちは人類が直面する問題に対する答えを持っています。主が望んでおられる事柄も知っています。主は私たちに、「起ちて己が光を輝かせ」(教義と聖約115:5)、国民のはたじるしとなるように告げておられます。私たちは歩むべき道も知っています。その道を歩む信仰と勇氣はおありでしょうか。そのように願ひ祈っております。

現代の啓示の中で主は告げておられます。「すなわち見よ、われ誠に汝らに告ぐ、天使らは夜昼主に向いて叫び、畑に遣わされて刈り取らんことを待ち構えつつあり。」(教義と聖約86:5) 主はまた同じ啓示の中で言っておられます。「小麦も毒麦も共に刈り入れの時充分熟するまで育つに任せよ。而して、それよりまず小麦を毒麦の中より選みて集め、小麦を取り集めたる後、見よ、みよ、毒麦は束につかねて畑は焼くばかりなり。」(教義と聖約86:7) 今はまさに「小麦を集める」時、日本





とアジア全域の義なる人々を集める時です。主は皆さんを愛しておられます。主の僕であり末日の守り手である指導者も愛しています。私たちと同様、皆さんにも偉大な伝道の業の責任が課せられています。

主はまた啓示の中で予言者ジョセフ・スミスに告げられました。「主、われは悪しき人々に対して怒り、地に住める人々には今わが『みたま』を与えず。われ怒りて誓をなし地の面に戦あれと命じたれば、悪しき者悪しき者を殺し、あらゆる人々恐怖におそわれん。」(教義と聖約63:32, 33)

主の戒めの書の「はしがき」である教義と聖約第1章で、主は次のように宣言しておられます。「地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。」(教義と聖約1:35)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は1967年に言われました。「平和はすでに地から取り去られ、悪魔は自らの領土を支配している。主のみたまは退いている。主がそのように望まれたからではなく、人類の邪悪な行ないのため主のみたまは退ぞかざるを得なかったからである。」(BYUにおける年度講話「ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の予言」1967年3月21日)

神の予言者たちは、いつの時代でも人々が悔い改めなければ裁きが世に下されることを予言しています。予言者ジョセフ・スミスの時代以来、予言者と教会の指導者は人々が悪い行ないを悔い改めない時に、この世にふりかかる災

いや破壊、疫病などについて大胆にはっきり語っています。しかし現在、最も大きな災いが起こる前のこの時代は、私たちがビジョンを持ち、キンボール大管長がおっしゃったように、歩みを早め、視野を広げ、この偉大な伝道の業を急速に、広く推し進める時なのです。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、1894年6月にブリガムシティで次のように語りました。「神は長年、小麦を毒麦と共に刈り入れることがないよう、殺りくの天使を差しとめてこられた。しかし今皆さんに申し上げたい。殺りくの天使はすでに天の門を出て、現在この民、この国民の上に立っている。また空中をはいかいし、裁きを下す時を待っている。まさに今日この日から裁きが下されるであろう。地上の災いと苦難は増すであろう。これらの事柄には目的がある。このことを覚え、考えて欲しい。私たちは自分の義務を果たすなら、守りを受け、平和と安全のうちに苦難をまぬがれるであろう。聖典と啓示を読んでいただきたい。」(同上)

まさに平和は地から取り去られています。「……もし予言が成就されれば、かつて世にない恐ろしい戦闘が世を待ち受けている。」(同上)

ヤング大管長は語っています。「長老たちの証がやみ、主が彼らに『帰国せよ、われは自ら世の国民に説き聞かせよう』と言われる時、皆さんが今知っていることは、その前置きとなる。主は火や剣、暴風雨、地震、ひょう、雨、かみなり、稲妻、恐ろしい破壊を

もって説ききかせられるであろう。」

(*Journal of Discourses*「説教集」8:123)神は、私たちがおくれず前進できるよう助けて下さいます。神はそう望んでおられます。それに答えるのが私たちの務めです。

なぜ主は悪人をお怒りになるのでしょうか。救い主を拒んだからです。

「福音を拒み、救い主を拒む者は何を受け入れるというのだろうか。ただ悪魔の計画だけである。悪魔の計画とは、人を強制し、自由意志を取り去り、好むと好まざるとにかかわらず、命じた通りに行なわせようとするものである。この考え方が世に広まっている。主は時は今や近きにありと言われた。100年以上も前に言われたのであるから、当然今はもっと近づいている。」(同上)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこのように強調されました。主がモルモン経の中で大きな約束を与えて下さったことは、すべての末日聖徒にとってなぐさめです。その約束とは、福音に生きる者は、なぐさめと確信を得るといふものです。ニーファイ第一書の最後の章で、主は予言者を通して言っておられます。「神がそのはげしい怒りを下したまい義人たちを守るために火をもってその敵を亡ぼさねばならなくとも神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。故に義人はおそれるに及ばない、予言者の言葉に『たとえ火の力を以てするに至るとも彼らは救わるべし』とあるからである。」(17節)「義人は散り乱れない者たちであるから怖れるに及ばない」(22節)、また26節にこうあります。「また聖者の民が義しいためにサタンは全く無力であり、聖者の民が義しい生活をしイスラエルの聖者が治めたもうから、サタンは民の心を支配する力がなく長年の間解放されることができない。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、このことは真実です。この業は真実です。主が予言者を通じて下された警告と約束は成就します。主は悪人を怒っておられます。世の人々から主のみたまをとどめておられます。この邪悪な世に願

うことは、福音を受け入れて従い、戒めを守り、過去と現代の予言者の警告に心を留めることです。

かつて十二使徒定員会のオルソン・プラットは、神の聖徒に下る裁きについて次のように語りました。「もし私たちが神の戒めを守らず、子孫が神の律法と、この末日に天からかがやき下った大いなる光を無視し、主なる神と神権者の勧告から心をそむけたなら、私たちは悪人と同様に罰せられ、主のみ手により裁きを受けるであろう。その時、主が教義と聖約の書に述べられた言葉は成就するであろう。『シオンが正しきにあらざれば、われは激しき苦悩と疫病と、剣と、飢饉と、焼尽す火をもってシオンを訪れん。』」

(オルソン・プラット「説教集」第12巻 p.345)

ブリガム・ヤング大管長は、こう語りました。「末日聖徒は、この世のものを追うのをやめ、心を改めて、父なる神から与えられたみ業を行なわなければ、<sup>かた</sup>価なき無益な僕として一掃され

るであろう。(ブリガム・ヤング、「説教集」第18巻 p.262)

末日聖徒には将来に大きな希望があります。神の戒めに生きる時、私たちは明るい期待をもって主の再臨を待ち望めるのです。また自らの努力により愛する人々と永遠に神のみ前に住めるのです。この大きな目標を達成することは、難しくありません。少しの間も気をゆるめではなりません。日々<sup>の</sup>生活にあって、自らの意志を明らかにし主のみこころを行ない、回復された福音を宣べ伝え、世に証を述べ、福音を人々とわかちあわなければなりません。日の光栄の王国に住むためにはすべてこのことが必要とされます。

皆さんはこの地の偉大な方々です。私の孫である、帰還宣教師のステイブン・ベンソン長老がこう語っていました。「日本の聖徒は、どの国の教会員にも劣らず、非常に勤勉で献身的な方々です。私はいくども時間と才能と労力を主のみわざに捧げる姿を目にしました。こうした献身を目にすること

は、実に心温まる経験でした。」

皆さんは、子供の頃から従順と、尊敬、思いやり、威厳について教えられ、勤労と教育と忠誠心の価値を知っていらっしゃるので、末日聖徒としての生活に入ることは容易です。主は皆さんを愛しておられ、皆さんが召しを力いっぱい果たし、主と交わした誓約に忠実であれば、主は喜んで祝福を授けて下さいます。そのことが果せるよう祈っております。

この安息日にあたって証申しあげます。このみ業は真実であり、全世界で最大の業です。末日聖徒である私たちは真理の守り手です。神は、この偉大な真理を友人や隣人に宣べ伝えるよう望んでいらっしゃいます。神は生きておられ、イエスはキリストです。ジョセフ・スミスは、この御二方にお会いしました。これは救い主の復活後起こった最大の出来事です。これらのことが、まことに真実であることをイエスキリストのみ名によって、へりくだり証申し上げます。アーメン。

8月10日(日)一般大会午後の部における説教

## 私が目にした 最大の奇跡

日本東京ステーキ部部长

菊地良彦



**私**は謙遜な気持でイエス・キリストの福音が真実であることを証いたします。地域総大会が発表されましたとき、私の心に次の聖句が思い出されました。「唯一の人たりともわれに導かば…汝らの悦び如何ばかりぞや」(教義と聖約18:15) またもうひとつの聖句は、「この故に汝ら教会員は、彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言葉とを皆心にとめてよく

聞き、わが前に全く聖き道を履むべきなり。そは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くがごとくにこれを受るべきなればなり」(教義と聖約21:4、5)

私はこの聖句を思い出し、主よりいただく沢山の霊の恵みに感謝しながら、次のように思い浮かべました。「汝ら聖徒よ、来たれ来たれ、主の予言者に耳を傾けよ。そはキンボール大管長な

れば、あたかもわが口より聞くがごとくにこれを受けよ」と主は言われると。

そこで私たちは今日ここに、愛する者たち、友人、恩師、親戚、仕事の同僚、隣人、今まで教会に来ていらっしゃらなかった方々、兄弟姉妹に参加していただくよう準備を始めました。4月の総大会でキンボール大管長は次のように言われました。ある著名な方がソルトレーク・シティーを訪問されま



して、そのときに次のようにキンポール大管長に尋ねました。「なぜモルモンは幸せな民なのですか。」大管長は答えて、「私共はすべてを持っております。イエス・キリストの福音、すなわちそれは光であり、神権であり、権能であり、契約、そして聖約、神殿、そして楽しい家庭です。私たちは真理を持っているのです。」

本日私はここに、今日に見る最大の奇跡の数々を皆さんにお伝えしたいと思います。私たちのステーキ部において、兄弟姉妹が本当の改宗をし、隣人、兄弟姉妹に対して心から関心を寄せたという奇跡です。兄弟姉妹、監督、ホームティーチャー、家庭訪問教師、高等評議員、副ステーキ部長、その他多くの兄弟姉妹による魂の癒しの奇跡です。ある若い姉妹は、断食と祈りによって御家族全員を今日この大会にお連れ下さいました。当初、御両親はその姉妹が教会に行くことすら反対しておられました。彼女は両親にこの大会に是非出席してもらいたいと思い、断食しお祈りいたしました。そして長い手紙と一緒に住んでいる自分の両親宛てに宛てて書きました。その手紙が着く頃、再び彼女は断食しお祈りをしました。そしてある夜、仕事から帰ったお父さんがこう言われたのです。「お父さん

とお母さんは、一緒に大会に行くことにしたよ。」ある高等評議員は、隣人を自分の夕食に招きました。そしてその方は今日ここに出席しておられます。彼は専任宣教師として伝道していたときは優秀な宣教師でした。でも彼にとって隣人に福音を分ち与えるということはなかなか大変なことでした。しかしこの地域総大会を機会に、彼と彼の奥さんの心の中には、隣人に福音を宣べ伝えるという偉大な奇跡が起こりつつあります。

ある帰還宣教師の話をしたと思います。彼は15年前にある年老いた姉妹にバプテスマを施しましたが、その方は長い間教会に出席しておられませんでした。住所も見つからず訪問できないでいたのですが、奇跡的に探し出すことができました。今日その姉妹と娘さん御夫婦がこの大会に出席しておられます。ある高等評議員は4ヵ月間、家庭の夕べを除いて毎晩、兄弟姉妹たちにこのよきおとずれを伝えました。16年前にバプテスマを受けられましたある姉妹ですが、それ以来全く教会に出席されず、住所不明でした。この姉妹も奇跡的に住所が見つかりました。本日この大会には来ておられませんが、彼女のもとには美しい家庭の夕べの本が届けられ、彼女も教会に来たいと言

っておられます。御年配のある姉妹は、25年間他の教会の非常に熱心な会員でした。彼女はその教会で働けば働くほど、キリストに対する信仰と安らぎを得ることができませんでした。そしてこの教会に改宗し、今、御自分の生徒や親戚や家族、そして今特に妹さんと娘さん御夫婦にこの教えを宣べ伝えておられます。ほとんどの若い兄弟姉妹は、宣教師とカップルになり、この2、3ヵ月一生懸命伝道しています。私は宣教師とこれらの若い兄弟姉妹に心から敬意と感謝を表したいと思います。ある監督会は宣教師を非常によく助けました。沢山の家族が求道者として訪れましたが、この3ヵ月間、ワード部の兄弟姉妹、家族が一丸となって一生懸命にこの新しい家族を助けました。その結果、大勢の兄弟姉妹、家族が教会員となりました。この歴史的な大会により信仰は高まり、永遠の誓約は確立せられ、偉大な奇跡が会員の中の起こっているということは、何と素晴らしいことでしょうか。

り大管長は以前、次のようなことを言われました。「今日私が目にする最大の奇跡は、病める人の癒しではない。そうではなく、心に悩みを持ち、落胆し、とりみだし、坐折し、そしてその坐折する一歩手前にある人々への

助けである。それらの人々も主の前に大いなる人々である。だれひとりとして忘れてはならない。」

私の会社の30歳を過ぎたある店長の話をしたと思います。彼の姓は何度か変わりました。生まれて間もなく父親を亡くし、母親も家を出てしまい、彼は孤児となりました。孤児院やいろいろな家庭を転々とし、学校もろくに卒業しませんでした。彼は何度か死ぬかと思いました。今まで4度自殺を図りました。良い仕事を見つけることができず、彼は孤児院から学校へ通いました。そしてつい最近、ハワイにいる自分の母親を見つけ出すことができました。昨年彼は私の会社に面接にまいりました。彼は私の会社の支店長に昇格いたしました。ところがこの3ヵ月位の間、彼は体の調子がすぐれず、何度か休みがちでした。私はこの方を訪問いたしまして、どのような事情があるか尋ねました。そして彼の脳に悪性の腫瘍があること、今までの自殺の後遺症として心臓が弱っていることを初めて聞きました。私はその後で断食しお祈りしました。そして彼にもう一度、この教会と神権の祝福について話す機会を得ました。私がモルモン教会の会員であること、教会に行っていること

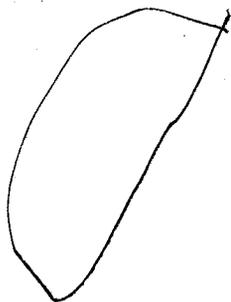
を説明しますと、彼は待っていたかのように、教会に連れて行って下さいと言ったのです。私はこのことから偉大な教訓を学びました。彼はこう言いました。「菊地さん、私はあなたの教会に入りたいと思います。私は明日、ハンコを持っていけばよろしいのでしょうか。」「いいえ、教会に入るためには、罪の許しを受けるバプテスマを受けなければなりません。」「私にぜひそのバプテスマを受けさせて下さい。私はバプテスマを受けて清くなりたいんです。」兄弟姉妹、彼は先週の土曜日バプテスマを受けました。私は彼の証を聞いて涙が出ました。私は何と美しい霊と交わったのだらうと思いました。

兄弟姉妹の皆さん、本当にすべての人は皆さんの美しい模範と、そして真実の模範を必要としています。家庭で、学校で、教会で。「畑は早白くして刈り入れを待つが故なり。」「汝ら完き清き道を踏み行ふべし。」「我御父の国において、我のもとに導き来る唯ひとりの人につきて汝らの喜び大いならば、汝らも多くの人々を我に導き来たらば汝らの喜びはたして如何がかりぞや。」私は神様が生きたもうことを証いたします。イエスが私たちの救い主であり、この教会はイエス様御自身の教会であ

ると心から申し上げたいと思います。モルモン経が神の言葉であり、私たちの前にお座りのキンボール大管長が神様の真の予言者であるということ、皆さんに証いたします。私はキンボール大管長について皆さんに証したいと思います。

キンボール大管長は2年前の東京ステーク部の大会に十二使徒の会長として来日されました。ステーク部長会を開こうとしていたときです。私たちは幹部の方にはステーク部長の席に座るようお勧めします。しかしキンボール大管長は、「いいえ、田中部長、私はあなた方の僕です。あなた方の僕ですから今日ここに来ました。この席に座るのはあなたです。私ではありません」と言われました。そして折りたたみの椅子にお座りになられたのです。隅のかしら石であるイエス様の代理人として教会を預かっている方はそのような方です。私はこの方がまさしく神の予言者であることを皆さんに証いたします。この証をイエス・キリストのみ名を通して申し上げます。アーメン。





## 聖典を読もう

十二使徒評議員会補助

アドニー・Y・小松

**愛**する兄弟姉妹の皆さん、今私は皆さんの前に立って、この地域総大会に出席して得た大きな祝福を主に感謝したいと思います。また大会において強いつまを感じ、キンボール大管長や他の教会幹部の方々が与えてくれた教えや指導に心から感謝しています。

特に神殿をこの日本の地に建てるといふ発表を聞き、喜びと感謝の気持で一杯です。また、この発表を聞いたとき、1970年の9月にソルトレーク神殿で働いたときのことを思い出しました。そのとき皆さんは2機の飛行機をチャーターし、ソルトレークを訪れ、神殿でエンダウメントと結び固めの儀式を受けられました。恵まれました、私たちもハワイから神殿職員として参加することができました。

私が神殿訪問のグループの人々の家族とその死者のために結び固めの儀式を行っていたときのことでした。儀式を始めてから私はふと、今この歴史的なソルトレーク神殿で、日本人の家族の結び固めの儀式が日本語で、しかも何の言葉の障害もなく日本人によって行なわれているのだということに気がついたのでした。この神聖な儀式がすべて日本語で行なわれているからには、主は必ずいつか日本人の人々に神殿を与えられ、ここで受ける何百倍もの祝福が日本人の上に注がれる日が来るにちがいないと思いました。昨日神の生ける予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長は、東洋のすべての人々のためにこの東京の地に神殿が建てられることを発表されました。

この祝福は皆さんの地上での生活だけでなく、永遠にわたって続くものです。しかし、神からこの祝福を受けるために、私たちがしなければならぬことがあります。主は予言者ジョセフ・スミスを通じて次のように述べておられます。

「そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」（教義と聖約130：20、21）

ここで主が言っておられることは、私たちが神からの祝福を受けるためには、祝福の基く律法に従わなければならないということです。ですから、私たちが神殿で祝福を受けたいならば、私たちは什分の一を正しく、完全に納め、知恵の言葉を守り、教会の幹部や役員を支持しなければなりません。また、道徳的にも清く、世の中の罪に染まらないようにしなければならぬのです。また、教会のいろいろな集会にも出席しなければなりません。私たちがこのような教えを完全に守るならば、主は私たちに神殿に入るための資格を与えて下さいます。

神殿の推薦を受ける資格を持っているすべての会員は、自分のエンダウメントを受け、主の宮居の完全な祝福を





受けることができます。

ですから、私たちは日本にこの神殿を建てるために、私たちのすべてを捧げなければなりません。そうすれば、主は私たちの努力に対して大きな祝福を与えてくださるにちがひありません。

一年前、キンボール大管長はステーク部長、伝道部長および地方部長を通して、教会の神権指導者に父親と神権定員会を強めるように指示されました。

そのとき、予言者が述べた多くの事柄のうち、聖典を読んで研究することについて考えてみたいと思います。キンボール大管長は教会のいかなる指導者も忙しいからと言って、毎日神の言葉を勉強するのを忘れることのないよ

うにと言われました。

もし、キンボール大管長が神権の責任にかかわらず、教会の指導者に忙しすぎて聖典を毎日読んで研究することを忘れてはいけないと言っているなら、教会の会員である私たちはどうでしょうか。

私たちは指導者よりももっと聖典を勉強する必要があると思いませんか。聖典を読み、神のみ言葉を研究すれば、私たちの霊性はますます高められます。反対に、聖典を読む回数が減るに従って霊性は低くなります。

どうか私たちが聖典をよく読み、研究することによって、主のみ言葉を理解することができますように。

また、私たちがその教えを忠実に守ることによって、ふさわしい会員となり、主が主の王国で働くように私たちが召されるときは、いつでもその用意ができるようにしたいと思います。

私は主が生きていらっしゃることをはっきり知っています。また、主は私たちの祈りを聞き、答えてくださいますことも知っています。またイエスはキリストであり、スペンサー・W・キンボール大管長は神の予言者であります。これらの証をすべてイエス・キリストのみ名によって申し上げました。アーメン。

# 証

十二使徒評議員会補助

O・レスリー・ストーン



**愛**する兄弟姉妹の皆様、時間の関係上、話の原稿を離れて、現在私の心にある思いを少しの時間申し述べたいと思います。私はこの福音がイエス・キリストの真の福音であることを知っています。今日、私たちと席を共にしている予言者は、私たちを導き、神の王国の建設の歩みを早めるべく力を尽くしておられます。このことを皆様方全員が知っていただきたいと思います。証について多くの方が話して参り

ました。証は確かに、末日聖徒が所有できるものの中で最も価値あるもののひとつです。しかし証それ自体が皆様を日の光栄の王国に至らせるものではありません。私たちは証に関連して何かをしなければなりません。行動を起さなければなりません。

それはなぜでしょうか。サタンはこれがイエス・キリストの真の福音であることを知っています。現在教会に活発に集っていない多くの会員も、福音

が真実であることを知っています。けれども彼らは、それについて何も行なっていません。ですから、日の光栄の王国に入りたいと願うならば、兄弟姉妹の皆様、私たちはイエス・キリストの福音に従って生活しなければならないのです。福音を生活の中に取り入れなければならないのです。

ハロルド・B・リー大管長が証について語った言葉がございます。証とは今日私たちが持っている何かではなく、いつも持とうと心掛けているものである、という言葉です。証はもろい、とリー大管長はおっしゃいました。証は月の光と同様につかまえていることがむずかしいのです。それは日々得なければならないものなのです。

私は皆様を愛し、尊敬しています。これまで日本の方々にお会いするたびに、いつも尊敬と愛の気持を覚えて参りました。また、東京に神殿が建てられるという発表をうかがい、深い感動を覚えています。

私の証と祝福を残したいと思います。私は、イエスがキリストであり、ジョセフ・スミスが神の予言者であることを存じています。今日の神の予言者が私たちを導いておられます。皆様に私の証と祝福を残し、また私たちがこの地域総大会に出席する機会をいただいたことをキンボール大管長に感謝致したいと思います。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン

# 心を備えよ

大管長

スペンサー・W・キンボール

**愛**する兄弟姉妹ならびに友人の皆様。この栄えある大会を終えるにあたって、私たちは皆様に愛と感謝とをお伝えしたいと思います。

私たちはこの大会で聖歌隊のすべての合唱を心ゆくまで堪能致しました。そして今日は、1,200名の大合唱に圧倒された思いが致しました。人数ばかりでなく、声も美しく見事でした。

私たちは日本の皆様から数多くの教訓を学ばせていただきました。謙遜、礼儀、親切について学ぶことができました。皆様とこの国の方々に対する大きな愛を持って帰国したいと思えます。忠実な兄弟たちの捧げて下さった祈りと説教を感謝致します。ここで再び皆様に、私たちが皆様に対して抱いている大きな信頼と深い感謝の気持を表わしたいと思います。

心残りではありますが、間もなくこの大会も終了致します。本当にすばらしい3日間でした。私たちが得がたい経験としてこれを日記に、また心に記しておきたいと思えます。

皆様のステークス部には祝福師がおいでになります。伝道部の会員の方々は適切な手続きを踏んで推薦を受け、ステークス部に行って祝福を受けて下さい。祝福師の祝福は、さながら道路の中央に引かれた白線のようなものです。それは最も大きな幸せを見いだせる道を示しているのです。

一昨日私たちは、ステークス部長と伝道部長を交えて非常に大切な会合を持

ちました。そこで全員目に涙して、主の神殿を建てる決意を固めたのでした。

私たちがソルトレーク空港を発つときに、新聞記者たちが、「新しい神殿を発表なさる予定ですか」と尋ねて参りました。そこで私は、「もし知りたければ新聞記者に尋ねて下さい」と申し上げ、何の約束も致しませんでした。私たちは、アジアの方々がまず自ら決意していただきたかったからです。一昨日の会は感銘深いものでした。消極的な気持は露ほども見られませんでした。ある兄弟たちは、この新しい神殿の建築にすぐにでも献金を始めたい勢いでした。

この神殿の用地は格好の場所にあります。皆様はその敷地についてよく御存知だと思います。しかし、神殿が建てられるものかどうかお知りになりたいのではないかと思います。私たちはこの件について東京の建築士と話し合いました。そして親切で思いやり深い応対を受けました。

この神殿建築の発表が全世界に伝えられるよう願っています。もうすでにニューヨーク、ロンドン、パリ、南米、その他世界各地の新聞に報じられていることと思えます。

私たちは2、3年のうちに新しい神殿を献堂するつもりでいます。ある幹部が申しましたように、今日この聖なる一時、この会場には私たちの目に見えない訪問者がおられるように思われます。これまでの12名の大管長は皆、

この東京に神殿が建てられるという栄えある夢を見ていたことと思えます。この世界は、この世を去った人々の行く世界からそれほど遠くはないのです。次の世にいる方々が時折この世を訪問なさるということを私たちは知っています。そして本日、ジョセフ・スミス、ブリガム・ヤング、それにヒーバー・J・グラントを含む歴代の大管長が皆、確かに私たちから遠くない所にいらっしゃると思えます。

今日を契機に、私たちは新たな目的と新たな標準を打ち立て、なお一層働き励みたいと思えます。そして明日から大いなる活動が展開されるよう願って止みません。各伝道部で伝道が急速に進み、改宗者が増すことでしょう。また同じく各ステークス部で集会の出席者が増し、活動に拍車がかかることでしょう。またさらに多くの方が伝道に出るよう願っています。そうするときに、伝道を終えて帰る日本人の宣教師は、自らの家庭に、また教会に新しい感化と熱意ををもたらすことでしょう。

今後、これまでになく多くの人々が完全な什分の一を納めるようになると思えます。家庭での祈りも定期的に行なわれ、その敬虔さも増すことでしょう。家庭には、新たな息吹が吹きこまれ、献身と忠実さが増すに違いありません。若人の皆様は将来の結婚を計画するときに、神殿と神殿結婚に思いをはせることでしょう。そして、この大きな祝福にあずかるにふさわしく、備

えをする必要があることを自覚するに違いありません。木々の間にそびえる神殿を目にしながら、皆様は献堂の日に備えることでしょう。

私たちは神殿の献堂式の折に再び皆様のもとに戻って参りたいと心から願っています。その日には、すべての末日聖徒が献堂式に列席したいと願うことでしょう。割当てを受けてこの国を訪れる幹部の兄弟たちは、この献堂式を心待ちにすることでしょう。

私たちはこの地の指導者の方々を心から誇りに思っています。皆様は指導者の方々を愛し、敬い、共に奉仕していただきたいと思ひます。

この広大なアジアの地で、日本に最初の神殿が建てられることは、極めてふさわしいことです。主はこの大切な福音の儀式を重要視しておいでになります。主は神殿の業に関して幾つかの非常に大切な啓示を予言者ジョセフ・スミスにお与えになりました。教義と聖約131章にはこのように記されています。「日の光栄には三種の天界、すなわち三種の階級あり。而してその最も高きものを得んために、人はこの神権の位（すなわち新しく且つ永遠の結婚誓約を言う）に入らざるべからず」（教義と聖約131：1、2）この啓示は家族の生活を非常に強調しています。人は正しい神権の系統を通してこれにあずかなければ、この高い光栄の階級を得ることはできないのです。

大勢の人々はこの世を去って偉大な裁き主のもとへ行つたとき、「なぜ私は最高の光栄の階級をいただけないのですか。私は善人を通したのに、なぜそれをいただけないのですか」と尋ねるかもしれません。すると永遠の裁き主はおっしゃるでしょう。「あなたは私の言ったことを行なわなかった。あなたは自分の思いと私の思いを同じに扱った」さらに主はおっしゃるでしょう。「計画を立てたのは私であり、私が定めを設けた。あなたは他の祝福を受けることができるかもしれない。しかし日の光栄の王国に属する祝福は得られない」

私がアリゾナに住んでいたとき、私たちの町に、ある善良な男の方が住んで

いました。その方はもう亡くなりましたが、生前、その方と美しい奥さんと教会の教えを受け入れませんでした。そして御主人の亡くなった後、その奥さんはこう申しました。「私たちは永遠に夫婦です」と。彼女は何千回でもこのように言うことはできるでしょう。しかし実際にはそのようにならないのです。その理由は、この夫婦が十分にへりくだって結婚の律法に従わなかったからです。彼らは数々の祝福にあずかれるかもしれませんが、けれども昇栄は得られないのです。この昇栄は、忠実な、神の戒めに従う人々のために備えられているのです。

一般に主は、人に語りかけ、新しい啓示を下されるときは、あらかじめ聞く者の注意を喚起なさいます。「見よ、われ汝に告ぐ」あるいは「誠にまことに、われ汝に告ぐ」と仰せになります。と申しますのは、神は言葉を下されるときは、聞き逃がしてはならない大切な事柄を告げられるからです。この啓示の場合もそのように告げておられます。「この故に、わがまさに汝に与えんとする教えを受け入れてこれに従がわんため、汝の心構えをなすべし。すべて、この律法を啓示さるる者共はこれに従わざるべからざればなり。見よ、われ汝に一つの新しく且つ永遠の誓約を啓示す。而して汝らもしこの誓約を守らざる時は行き止りとなるべし。何人もすべてこの誓約を拒絶するを得て、而もわが光栄に入るを許さるる者あらざればなり」（教義と誓約132：3、4）

先程申し上げました夫婦は、必要な業が行なわれるまで、決して昇栄にあずかることはないのです。

ユタ州北部に住んでいたある若い男女が、結婚するためにソルトレーク・シティへ参りました。ふたりは神殿結婚をする気持がありませんでした。あるいはふさわしくないと考えたのかもしれません。いずれにせよ、ふたりは民事結婚を致しました。結婚式を終えると、故郷で催されるレセプションに出るため、自動車に乗って出かけました。ところがその途中で事故に遭ってしまったのです。そして大破した自

動車の中で、その若い男女は亡くなったのでした。ふたりが夫婦でいた時間はわずか1、2時間でした。それで結婚は終わったのです。ふたりは互いに愛し合っていました。永遠に一緒にいたいと願っていました。しかしそれを可能にする戒めに従いませんでした。その結果、死をもってふたりの結婚は終わったのです。このふたりは善良であったかもしれませんが、しかしたとえそうであっても、天では天使にしかなれないのです。このふたりは、神にも女神にも、祭司にも女祭司にもなれません。なぜならば、神の戒めに従わず、求められたことを行なわなかったからです。

時々ある人々は、「ああ、そのうちに神殿に行きましょう。でもまだよく準備ができていません。もし私が死んだら、誰かが神殿で私のために儀式をして下さるでしょう」と申します。

このことをはっきりと皆様に知っていただきたいと思ひます。神殿は生きている人々と、この世でその恩恵にあずかる機会のなかつた死者のためにあるのです。主をあなどれますでしょうか。主をないがしろにしたこの若い男女に、主は祝福をお与えになるとお思ひになりますか。「結ばれざる一切の誓約は人の死を以て終りを告ぐればなり」（教義と聖約132：7）と主は言っていました。

この神殿は大勢の日本人のために建てられるものです。大勢の人々が福音を聞く機会を持たずに亡くなっています。天にはその時機を待ちこがれている霊が満ちています。神殿がなかった時代にこの世に住んでいた私たちの先祖のために、神殿は建てられているのです。神殿は聖なる目的のためにあるということを教えられた人々だけのために建てられるものではありません。もちろん、愛する血縁の方が彼らのために儀式を行なうことはできます。けれども、偉大な全地の裁き主は私たちが神殿をよく使ったかどうかを裁かれるのです。

この啓示の中で、主は何度も繰り返しておっしゃっています。「この故に、彼らこの世の外に去る時は、めとり嫁

ぎすることなくして彼らは天に於て天使に任命せらる。而してこれらの天使は……奉仕の僕なり。」(教義と聖約132:16)

天使は祝福を受ける人々に仕えるのです。

アブラハムは祝福を受けられるよう自らを備えたので、主のあらゆる祝福を授かったと、主はおっしゃっています。次いで私たちにこのようにおっしゃっています。「この故に汝行きてアブラハムの業を為せ。」(教義と聖約132:32)と。

主は、すでに神殿の祝福を受けたふさわしい人々について、次のようにおっしゃっています。忠実な人々は、「神々となるべし。彼らは終りなければなり。されば彼らは続く故に永遠より永遠に至るべし。それより彼らはすべてのものの上にあらん。すべてのもの彼らに従えばなり。それより、彼らは神々とならん。彼らはすべての機能を有し、諸天使彼らに従えばなり。」(教義と聖約132:20)「汝らわが律法を守るにあらざればこの光栄に達するを得ず。」(教義と聖約132:21)

多くの方々は、天使になればたいしたものだと考えています。しかし、私たちが忠実であって、神殿の儀式を受け、完全にふさわしい生活をするならば、天使以上の存在になれるのです。そして天使は私たちに仕えるのです。

そのために間もなく神殿が建てられるのです。資金の不足で神殿の建築が遅れるようなことのないようにしていただきたいと思います。昨日申し上げましたように、すべての幼ない子供たちに、この神殿の建築を手伝う責任を自覚させていただきたいと思います。この神殿は子供たちが成長したときに利用する神殿なのです。

私たち家族のひとりの子供は、ニューヨークに住んでいます。その地の教会員は、ワシントン神殿の建築を手伝うことになりました。私たちがその家庭を訪れたとき、孫たちがこう申しました。「今週はデザートがないの。だって、僕たち、神殿のためにお金を貯めてるんだもの」と。こうして孫たちは、将来自分たちが参入する神殿のた

めに、お金を貯めていたのです。

すべての子供たちは、将来自分たちのものとなる神殿のために、何千円もの献金をすることができると思います。この地域総大会で発表された事柄の中で、恐らくこの神殿建築の発表が最も大切であると思います。私たちは、フィリピン、香港、台湾、韓国にもこのメッセージを携えて参りたいと思います。

これは皆様の神殿です。日本人以外の方々もこの神殿を建てるのを援助し、これを使用していただきたいと思います。今このすばらしい大会を終えるにあたって、皆様に私たちの祝福をお残ししたいと思います。皆様の仕事が成功し、また皆様が信仰を失うことなくすべての面で耐え忍ぶことができますように。

もう一度申し上げますが、この国に住む1億1,100万の人々に福音を説くことは皆様の責任です。次いで皆様は、海を越えて大陸へ渡り、何億もの中国人に福音を伝えることになります。

福音に国籍はありません。全世界の人々はすべて神の息子であり、娘なのです。皆、私たちの兄弟姉妹です。主イエス・キリストが下された大切な戒めを私たちは果たしたいと心から望んでいるのです。主は11人の使徒だけにおっしゃったわけではありません。皆様にも、私にもおっしゃったのです。そ

してこれは、軽々しく扱う類の言葉ではなく、はっきりとした戒めなのです。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15)全世界のすべての男女に宣べ伝えよということです。

皆様のお子さんが、福音に忠実で気高く成長なさいますように。皆様の心に平安がありますように。皆様がこの業が神のみ業であるという証を得て、さらにこの大いなる業にまい進なさいますように。

ニューヨーク州の森でひざまずいて祈った少年が、主の予言者として立てられたことを、私は存じています。この少年はニューヨーク州の森の中でひざまずいて祈ったときに、父なる神とその御子にまみえました。この少年は主の予言者になる方でした。彼を通して与えられた啓示は、まさしく神より下されたものです。彼は世の人々に福音を説く門戸を開いたのでした。私はこのことを存じています。これが事実であることを確かに知っています。私は彼が着手したこの偉大な業を進めるために、余生を捧げたいと願っています。皆様に私たちの愛と祝福を差し上げたいと思います。私たちの主イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。







さて、私の兄弟らよ、

神は民がどこに居ってもこれを心に

かけ、これを数え、自身の心に満ちている慈

恵みの恩恵を全世界に及ぼしたもう。これが私の

喜びであり、また私が非常に感謝をするところ

である。私はとこしえに私の神に

感謝を捧げよう。アーメン

アルマ 26:37

